

近藤圭義

博物新編講義

四

特38

556

共四本



博物新編講義卷四目錄

鳥獸略論

象論

虎類論
內載獅子

豹論

熊羆論

駱駝論

胎生魚論
鯨魚

無翼禽論

明治十年圖書類

犀論

虎論

犬論

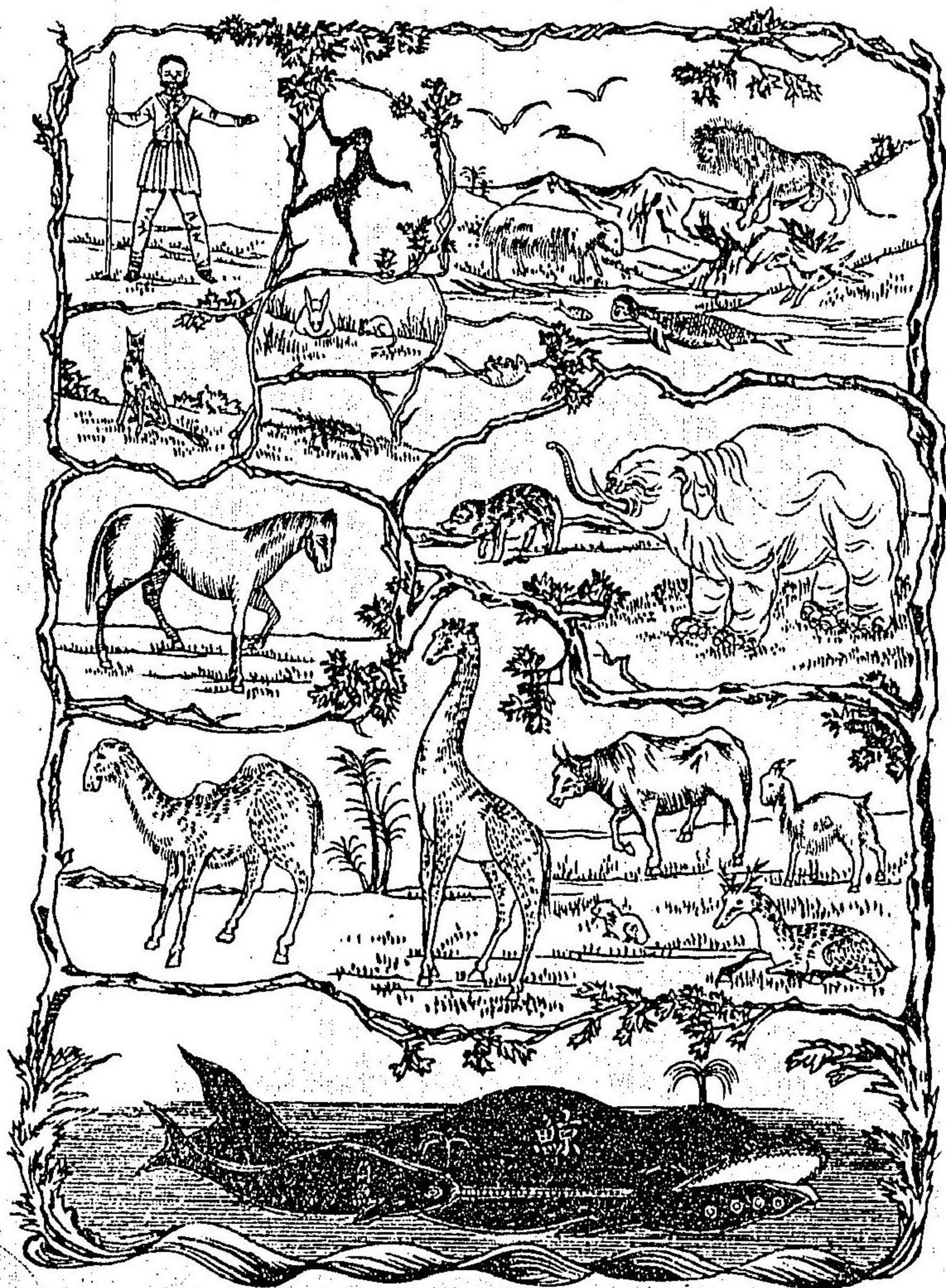
馬論

齒獸論

鷹類論

涉水鳥

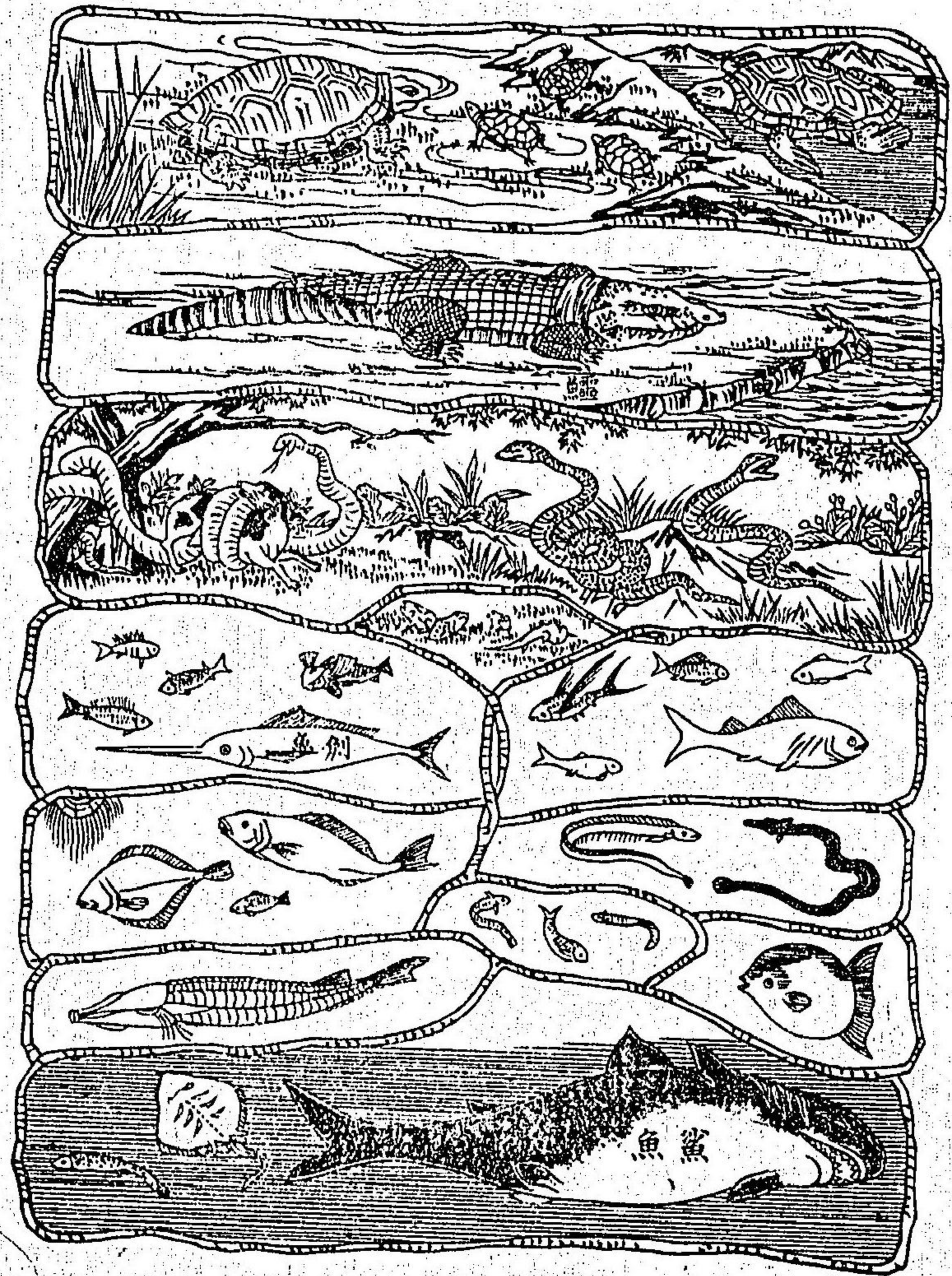
胎生類



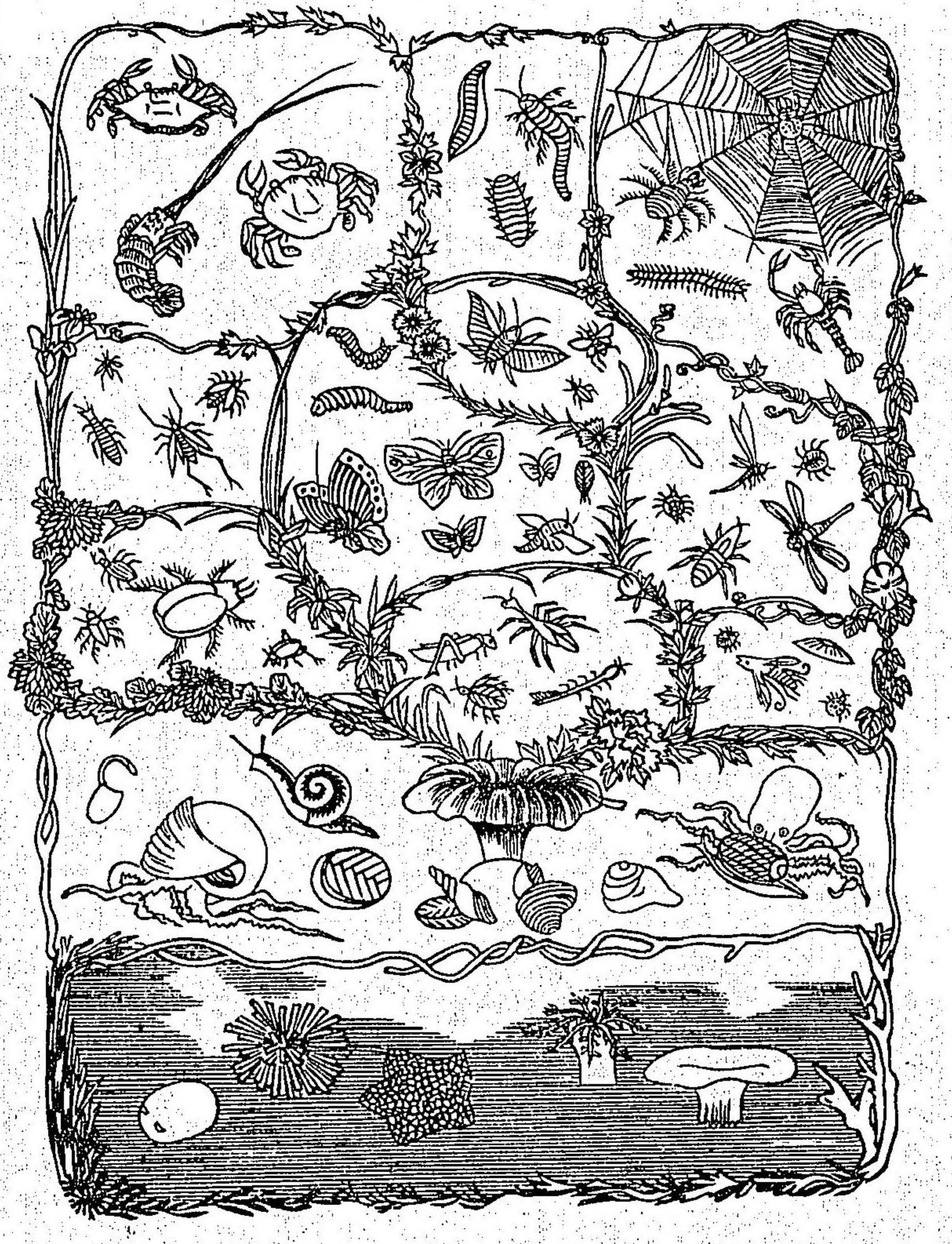
卵生類



鱗介類



昆蟲類



博物新編講義卷之四

英國 合信氏 著
三河 近藤圭造 講義

鳥獸略論

天地間ノ萬物大ニ別テ三類ニ分ケル。一曰動物、二曰植物、三曰礦物。動物ノ中ニ鳥獸ノ類有リ。鳥獸ノ種類甚ク多シ、人其名ヲ知ル者少シ。是ヲ冷セハ、多クシテ其性ヲ識ル者計ルニ三十萬種ヲ得其脊骨アルノ属一ヲ胎生トナシ、二ヲ卵生トナシ、三ヲ魚類トナシ、四ヲ介類トナス、四類ノ中胎生最モ靈トス、西洋人其類ヲ分ケテ八族トナス、一曰羣族、犀象、馬ノ如キ是ナリ、二曰脂族、江豚、海馬、鯨、鮫ノ如キ是ナリ、三曰鱗族、魚ノ類、四曰介類、甲殻ノ類、五曰軟體類、螺貝ノ類、六曰昆蟲類、蜂、蝶、蚊、蠅、蜘蛛ノ類、七曰植物、竹、木、草ノ類、八曰礦物、石、土、砂ノ類。

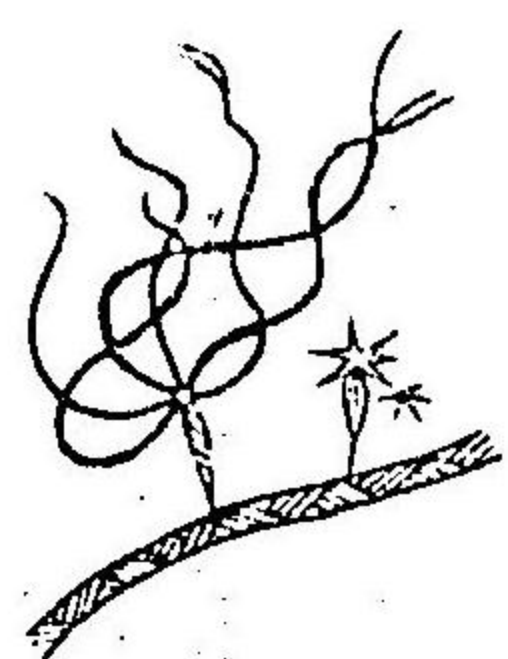
器無器ノ二体ニ
分ツルハ、動物ニ
物各性命アリ、養
ヒニ因テ成長ス、
是ヲ有器体トシ、
金石氣類ハ性命
ナシ、只附着ニテ
成長ス、是ヲ無器
体トス、然レハ化
學ノ有機無機ノ
二体ト異ナリ、混
ス可カラズ、此書
終リニ動物一類
ヲ以テシ、未ク植
礦ニ學ニ及ハス、
故ニ前一集二集
ニ於ケル、頭注
ニ於テハ

リ、三ヲ翻鶴族トス、牛羊駝鹿ノ類ノ如シ、四
ヲ食蟻族トス、穿山甲ノ類ノ如シ、五ヲ錯齒
族トス、貂蝟兕鼠ノ類ノ如シ、六ヲ啖肉類ト
ス、猫獅虎獺豺熊ノ類ノ如シ、七ヲ飛鼠族ト
ス、蝙蝠ノ類ノ如シ、八ヲ馬族トス、獼猴ノ類
ノ如シ、各種各族皆自然ノ性アリ、蜂ノ蜜ヲ
釀シ、鳥ノ蛋ヲ飽キ、魚鱉ノ鮠ヲ生ツケ、蛛蟹
ノ絲ヲ吐キ繭ヲ作ルガ如キ、均シク本原ノ
智ニ出テ、教ヘス學ハス、減セ増サ、唯獸類ハ
始メ原ノ智ヲ練増ス者アリ、蓋シ其耳目鼻
口心ノ五官ノ妙用ニ因テ、各長スル所アリ

了ヲ揚ク、讀者之ヲ
了セヨ、
譯注者識

植物

動物ノ二物、理ニ
於テ頗ル同シ、試
ミニ言ハ、海特
ハ動物ナレ、水
中ニ居テ行動ス
ル能ハス、①ヲ骨



トシ
トシ
トシ
トシ

周ニ長足アリ、食
物ヲ撈モス、偶々

鹿兕ノ善ク聽キ、猫虎ノ善ク嗅キ、獼猴ノ善
ク覺リ、食肉類ノ善ク視ルカ如キ、愈々老テ
愈々靈ヲサル者ナシ、蛇耳ノ喜ンテ樂ヲ聽
キ、鷹目ノ能遠キヲ望ガ若キハ、亦本原ノ質
ヲ以テスレ、凡ハ加ルニ習學ノ智ヲ以スル能
ハス、夫レ天ノ物ヲ生スル各其宜ニ適ス、魚
浮テ胞ヲ以テシ、游グニ翅ヲ以ス、鳥飛ブニ
翼ヲ以テシ、冷ヲ禦クニ茸毛ヲ以テス、鵝
鴨ノ能ク游泳スルハ、其掌ヲ以ナリ、鶴鷺ノ
食ヲ水ニ覓ルハ、項足長キヲ以ナリ、蝙蝠ハ
足ナクシテ地ヲ行ク能ハス、則チ翼ノ端ニ

小虫其足ニ觸ル
 レハ、諸足羣聚シ
 テ、口中ニ送ル、
 フ虫ノ尾トス、
 ハ石或ハ艸トス、
 是ニ吸附シテ、甚
 ク牢固ナリ、又水
 底ノ艸花サケハ
 自ラ浮出ルア
 リ、是植物ノ能ク
 動クモノナリ、
 又冬ハ虫ニシテ、
 夏ハ艸トナルア
 リ、仙桃草ト名ツ
 ク、春夏ノ際、實
 結フ、桐ノ如ク、
 其殼ト似タリ、
 之ヲ割テ、子ナリ、

懸掛ル鉤アリ、象ノ類ハ頸短クシテ俯仰ス
 ル能ハス、自ラ鼻ノ端ニ拾掇ノ指アリ、鹿牛
 ハ草ヲ食フテ化シガタシ、則チ反芻ノ胃ア
 リ、雀鳥ハ穀ヲ食ツテ乾澁ル、則チ脛嚙ノ能
 アリ、蛛ハ蠅蚋ヲ食ヘド飛ブ能ハス、自ラ能
 ク絲ヲ出シテ、之ヲ網ミス、鷹隼ハ肉ヲ食ヘ
 ド齒牙ナシ、自ラ嘴爪アリテ、之ヲ攫ル、鷄鴨
 ハ生レテ能ク食フ、故ニ穀ヲ脱レハ即チ行
 ク、鳥雜ハ生レテ必ス餌ル、故ニ嘴ニ黄ナル
 喙アリ、綿羊ハ自ラ衛ルノ能ナシ、夜欄ニ歸
 リテ宿スルヲ識ル、鳥賊ハ他魚ノ噬ヲ防ギ、

ク、一出アルノミ、
 ナク、其尾殼ニ連
 ル、翅種ノ後ニ至
 リ、翅破テ飛ヒ去
 リ、秋後土中ニ入
 リ、春ニ至テ、其尾
 ヲリ、苗ヲ生シ、虫
 變シテ、根トナル、
 是レ動物ヲ合
 レテ、一トナルモ
 ノ、又珊瑚ハ、無數
 細虫、合成シタル
 物、タルヲ、顕微
 鏡ニテ見ルヘシ、
 其一枝ヲ折テ、海

險トキハ墨ヲ噴キテ蒙ル、蝟ハ虎狼ニ遇ヘ
 バ毛ヲ聳ツテ箭ノ若シ、蜂蟲ハ敵ヲ禦キ蠶
 蟄スル針ノ如シ、蜘蛛ハ飛鳥ノ糧トナル故
 ニ穢涎ヲ出シテ命ヲ保ツ、蛇蜈蚣ハ長軀ノ物
 毒牙ニ隨ヒ發レテ仇ヲ攻ム、其他螺ノ壳蟹
 ノ鉗ノ如キモ、身ヲ護ルノ法アラザルナリ、
 是皆化工ノ自ラ其生ヲ衛ラシムル者ナリ、
 某ノ地碩鼠アリ、腹ニ外胎アリ、胎ニ數乳ア
 リ、産後ニ子ヲ其中ニ育ス、一夕ビ險厄ニ遇
 ヘハ母子ヲ囊ニシテ逃逸ス、又外海ニ鯨魚
 多シ、其腹恒ニ餓ニ食ヲ覓メテ已ム時ナシ、

底ニ挿メハ、又能ク生ス、梅持ハ其足ヲ斷ツモ亦生ス、其体ヲ碎キテ、數十トナセハ、其一分變レテ、一全由ヲ合スレハ、併テ一虫ニ口アリ、或ハ其胃ヲ織ヘリ、内ヲ外トナス、モ亦死ビス、是レ動物恰モ植物ノ如シ、植物ハ体内皆漿アリ、動物ハ漿ナク、レテ脂アリ、動物ノ分ナ難

然レ氏其口肚ノ下ニ在リ、人畜ノ水ニ落ルヲ見レハ身ヲ反シテ能ク吞ミ啖フ、汨泳ヲ善クスル者、毎ニ能ク又ヲ持テ之ヲ伺刺ス、嘗テ某甲アリ、海ニ入り鯨ニ追逐レ、急ニシテ避ル能ハス、竟ニ半身ヲ吞噬セラレ、其乙大ニ怒リ、隨イテ海ニ入り鯨ヲ刺シ、格闘スル良久シテ、終ニ鯨ヲ殺シテ上ル、共ニ鯨ノ腹ヲ剖クニ某甲ノ半身尚在リ、遂ニ兩半ヲ將テ合セラ之ヲ葬レリ、嗚呼海ニ鯨鱈アリ、山ニ虎狼アリ、天鳥ゾ此ノ毒魚惡獸ヲ生スルヤ、蓋シ禽獸蕃殖レ日ニ積ミ月ニ多ク、若

キモノ、此ヲ以テ分別スヘシ、植物ハ其根土中ニテ土汁ヲ吸ヒ、葉ハ氣中ニテ炭素ヲ吸フ、吸フ所流質或ハ氣質ノミ、動物ハ併ヒテ定質ヲ食フ、是レ其異ナリ、動物ハ痛癢ヲ知リ、植物ハ痛癢ヲ知リ、紫薇花含羞草ノ類、搔ケハ動キ、觸ルレハ縮ム、是レ痛癢ノ知ルニ似ク、植物種類三百三

ニ相殘ヒ相殺ザレバ、勢ヒ必ズ人ニ逼リテ地ナカラシ、故ニ已ヲ得スレテ虎鯨アリ、皆化工ノ深意タリ、所謂物トシテ世ノ用ニ合ハザル者ナントハ此ノ謂ナリ

猴類

猿猴狙狝類ヲ同クシテ名ヲ異ニス、臂童ト曰ヒ、巴兒ト曰ヒ、山公ト曰ヒ、野賓ト曰ヒ、蒙頌ト曰ヒ、衛翹ト曰ヒ、果然ト曰ヒ、狴々ト曰ヒ、狒々ト曰ヒ、狒狒ト曰ヒ、猢猻ト曰ヒ、猿ト曰ヒ、獨ト曰ヒ、禺ト曰フ、其蹄多クシテ指ヲ屈スルニ勝ヘズ、西人其種ヲ別ツテ三トナス、

科アリ、細別スル
ハ、其幾千萬ナ
ルヲ知ラス、然レ
氏各功、用アリ、姑
ク最、徹ナル石、蘇
ヲ以テ言ヘ、ハ、海
中新、タニ小島ヲ
湧出スルハ、皆
石山ナリ、石、蘇其
上ニ生シ、撥石ノ
外皮ニ入リ、雨露
之ヲ濡シ、濕ヒテ
散セ、ス、石ノ外皮
之ニ因テ爛レ、石
蘇拈カ、蘇スルモノ
難、蘇レテ泥ヲ成
シ、海風、艸種ヲ吹
送レ、ハ、草生シ、其

長キ尾ノ者一種、短キ尾ノ者一種、尾ナキ者
一種トス、其性狡、猾、跳、舞ヲ喜ミ、諸獸ニ視レ
ハ、最モ靈トス、人ヲ畏レサレハ人マサニ
其大害ヲ、菓ヲ食ヒ、林ニ棲ミ、哀ニ鳴キ長ク
嘯ク、條ヲ扱ヒ、樹ヲ過キ、捷キヲ飛禽ノ若シ、
足短ク、臂長ク、頰ニ兩、嘯アリ、尾大ニシテ長
キ者ヲ禺トナス、能ク尾ノ端ヲ以テ木ニ捲
キ、身ヲ懸テ空ニ翻ルノ舞ヲ作ス、尾短クレ
テ頭大ナル者ヲ獨トナス、狀惡ク、性頑ニ、面
長クシテ犬ノ如シ、鼻孔ニ連ナリ、眼深ミ
眉凸シ、齒大イニ、嘍長ク、カラ強クシテ、性妬

根石ニ入ル益々
深ケレハ、石益々
爛レ、復々草ノ枯
萎スルモ、ト、糶
レテ泥ヲ成ス、是
ノ如キヲ千百年
ニシテ、泥益々深
ケレハ、百穀果木
生ス、大東洋ノ諸
島皆然リ、又火山
ノ噴石、及ヒ流出
スル石、汁、冷テ復
タ凝ルノ地、一望
皆石ナリ、亦必ズ
先ツ石蘇ヲ生シ、
久クシテ草木ヲ
生ス、故ニ石蘇至
微ト雖、氏大用アリ

メリ、怒ルハ手ヲ以テ牧者ヲ抓撲シ、妬ム
キハ手ヲ以テ同類ヲ扼殺ス、所謂獨一トビ
叫ンテ、猿散スル者ハ此ナリ、尾長クシテ
仰鼻ノ者ヲ狢トナシ、鬣多クシテ、鬣長キ者
ヲ象トナス、此二類ハ頗ル馴レ、尾ナクシテ
身長キ者ヲ狢トナス、性頗ル人ノ如シ、長四
五尺、上下ニ三十二ノ齒アリ、兩頰ニ嘍ナシ、
胸濶ク、胃凸シ、鼻ニ準梁ナク、指ニ黒キ甲アリ
、兩蹄相對セリ、毎ニ林中ニ于テ枝葉ヲ
アツメテ小屋ヲ作ル、嘗テ獵人アリ山ニ入
リ、一ノ牝狢兒ヲ抱キテ食ヲ覓ルヲ見ル、火

リ、況ヤ是ヨリ大
ナルモノヲヤ、其
大ナルモノハ難
多利亞ニ若クハ
ナシ、此花亞美利
加ニ生ス、古ヘ知
ルモノナシ、英ノ
今王即位ニ至テ、
始テ見得ク、以故
ニ女王ノ名ヲ以
テ名ツク、其花葉
俱ニ蓮ニ似ク、
葉ノ徑リ五丈、其
周リハ十五丈、
リ、花ノ徑一丈、
周リ三丈アリ、而
モ獨リ大ナル耳
ナラズ、其艶芳羣

鎗ヲ以テ之ヲ彈ニ、直チニ其胸ニ中ル狂痛
ヲ負ヒ木ニ縁リ、兎ヲ撫テ怒リ蹄ビ、血ヲ吐
テ死ニ瀕トス、便チカラ極メテ其兎ヲ高枝
ノ抄ニ擲アケ、遂ニ昏絶シテ地ニ倒ル、其兎
枝ヲ抱キテ悲叫殊ニ惋惜ニ堪タリ、獵人自
後復ク此業ヲ操ガスト、西國博物館ノ内ニ
欄籠アリテ專ラ猴ノ屬ヲ畜フ、種類甚ダ多
シ、小ナル者ハ兎ノ如ク、大ナル者ハ豕ノ如
ク、教ルニ跳作ヲ以テス、觀者倦ヲ忘ル、其性
熱ヲ愛シテ寒ヲ惡ム、故ニ赤道附近ノ諸國
ニ産ル、者モン携ヘテ北方嚴寒ノ地ニ往

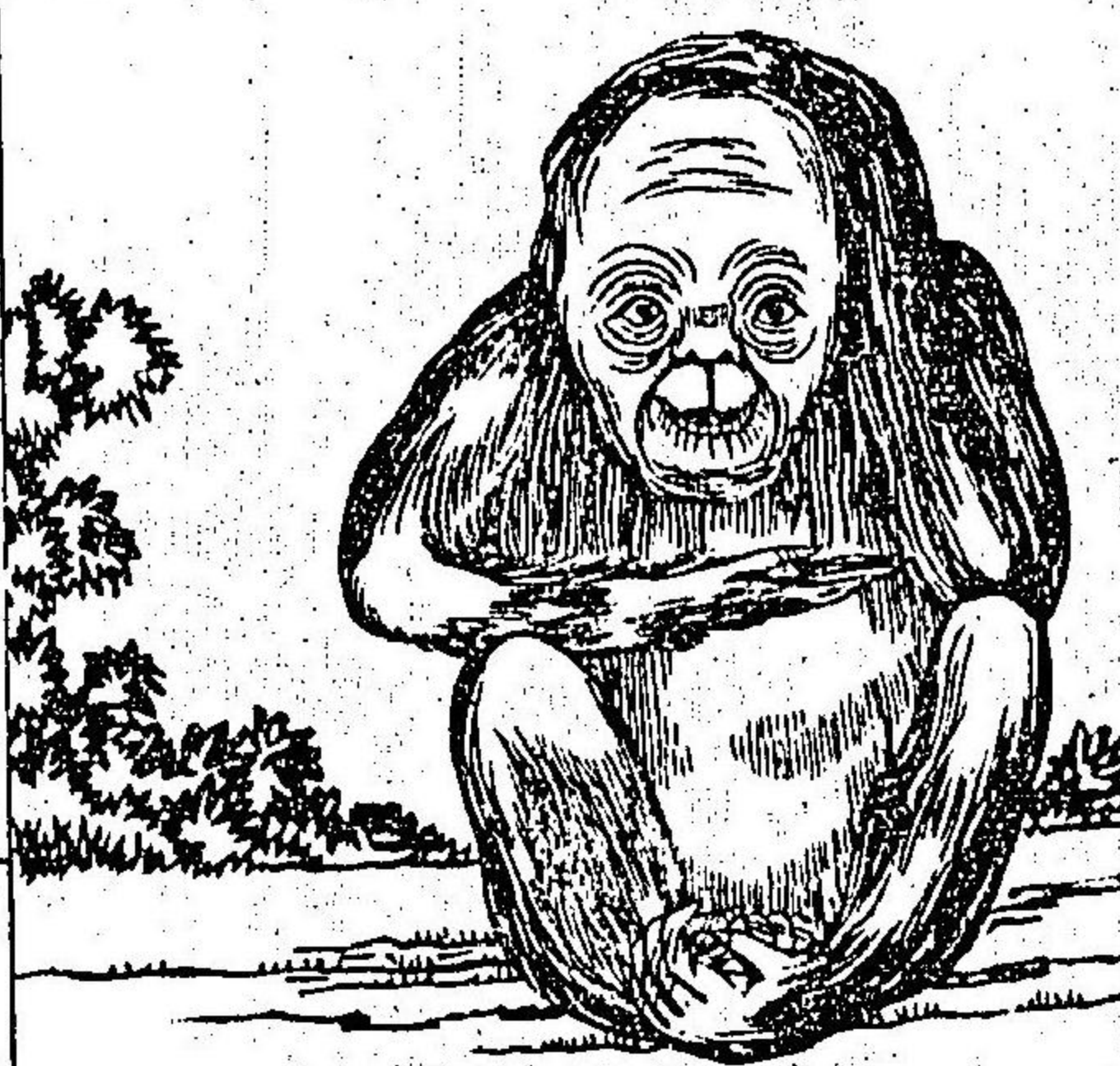
花ノ冠タリ、宇宙
ノ大ナル何モノ
カナルヘキ、
赤道近キ地ノ植
物ハ、巨木繁殖シ、
漸ク寒帶兩極ニ
近キ地ハ、皆氷ヲ
生スルノミ、直下
ニ近ツカハ積雪
ノミ、此理ヲ知ラ
ン、ト欲セハ、赤道
下ノ最高山ヲ觀
ルヘシ、恰モ一小
世界ノ如シ、試ニ
ニ尺度ヲ以テ、層
段ヲ分テハ、一層
毎ニ氣候同シカ
ラズ、草木モ亦同

ハ、三四年ノ間ニ、多ク肺ノ疾ヲ以テ死ス、亞
墨利加南州ニ其類甚ダ繁シ、山園ノ菓木、熟
スル時ハ多ク竊掠チ一ニ空シ、其之ヲ竊ム
ノ法、先ツ一ノ老猴ヲシテ高ニ登リテ瞭望
セシメ、然ル後ニ群ヲ聯ネ隊ヲ列レテ立ツ、
木ニ登リテ果ヲ摘ル者數猴アリ、取次ニ遞
傳シ、頃刻ニ其一樹ヲ盡シ、又顧ミテ他ニ之
久、時ニ園丁ノ巡獲ニ遇ヘハ、老猴疾ク呼テ
報警ス、一聞シテ散シ踪影モナシ、モシ老猴
報ヲ忘ルレハ、巢ニ歸ルノ後、衆猴共ニ之ヲ撲
殺ス、其狡猾此ノ如シ、所猿狄晚ニ群ヲ成ス

レカラス、譬へハ、
 南米、利堅ノ安達、
 斯山ノ如キ、最下
 ノ層ハ、現ニ赤道
 直下ノ地ナリ、海
 面ヲ離ル、三千
 尺ヨリ、三千五百
 尺ニ至テ、山内芭
 蕉、棕櫚多シ、寒暑
 針八十一度ヨリ
 七十一度ナリ、三
 千五百尺ヨリ、五
 千尺ニ至レハ、大
 羊齒多シ、寒暑針
 六十六度ニ降ル、
 五千尺ヨリ、六千
 五百尺ニ至レハ、
 葡萄等ノ樹多シ、

トハ、其亦果ヲ偷ムノ宵小ナル乎、

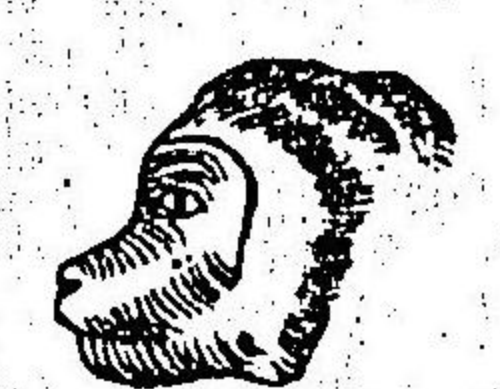
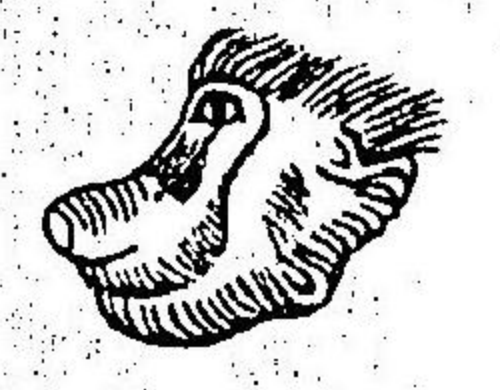
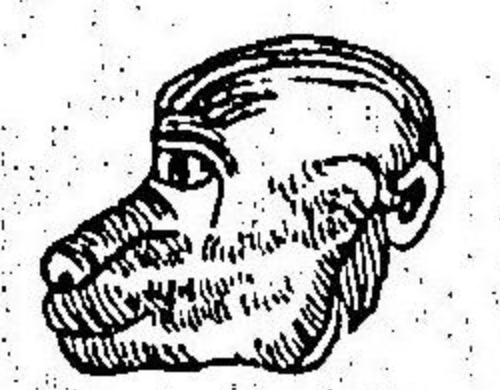
牡狂



牝狂



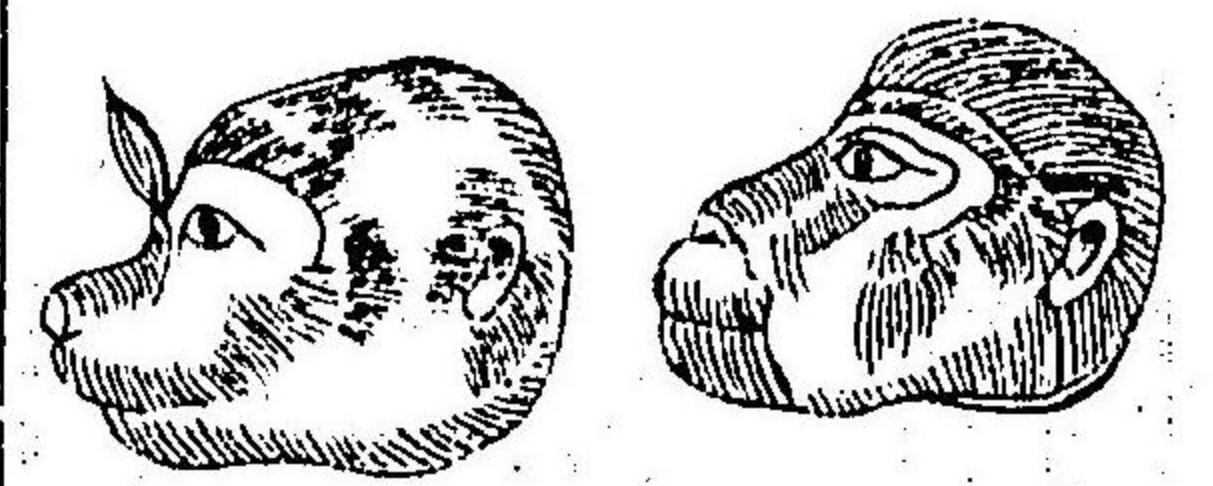
獵人追
 捕トメ
 命ヲテ
 逃ル



類ノ猴

六千五百尺ヨリ、
 八千尺ニ至レハ、
 橡ノ類多シ、寒暑
 針六十一度ニ降
 ル、八千尺ヨリ、九
 千尺ニ至レハ、金
 雞、哪樹多シ、九
 尺ヨリ、一萬尺ニ
 至レハ、虎、豹多シ、
 一萬尺ヨリ、一萬
 二千尺ニ至レハ、
 細艸多シ、一萬二
 千尺ヨリ、一萬六
 千尺ニ至レハ、苔
 藓ノミ、一萬六千
 尺ヨリ、二萬三千
 尺ニ至レハ、四時
 積雪消ヘハ、山愈

此馬ノ尾カシ



類ノ猴

禺
 南亞墨利加ニ産ス



獨



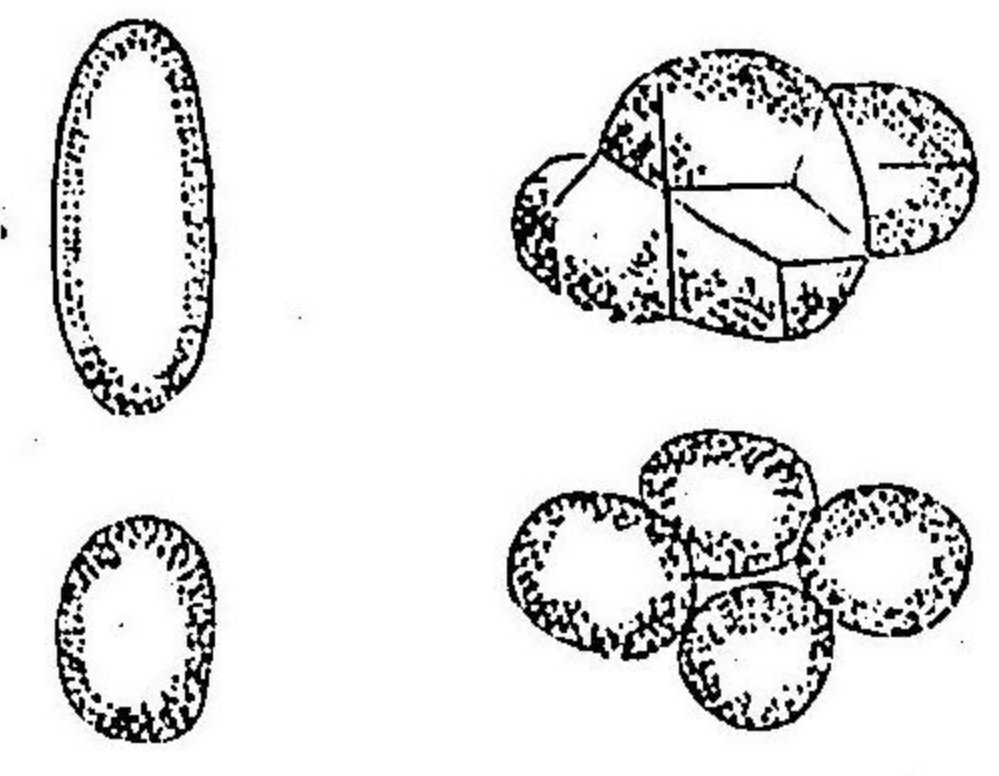
象論

ハ高クハ、氣愈々薄シ、水モ一切流質モ、氣中ニ散入シ、易シ、水散レハ、冷ヲ生ス、故ニ山ノ各層、漸ク高クシ、ハ、漸ク冷ナリ、試ニニ杯ヲガラス内ニ置キ、單内ノ氣ヲ洩出セハ、單内ノ氣漸ク薄シ、杯中ノ氣水漸ク散スルモ、亦レテ冷ニシテ、速ニ氷ヲ成ス、是其証ナリ、

象ハ豕ト類ヲ同ウス、其種ニアリ、一ハ亞細亞洲ニ産シ、一ハ亞非利加洲ニ産ス、長サ約ノ一丈、身ノ高サ七尺、力ヲ九匹ノ馬ニ勝ル、頭大ニ耳長ク目小サク頸短シ、首ヲ俯キテ飲食スル能ハス、轉盼テ後ヲ顧ル能ハス、鼻ノ長サ五尺、準端ニ一ノ小指ヲ生ス、芥粒ヲ拾撥ル所以ナリ、口ノ外ニ貳ノ牙アリテ長サ七尺、口ノ内ニ大ナル牙數齒アリ、粗澁ニテ磨ノ如シ、初メテ生ル、五歳ニシテ此換ル一次シ、自後永ク退脱ス、俗傳毎歳更換ル

植物ノ内、体内四アリ、一ヲ聚胞体トシ、二ヲ動物ノ骨トシ、三ヲ動物ノ筋トシ、四ヲ動物ノ乳路トシ、管ノ如シ、動物ノ血トシ、聚胞体ノ細胞ノ聚テ一切草木ノ体中、皆是レアリ、此胞孔中ニ液糖

地ニ穴リテ齒ヲ藏ムト皆謬語トス、其聲清越、細シテ人ヲ驚カサズ、四足穩重トシテ蹄ニ五ノ趾アリ、孕胎二十月ニシテ生ム、奶前蹄ノ後ニアリ、毎産ニ一子、三年ニ一タビ乳ス、野象ハ孕ニ易ク、家象ハ胎リ難シ、子乳ヲ飲ム時ハ、其鼻ヲ背ニ搭ク、壽凡ソ百有餘歳、毛疏ニシテ皮厚シ、彈丸モ亦透入シ難シ、色ニ黑白ノ二種アリ、喜ニテ樹ノ根木ノ葉ヲ食フ、鼻ヲ捲キ樹ヲ拔クコト、農圃ノ手ヲ以テ蔬ヲ拔ガ如シ、樹ノ根深ク蒂固キ者ハ先ソ貳ノ牙ヲ以テ挖抜揺動ス、夜ハ則チ深林ニ



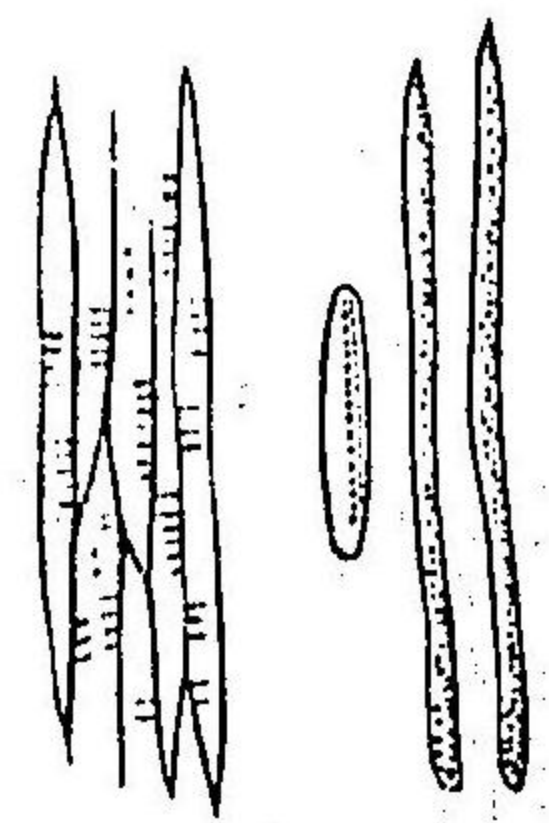
照サレハ、色呈ス、夏ハ緑、色ナラニ
 故ニ葉モ亦緑、秋ハ黄、或
 紅ナリ、故ニ葉モ赤、或
 亦黄色、紅色トス
 此細胞ノ合成ス
 ル所必ス隙アリ、或ハ
 隙中油アリ、或ハ

群處シ、熱スレバ河澗ニ浮、出入羣ヲ成
 シ、群コトニ王アリ、或ハ數十匹、或ハ數百匹、
 其ノ後ニ擁隨シ、遵循法服セザルハナ
 シ、王行ケハ、亦行キ、王止レハ亦止ル、釋子行
 ク、纒ケレハ、牝母即チ鼻ヲ以テ捲抱エテ前
 ヲ、群象河ヲ過ルニ、並ニ皆鼻ヲ以テ水面ニ
 仰キ伸ス、遠クヨリ望見レハ、幾ント中流ノ
 肉柱カト疑フ、岸ニ登ルノ時王先ツ地ノ鬆
 實ヲ探リ、務メテ實地ヲ得テ、群ヲ呼テ躋升
 ル、陰林アル處ヲ覓メ、王貳牙ヲ以テ樹木ヲ
 拂拔キ、條ヲ重子類ヲ疊ミ、分析テ途ヲ成シ、

杏膠アリ、又酸素
 アリ、液道アリ、液
 道ノ口、或ハ皮外
 ニ通シ、或ハ葉外
 ニ通シ、テ外氣ニ
 接ス、其功用ハ流
 質ヲ體中ニ行ク
 リ、徧カラシム、
 此體ハ無數ノ長
 管ヲ合シテ一體
 トナス、凡ソ木ノ
 體業中ノ管、皆是
 ノリ、試ミニ木片
 ヲ水中ニ浸セハ、
 久シクシテ他質
 爛レ盡テ、獨リ此
 體ヲ存ス、麻絲ノ

遂ニ此ヲ以テ巢穴トス、時ニ牝牡ノ期至ル
 ニ過バ、便チ林ヲ出テ、呼叫シテ類ヲ引ク、若
 シ象王ノ期至ルニ過バ、必ス諸隊ヲ逐テ密
 ニ林中ニ合フ、既ニ定テ、乃チ能ク復テ聚ル、
 仿モ尊卑ノ分アルカ如シ、凡テ獵戸ノ象ヲ
 捕ル、多ク其期ヲ俟テ誘フニ計ヲ以テ、其之
 ヲ捕ル法、或ハ要路ニ當テ陷阱ヲ挑挖リ、上
 ニ草木ヲ填メ、以テ之ヲ坑ス、象坑ノ中ニ陷
 イリ、初ハ甚ク怒ル、繼テハ甚ク飢ニ、獵者日
 ヲ按シ草ヲ擲コミ坑ヲ填メ、飢ルニ承テ訓
 導ス、象飼食ノ徳ニ感シ、日ニ漸ク以テ馴ル、

如キハ見易モノナリ



此体中

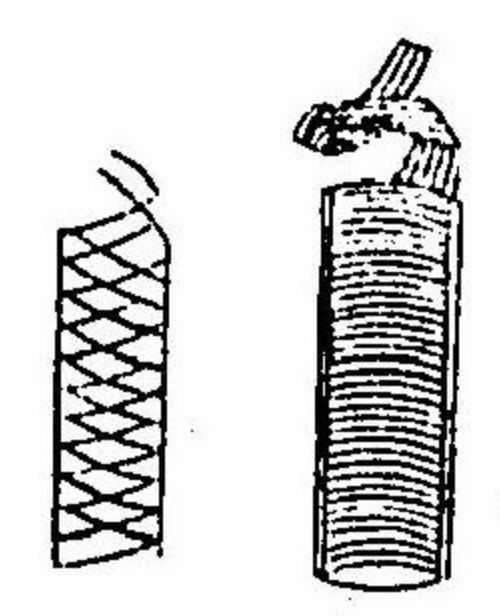
硫黄、磷、青、鹽、ハ、
硫黄、磷、青、鹽、ハ、
硫黄、磷、青、鹽、ハ、
硫黄、磷、青、鹽、ハ、

此体モ亦諸管ヲ
合シテ一體トス
其功用ハ体中ノ
氣ヲ通ス其氣中
酸素極テ多シ外

十餘日ノ後ニ便チ家象ト群ヲ聯子復タ山
林ノ念アルヲ知ラス又法野象ノ牡期慾熾
ンナルキヲ候ヒ即チ馴レタル牝ヲ放シ誘
フテ迷惑セシメ象奴象ノ人暗陬ニ匿伏レ
其親狎シテ機ヲ忘ルヲ伺ヒ潜カニ大繩
索ヲ以テ蹄足ヲ繫リ因テ教ヘテ馴レシメ
乃チ索ヲ釋テ制スルニ奴ヲ以テス凡テ乘
騎駕載或ハ工ヲ作シ物ヲ牽セント欲スル
ニ象奴聲ヲ出セハ耳ヲ貼シテ從聽サルナ
シ道ヲ行ク時ハ奴鉄鞭ヲ持テ頸項ニ跨坐
シ命ニ逆フハ其耳ヲ刺ス西域印度等ノ

倍氣ヨリ多キヲハ
トス乳路体

此体モ亦諸管ヲ
以テ作クル支派
聯絡相通ス水中
皆之アリ根中尤
モ多シ皮中モ亦
是アリ痛公英最
モ多シ其功用ハ



樹ノ乳ヲシテ流通往來

セシム乳中ニ樹
膠アリ糖アリト

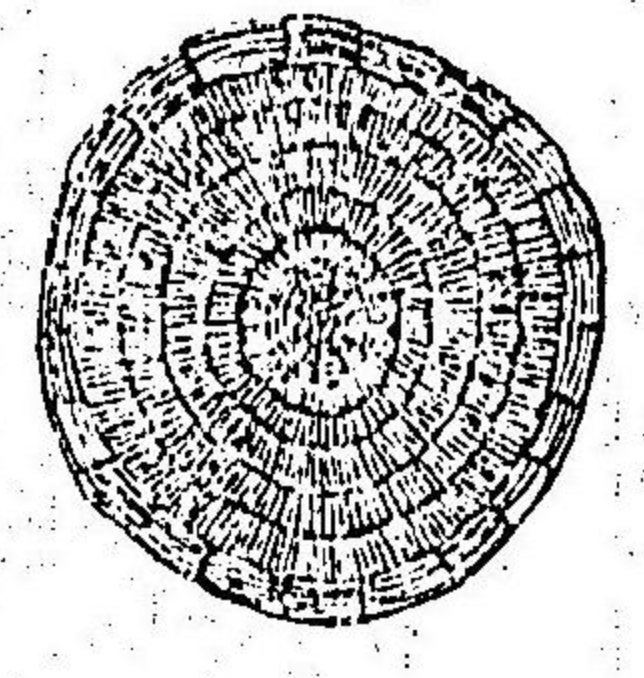
戰仗ニ必ス象ヲ用テ炮ヲ招セシム難行ニ
テ淺ニ擲スレハ必ス象ニ命シ舟ヲ推サシ
ム其馴ル良ニ靈敏ナル實ニ諸獸ノ冠タ
リ但其怒ヲ激ス可ラス怒ルキハ報復ヲナ
ス嘗テ一ノ成衣店アリ諸ノ縫工林ヲ圍テ
服ヲ製ス適過ル象アリテ其門ニ止マル象
偶鼻ヲ縫林ノ上ニ置ク縫匠戲ニ針ヲ以テ
之ヲ刺ス象痛ヲ忍ンテ怒ラス其店ヲ去リ
隨路穢水ヲ吸含シ返ル比ニ穢物ヲ以テ其
縫人ニ噴嚏ス舉市ノ人皆大笑セリ又一ノ
怒象アリ性烈クシテ狂ヒ欄ヲ逸テ逃出セ

前三体ハ、俱ニ相
比附ス、凡ソ木
路其中ニ貫行セ

植物ノ外体
植物ノ外体
種子是ナリ、
根ノ体ハ、聚胞体

根ノ体ハ、聚胞体
功以テ為セリ、其
樹ノ幹ヲ固クシ、
二ハ根管ノ末ハ、
小口アリ土中ノ
諸汁ヲ吸食シテ、
養分トナル、

植物四類アリ、一
ハ外長類トス、新
木質外層ヨリ生
シ、層ヲ逐テ、年々
一層ヲ増ス、二ハ
内長類トス、新木
質木心ヨリ生ス、
層級トシ、三ハ上
長類トス、新質節
ヲ逐テ遮生ス、四
ヲ通長類トス、全
体ノ質日々ニ長



長外ハ圖ス、

リ、路人皆懼レ走ル、内ニ一ノ婦アリ、遽ニ其
兒ヲ抱テ忘ル、衆人各其婦ノ為ニ驚キ憂ヒ、
以為ク其兒必ス象ニ死セント、象行近ヅク
ニ逸ンテ、反テ鼻ヲ以テ兒ヲ抱キ、路上ノ石
ノ側ニ置ケリ、衆人怪ミテ其故ヲ問フ、蓋シ
其婦菜ヲ賣テ以テ生トシ、象ノ過ルニ遇フ
コトニ、必ス餘ノ菜ヲ以テ象ニ飼フ、故ニ象
怒レモ亦能ク其徳ヲ記スナリ、又某ノ奴ア
リ、悞テ象ノ性ニ拂ヒ、象怒テ之ヲ殺セリ、奴
婦子ヲ抱テ象ニ哭訴シテ曰ク、吾夫身ヲ屈
シテ牧ヲ作モ、只家ノ貧ガタメナリ、今汝此

狼毒ヲ逞フレ、吾母子ヲレテ依歸スル所ナ
カラレメリ、汝既ニ其父ヲ殺ス、請並ニ其子
ヲ殺セト、話畢テ其兒ヲ象ノ下ニ委ス、彼ノ
象俯視ルル良久レテ、鼻ヲ以テ兒ヲ捲キテ
テ、置テ頸間ニ坐セシメ、其意兒ヲ以テ父ニ
代ヘ牧ト作ント欲ス、後象主果レテ其兒ニ
任セリ、其象亦前ニ比グレハ較馴シト云、亞
非利加國ニ荷欄ノ獵戸アリ、兄弟三人皆象
ヲ捕ヘ、牙ヲ採ルテ以テ業トス、後此ヲ以テ
富ヲ致シ、將ニ本國ニ歸リ其富ヲ享シト欲
ス、任ヲ治メ既ニ畢リ、更ニ獵スル一圍ニ、以

類ノ幹ナリ此類ハ木ヲ斷テ其層
ハ木ヲ檢スレハ何
年木タルヲ知ル
木ノ一層ハ一年
ノ成長分ナリ
外長類ノ木ハ全
幹中ニ五物アリ
一ハ心ニハ心ノ
皮三ハ木四ハ皮
ト木ヲ通スルノ
皮五ハ皮トス
内長類ノ幹ハ新
質内ヨリ生シ恒
ニ外ノ旧質ヲ推
擠シテ更ニ長ジ
更ニ大ナラシム
年々此ノ如シ棕

テ餘勇ヲ快ウス料ラス反ツテ象ニ困メラ
レ敢テ急難ヲ救フ者ナク遂ニ一人ヲ捲却
シテ半空ニ抛擲シ復而齒ヲ以テ其腹ヲ接
承セラレ斯人竟ニ貫カレテ死ス夫レ
象ノ獸タル麗然タル大物ナリ乃チ牙ノ為ニ
其生ヲ找ス亦事ノ殘忍ナルモノ暹羅國ノ
象ニ事ルガ若キニ至テハ又詐譌ノ愚トス
是均シク慨スベシ暹羅國佛ヲ重シ白象ヲ
敬フテ神トナス謂フ善人ノ死スル魂其中
ニ居ルト食物ヲ獻スル毎ニ載スルニ金銀
ノ碗盎ヲ以テシ惟褻瀆シテ罪ヲ獲ルヲ恐

櫛及ヒ竹ノ類是
ナリ
上長類ノ幹ハ每
年葉落ル後ニ至
リ一節ヲ増ス年
々此ノ如シ
通長類ハ漸ク大
ニナルヲ云フ凡
ソ草木耳ノ類是
ナリ
幹ノ傍ヨリ芽ヲ
發シ枝ヲ成ス外
長類ノ木ノミ枝
アリトス
葉ノ形ハ大畧其
樹ノ形ニ同シ故

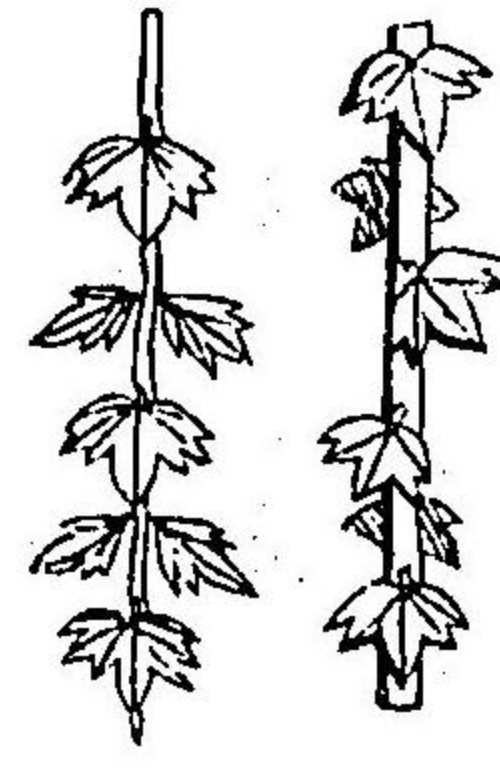
ル其俗ノ陋此ノ如シ
犀論
犀ノ獸タル象ヨリ小ニシテ牛ヨリ大ナリ
身ノ長ヤ九尺六寸體ノ週環亦之ノ如シ其
類兩種アリ一ヲ獨角トシ一ヲ雙角トス角
鼻準ノ上ニ生ス長ヤ一二尺ナル者アリ眼
小サクシテ深ム耳上ニ向ヒ驢ノ如シ皮黑
クシテ厚ク頸股ニ皺較多シ刀鎗箭銃皆入
ル能ハス上唇長クシテ馬ノ如ク下唇短ク
シテ牛ノ如シ腹大ニ足短ク耳鼻善ク聞ク
飽クトキハ水中ニ游泳ス怒ルハ猛進ミ

其葉ノ形モ亦知
 ルヘレ、試ミニ一
 葉ヲ採テ、其形ヲ
 看ルニ、葉ノ角、
 鈍〔九十度ヲ鈍角
 ト云ス〕タレハ、其
 樹必ス喬木ニ非
 スレテ、横ニハヒ
 コレリ、葉ノ角、
 銳〔六十度ヲ銳角
 ト云フ〕タレハ、其
 樹必ス抄ナリト
 ス、樹ト草ノ角、
 ハ、同シカラス、大
 約、艸ノ角、度ハ二
 十五度ヨリ四十
 五度ニ至ル、樹ノ

テ退クナシ、向フトコロ樹木ヲ摧折シ、虎狼
 辟易ス、蓋シ其體重クシテ力雄ヲ恃ム、故ニ
 頭ヲ以テ撞リ鬪格ヲナス、居ル所獅虎ト山
 ヲ同クス、行ク毎ニ必ス捕狗スルヲ豕ノ如
 レ、然レハ其性蠅蚋ヲ畏レ、毎ニ泥淖ニ滾ケ
 テ身ヲ護ル計ヲナス、獨角犀ハ越南暹羅印
 度等ノ國ニ産シ、双角犀ハ亞非利加州ニ産
 ス、胎ムコト一子、數年ニ一タヒ孕ム、食フ
 所惟草蔬樹根ナリ、啖嚼極テ多シ、且其性頑
 ニシテ蠹ナリ、此化工ノ其類ヲ繁廣スルヲ
 欲セザルナリ、土番ノ犀ヲ獵スル法、二人各

角度ハ、四十度ヨ
 リ六十度ニ至ル、
 葉ノ生スルハ、法
 フリ、其法一ナラ
 ス、或ハ葉ト葉ト
 對生スルアリ、螺
 線ニ依テ生スル
 フリ、第六葉ト第
 一葉ト方向ヲ同
 シクス、圖ノ如シ、

一馬ニ跨リ、一ハ其後ニ在リ、一ハ其前ニ馳
 ス、犀前ナル人ヲ見テ即チ止リ、將ニ勢ヲ作
 ント欲スルトキ、後ナル人急ニ刀ヲ以テ其
 足ノ筋ヲ削ル、犀遂ニ倒落ス、從ツテ之ヲ殺
 ス、是ニ由リ其皮角ヲ貨トス、一犀ニシテ約
 ソ數十金ヲ得其皮ヲ取テ馬鞭ト作シ、其角
 ヲ取テ杯蓋トナス、摩嚙國ノ俗、其屎牙皮蹄
 ヲ用キテ藥トナシ、其角ヲ用テ五毒ヲ解ク、
 効驗殊ニ非シ、貴公子アリ、家ニ犀角ノ玩器
 ヲ藏スル甚多ク、雕鏤精巧ニシテ、辟塵却暑
 消毒等ノ飾アリ、價千金ヲ重ヌ、然レハ屢試



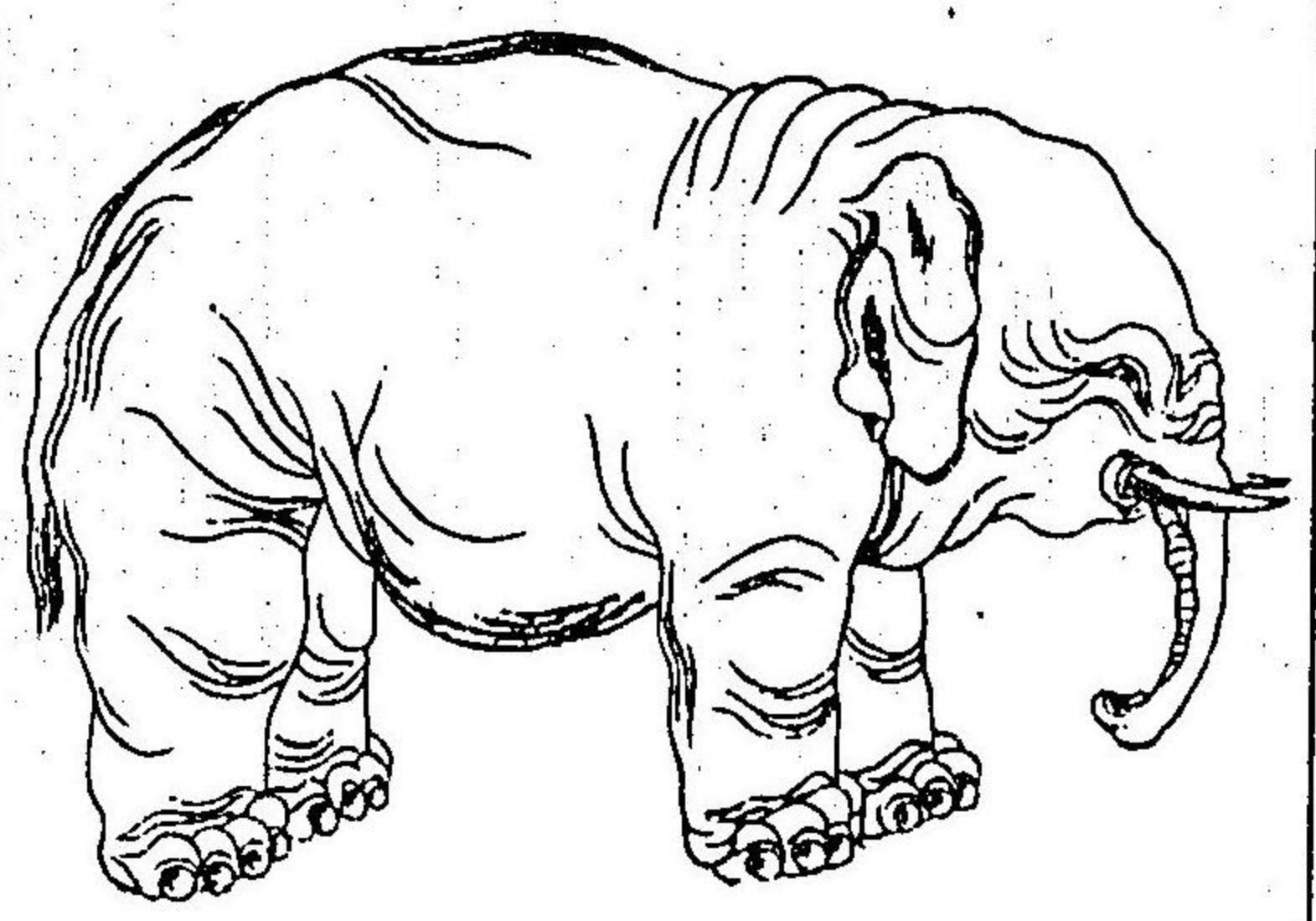
松葉ノ如キアリ、
 針ノ如キアリ、
 是ナリ、皆螺
 モノアリ、皆比
 シテ知ルヘシ、
 葉ノ如キアリ、
 松針ノ如キアリ、
 是ナリ、皆螺

旋形ニ生ス、松明
 竹筍ノ如キモ螺
 旋形ニ生ス、亦其
 角度ヲ圖レハ、其
 竹樹ノ長短ヲ知
 其功用ハ、上外ノ
 土汁ヲレテ、日氣
 中ニ宣布シ、木質
 フ成サレハ、然ラ
 サレハ、木茂ラズ、
 故ニ密林ノ中ナ
 ル木ハ、瘠セ、艸モ
 亦瘠ス、試ニニ番
 葉ヲ日光ナキ地
 ニ種レハ、葉軟シ
 シテ白ク、薯ニ水
 多クシテ、食フ可

ムルニ驗アラヌ、猶珍トスル、珠寶ノ如シ、亦
 金銅石ヲ佛牙ト為スノ流ナルカ、天竺古ヨ
 リ佛國ト稱シ、死物ハ土偶木石ニ奉奠シ、生
 物ハ走獸飛禽ニ奉奠ス、風俗最モ陋トス、其
 絶誕ナル者ハ、祖死シテ牛ニ化スルノ一節
 ニ如クハチシ、彼ノ俗父母將ニ死セントス
 ル、即チ白牛一犢ヲ擇ヒ、僧徒ヲ召テ經ヲ誦
 ミ禮拜シ、立テ聖牛トナス、給スルニ殊食ヲ
 以テシ、配スルニ數ノ牝ヲ以テレ、日ハ則チ
 里巷ニ縱游シ、夜ハ則チ美キ欄ニ引處レ、街
 衢ニ糞溺スルモ敢テ怒ラス、園圃ヲ踐踏ス

ラズ、此レ明証ナ
 花ニ四輪アリ、莖
 ト辨ト鬚ト心ト
 是ナリ、未ク開カ
 ヲル時ハ、層包シ
 花ハ、スヲ艶開キ、
 花ハ、ハ、呈色キ、
 ナル、試ニニ花ヲ
 採テ看ルベシ、莖

ルモ敢テ嗅ズ、死ニ変ル生ニ変ルカ如ク、牛
 ヲ敬フ父ヲ敬フガ如シ、富紳鉅族モ恬トシ
 テ羞ヲ知ラス、相習フテ風ヲ成シ、牢レテ破
 ル可ラス、拙モ亦極レリ、



象



犀

虎類論 内ニ獅子ヲ載ス

ト鬚ト相對シ、
ト心ト相對ス、
ト艶色ハ、
ハ、細細胞アリ、
ノ根ナリ、
ノ學ノ部論スル如ク、
アリ、日光中ニ三色
ヲ成シ、
入シ、
一胞能ク、
呈スル、
汁ニ隨テ、
内體聚胞體ヲ見
合ス、
ト鬚ト相對シ、
ト心ト相對ス、
ト艶色ハ、
ハ、細細胞アリ、
ノ根ナリ、
ノ學ノ部論スル如ク、
アリ、日光中ニ三色
ヲ成シ、
入シ、
一胞能ク、
呈スル、
汁ニ隨テ、
内體聚胞體ヲ見
合ス、
ト鬚ト相對シ、
ト心ト相對ス、
ト艶色ハ、
ハ、細細胞アリ、
ノ根ナリ、
ノ學ノ部論スル如ク、
アリ、日光中ニ三色
ヲ成シ、
入シ、
一胞能ク、
呈スル、
汁ニ隨テ、
内體聚胞體ヲ見
合ス、

獅、虎、猫、豹、大小類ヲ同クス、其性貪殘ニシテ
食フ所惟肉ナリ、捉攫跳躍、爪牙ヲ利用ス、其
爪ノ伸縮スル、
ノ如シ、掌ニ軟キ胞アリ、高ニ登リテ躍下ル
モ、恒ニ痛楚セズ、
ヲ覺ユ、凡ソ林穴ニ入ル、可ナルヲ試ミテ進
ム、前ノ腿後ヨリ大ナリ、生物ヲ擒捉スル、必
躍ッテ之ヲ殺ス、力勢甚ク、雄ク、人畜皆懼ル、
猫ヲ除クノ外、家養ニ馴ズ、其類獅ヲ以テ最
モ大ト為ス、亞細亞、亞墨利加ノ二州ニ産ス、

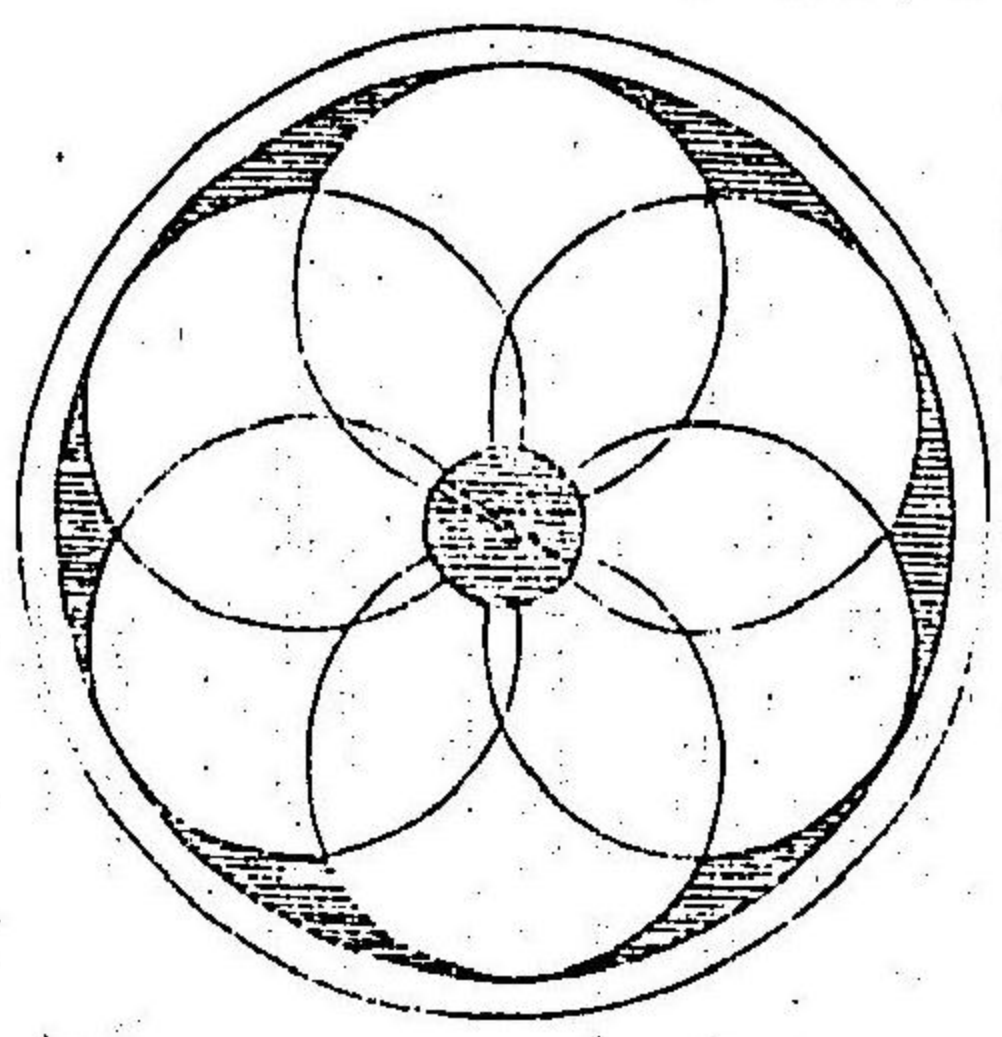
中ノ胞、同ク一色
ヲ呈ス、
ク、正紅色、正黄色、
色、是ナリ、各一色
ヲ呈ス、
ナリ、紫色、綠色、
ナリ、三色、
スレハ、
色トナル、
ノ顔色、
黄藍二色ヲ主ト
ス、西洋ニ園工
瀧、
天ノ黄色ノ花ヲ
變シテ、
紅トナシ、
ス、獨リ藍色ニ變
スル、
能ハズ、又

身ノ長四尺、高三尺餘、首ヨリ尾ニ至ルマテ、
共ニ長八尺、面ノ毛疏ニシテ短ク、鬚鬣而長
シ、怒レハ、
ヲ威伏ス、虎豹モ亦制セラレ、色麻ニレテ黄
ニ、目圓ク大ナリ、晝伏レテ夜出シ、
如シ、
居リ、或ハ茅裡蘆中ニ處ル、日間食ヲ覓テ水
濱ニ伏シ、渴セル獸ノ來ルヲ俟ツ、夜間食ヲ
覓ルニ、地ニ俯テ大イニ吼ユ、聲遠雷ノ如シ、
藥鹿之ヲ聞テ驚走セサルハナシ、
必ス食ハル、牝獅ハ鬣短クレテ虎ノ如ク、懷

藍色ノ花ヲ變ジ
ナレ、白トナシ、獨
リ黄色ニ變スル
能ハス、故ニ木
樺本、黄ナリ、藍ニ
變スルヲ能ハス、
牽牛木、藍ナリ、黄
ニ變スルヲ能ハ
ス、
畫師、絨工、モレ、彩
色ノ理ニ明カナ
ラザレバ、其畫、絨
毡、必ズ佳ナラズ、
化工ノ妙理ニ憑
ラザレバ、何ソ能
ク、
今ニ純色(紅、黄、藍)

胎四月ニシテ生ム、生ム毎ニ三四子、牝牡適
々相哺育ス、乳ヲ飲ム、週歲ニシテ母ヲ離レ
食ヲ覓ム、牝期既ニ届レバ、便チ數牡アリテ
雄ヲ爭フ、交合ノ時ニ、吼ル、猫ノ怒ルガ如
シ、牝子ヲ産ノ後、其性甚ク猛ク、牡獅モ之ニ
敢テ櫻ルナレ、凡ソ牛ヲ捉ヘ、馬ヲ擒、皆脊
負テ以テ走り、威ヲ奮テ一蹕スレバ、牛馬ノ
脊骨モ亦裂ク、殺ス所、猛獸多シ、鋭ル極テ始
メテ人ヲ啖フ既ニ人ノ肉ヲ食ヘハ獸ノ弱
キ者ハ毎ニ釋サル、人類ノ肉ハ喜ンテ食フ、黒奴
ヲ齧フ、飢テ能ク數日食ハス、渴スル必ス毎

三次色(丹、黄、緑、紫)
又次色(鵝、黄、橄、攪)
灰ヲ以テ、圖ヲ作
リ、明カニ各ニ色
合ヘバ、白色ヲ成
スノ理ヲ顯ハス、



緑、紅ト對シ、黄

日一夕ヒ飲ム、嘗テ黒奴ノ牛ヲ牽テ水ヲ飲
マスアリ、忽チ池中ニ二ノ巨眼ヲ露スヲ見
ル、注視シテ瞬ヒズ、牧奴細カニ認メ、是餓獅
ナルヲ知り、竊ニ謂フ幸ニ肥牛ノ食ニ供ス
アリ、當ニ其レ殘スル所ト為ラサルベシト、
遂ニ牛ヲ釋テ疾ク走ル、獅竟ニ牛ヲ衝テ之
ヲ逐フ、牧奴木ニ縁テ登リ避ク、獅樹下ニ蹲
守シ仰キ望テ涎ヲ流シ、一晝夜ヲ盡シ、始テ
泉ニ奔リ以テ去ル、牧奴機ニ乗ンテ走り歸
ル、獅復タ故ノ所ニ至リ、跡ヲ蹊シ直チニ其
門ニ抵リ、次日ニ乃チ離レ去ル、西洋博物園

丹黃ト對シ、藍ト對シ、
 紫ト對シ、綠ト對シ、
 火黃ト對シ、紺色ト對シ、
 深紅ト對シ、碧色ト對シ、
 對シ、鵝黃ト對シ、玄青ト對シ、
 對シ、深紫ト對シ、嫩色ト對シ、
 對シ、灰色ト對シ、之ヲ相
 對スルノ色、均ク白
 合スレバ、均ク白
 色ヲ成ス、凡ク畫
 工暈深女工刺繡
 及ヒ衣服ノ類、均
 相合フ色ヲ用
 類ニ依テ配、櫛
 スベシ、若シ別種
 顏料ヲ用ヒテ種

一ノ馴タル獅アリ、常ニ牧者ト狎戯ス、牧
 者獅ノ胸ヲ擊シテ、直ニ頭ヲ獅ノ口中ニ
 抵ス、觀ル者股慄セザルナシ、後牧者死セリ、
 獅甚ク悲ミ呼ビ、數日ニシテ亦斃ルト云フ、
 羅馬國ノ古例ニ、凡ク罪人死ニ當レハ、必ス
 牢ニ置キ以テ獅ノ腹ニ飽シム、嘗テ老僕ノ
 罪ヲ其主ニ得ルモノアリ、王コレヲ獅牢ニ
 囚ヘ以テ之ヲ殺サシム、獅嗅視スル良久シ
 テ、尾ヲ掉リ頭ヲ搖シ、甚ク親愛スルニ似タ
 リ、王其故ヲ問フ、乃チ數年前ニ曾テ獅ノ為
 ニ刺ヲ拔ント云、

相配スレバ、必ズ
 黑色或ハ白色ヲ
 以テ、間ニオクベ
 シ、否ラザレハ、顏
 科相和セズ、顏
 綠ト紅ト對シ、嫩
 ト灰色ト對ス、故
 ニ草木ノ葉、綠ナ
 レハ、花ハ紅トリ、
 故ニ松ノ幹、灰色
 ナレハ、其葉、嫩色
 ナリ、鵝黃色ト玄
 ナリ、鵝黃色ト玄
 青色ト對ス、故ニ
 果熟スルホハ、其
 皮、鵝黃タレハ、其
 蒂、必ス玄青ナリ、
 葉ノ色變ズレハ、
 花ノ色亦變ズ、春

虎論

虎身ノ高サ三尺、首ヨリ、尾マテ長サ約七尺、
 黄ナル脊ニ黒キ紋アリ、肚ノ色純白ニシテ、
 尾ノ毛黄黒相間ハル、齒牙尖銳ニシテ、爪ノ
 利キ、錐ノ如シ、性黠ニシテ、殘ナリ、激セズ
 シテ、怒リ、喜テ生物禽獸ヲ戕フ、聲能ク物ニ
 振ヒ人ヲ驚カス、カヲ能ク牛ヲ負テ疾ク走
 ル、一胎ニ四五子ナリ、孕ム四月ニシテ生ム、
 牝虎ハ其兒ヲ愛戀スレトモ、牡虎ハ置テ顧
 ミズ、亞細亞州ノ南ニ産ス、印度新嘉坡蘇門
 答立ヲ以テ最モ多シトス、前五十年印度虎

ハ葉色葵緑タレ
 バ花玫瑰色多シ
 夏ハ葉色緑ナレ
 ハ花紅色多シ
 花ノ開ク時刻ハ
 必ズ定メアリ
 イノア₁氏ハ細
 カニ各花拆苞ク
 時刻ヲ測リ之ヲ
 詳記シ居室ノ外
 簾ヲ隔テ其花
 拆苞スルヲ見テ
 其時刻ヲ知レリ
 名ツケテ花表ト
 曰フ
 果ハ花心ノ成ル

ノ患甚ダ劇シ、英吉利ノ官、遍ク賞格ヲ出シ
 テ虎師ヲ招キ、擬スルニ一虎ヲ擒擧スレハ
 銀數元ヲ謝ス、一年ノ内遂ニ庫帑七万五千
 餘元ヲ費セリ、虎ノ患是ヨリ一ニ息ム、然レ
 氏終ニ其類ヲ絶滅スル能ハズ、近年旅客樵
 夫尚亦其害ニ遭フ者アリ、印度ニ武弁アリ、
 食スルニ方リテ忽巨虎ニ啣負シテ去ラル、
 正ニ危逼間猛ニ宵ニ佩刀アルヲ悟リ、遂ニ
 竊ニ鞘ヲ拔キ、カメテ其心ヲ刺ス、虎果シテ
 手ニ應シテ斃ル、竟ニ生テ還ルヲ得タリ、蘇
 門答立ノ俗ノ若キ、甘ンシテ虎ノ害ヲ受テ

所ナリ、二大類ニ
 分ツ、獨生ト聚生
 ナリ、
 種子
 種子内ノ物、皆炭
 質ヲ以テ造レリ、
 其炭質疎密アリ、
 最モ密ナレモノ
 ハ、久ク土ニ入レ
 ヌ、其生機少損
 セズ、麥ノ類ハ、數
 百年藏スト雖モ
 壞レズ、其疎ナル
 者ハ、壞レ易シ、
 種子萌サシトス
 ル時、需ル所ノモ
 ノ三アリ、曰ク風
 氣、曰ク溼、曰ク熱

之ヲ敢テ除クナシ、毎ニ謂フ祖宗ノ魂、虎ノ
 體ニ附セリ、故ニ之ヲ殺ス者ハ子孫昌ヘズ
 ト、是ヲ以テ虎ノ患日ニ増シ、寧處アルナシ、
 嘗テ聞ク、彼ノ處獼猴甚ダ多シ、一タビ虎ノ
 来ルヲ見レハ奔テ樹ニ上ル、虎樹下ニ至リ、
 目ヲ睜シテ咆哮スレバ、衆猴驚キ落ル、果
 ノ如シト、印度國虎ヲ擒ルノ法、或ハ樹膠ヲ
 以テ落葉ニ濃糊シ、草地ノ上ニ密排シ、中ニ
 小狗ヲ置ク、虎吠喊ヲ聞キ来テ攫食ス、膠ノ
 葉觸ルニ遇ヘハ則チ粘ス、口ニ糊リ目ニ眯
 ラレ、愈々動ケバ愈々多ク、竟ニ脱スル能ハ

風氣ハ酸素窒素
ヲ種子中ニ透入
シ、生氣ヲ發動セ
シメ、嚙ハ種子ヲ
柔カニシ、酸素ヲ
沁入セシメ、熱ハ
之ヲ腹ニテ速化
セシム、種子崩サ
ントスルハ、最モ
光リヲ惡ミ、光リ
ヲ見レバ、生ズル
能ハズ、又水ヲ留
ルヲ勿レ、水留レ
バ土冷ハ、風氣通
スルヲ能ハズ、糞
近ツクヲ能ハズ、
種子地ニ落ル法、
ナラズ、實白ラ

ス、獵戸遂ニ從テ之ヲ刺ス、又法、竹ヲ以テ一
ノ疎篋ヲ織ミ、人其内ニ卧シ、并ニ一ノ犬ヲ
携フ、虎至ツテ撲索トキ、即チ銳キ矛ヲ以テ
擣テ透シテ之ヲ刺ス、又法、木ノ桶ヲ以テ鞞
ヲ作り、象ノ脊ニ駕セ、桶ノ中ニ火鎗長矛ヲ
置キ、二三人其内ニ伏シ、直チニ巢穴ニ抵ル、
象助ルニ足ヲ以テシ、人彈ニ鎗ヲ以テス、一
日ノ間ニ常テ十餘ノ虎ヲ獵スル者アリ、印
度ノ醫生、毎ニ其皮骨ヲ煮テ藥トナス、然レ
レ亦其効ヲ見ズ、

豹論

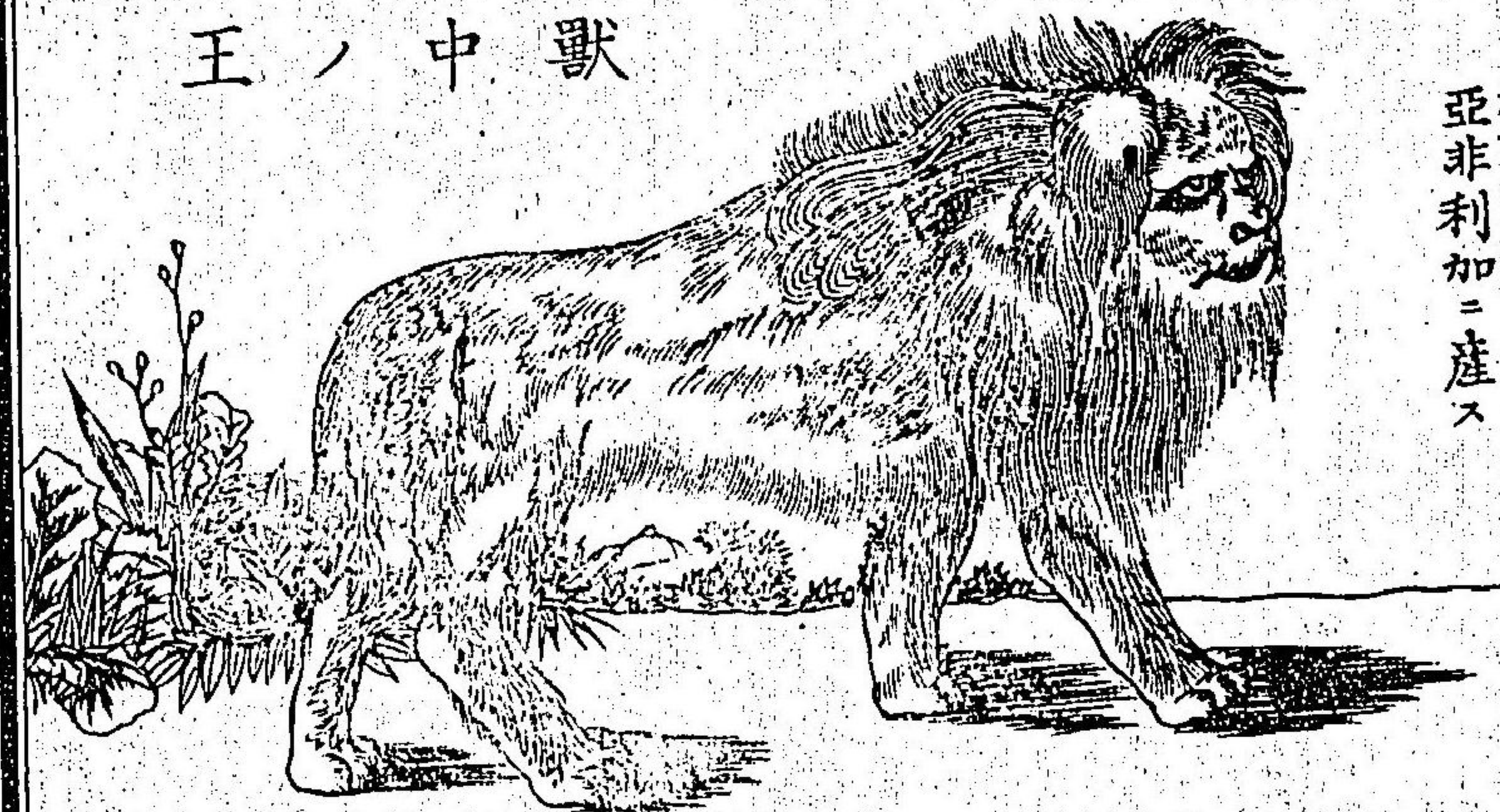
落ルアリ、實穀忽
チ散ケテ、種子地
ニ散スルアリ、實
物ノ觸ル、ニ依
テ開キテ、種子ヲ
散ラスアリ、其他
猶ホ多シ、種子水
ニ入テ浮シ、漂ヒ、
異地ニ着シテ發
生スルアリ、椰子
ノ如キ河邊ニ生
ハシ、果遂ニ海中
ニ入リ、萬里ニ漂
流シテ生ズ、是ナ
リ、種子極テ多キ
芭蕉ノアリ一種ノ
千種アリ、大薊ハ

豹身ノ高サ二尺餘、首ヨリ尾ニマデ長サ五
尺、肚白ク脊黄ナリ、斑駁愛スベシ、其性人ヲ
畏ル、喜テ小獸ヲ啖フ、力能ク樹ニ上リ、跳躍
ズル甚ダ疾シ、其類數種アリ、其名ヲ一ニセ
ス、中ニ一類アリ、吹獵ヲ教エベシ、小ナル者
ハ饑ニ熟食ヲ以テス、馴ル、家猫ノ如クナ
ラシム可シ、大ナル者ハ鹿麋ヲ捕ヘシメ、吹
スル獵犬ノ如クナラシム可シ、俗ニ謂フ虎
三子ヲ生ニ必ス一豹アリト、其説是ニアラ
ズ、

龍類
博物新編
卷之四

一萬四千種アリ、
 煙草ハ四萬種アリ、
 植物無花ノ植物
 植物花ナケレバ
 心ト鬚ナシ種子
 或ハ皮ニ生ジ或
 ハ葉ニ生ズ其種
 ハ聚胞体ナリ無
 花ノ植物分ソテ
 二類トスハ上
 長類一ハ通長類
 ナリ
 簿冊ヲ察スル法ヲ
 又各卷ヲ分ツベ
 シ第一冊ニ外長

獸中ノ王



大獅
 亞非利加ニ産ス



獅子ノ巢
 マスノニテ

蛇見テ怒ル

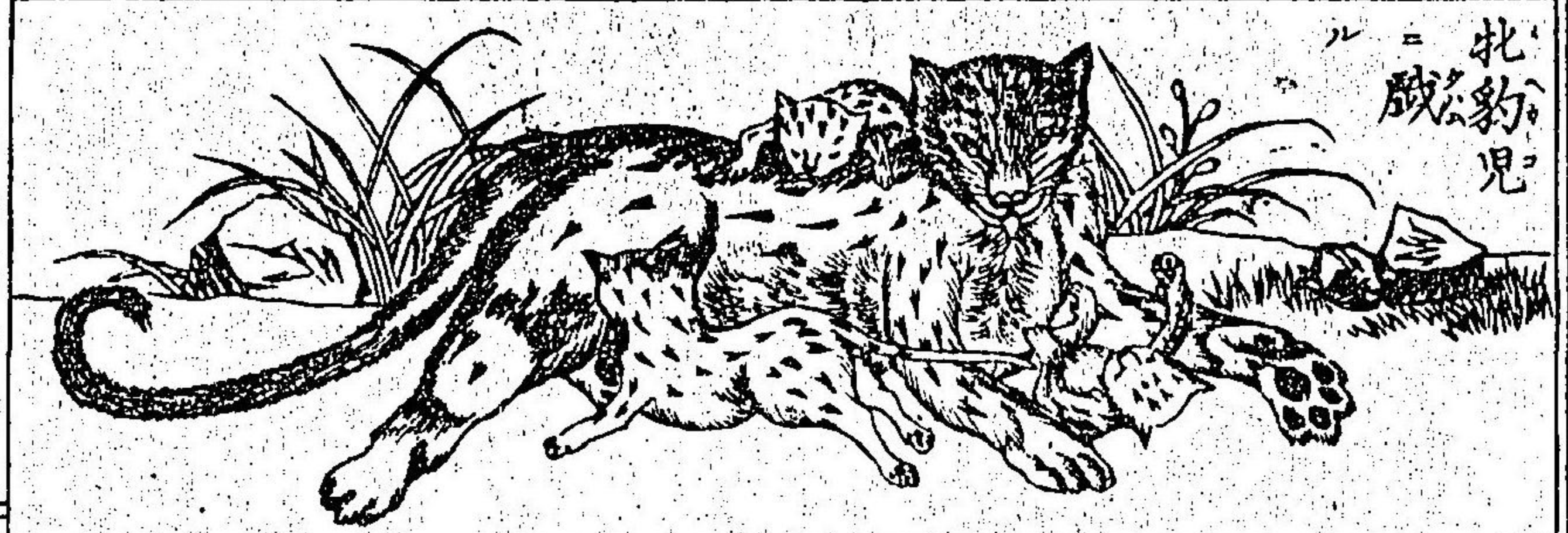
五部ヲ記シテ五
 卷ニ分テ第二冊
 内長五部ヲ記シ
 テ五卷ニ分テ第
 三冊上長三部ヲ
 記シテ三卷ニ分
 チ第四冊通長三
 部ヲ記シテ三卷
 生部ヲ記シテ一
 卷トス最モ銳利
 ナル薄及ト顯微
 鏡ヲ貯ヘ植物未
 ダ何類ヲ知ラヤ
 ルモノ遇ハバ
 枝葉花果ヲ割キ
 顯微鏡ニテ察シ
 其何類タルヲ攷

北虎兒ヲ脚ル

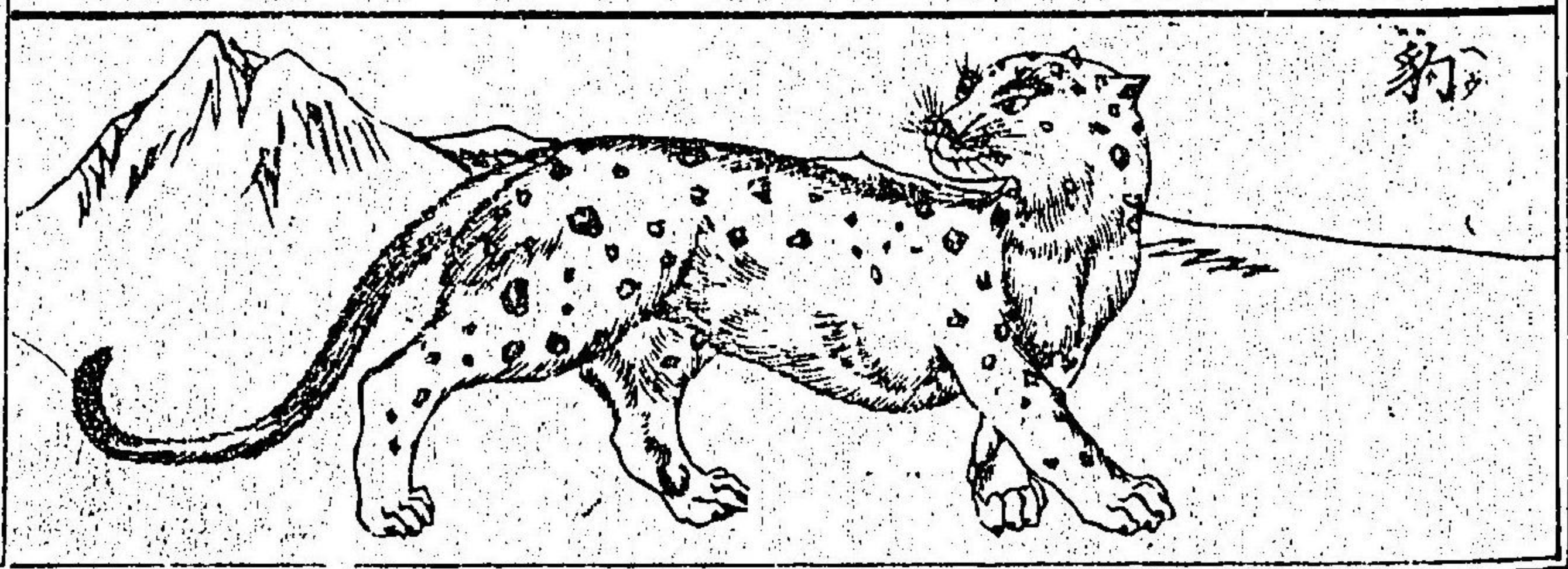


大蛇

北豹兒

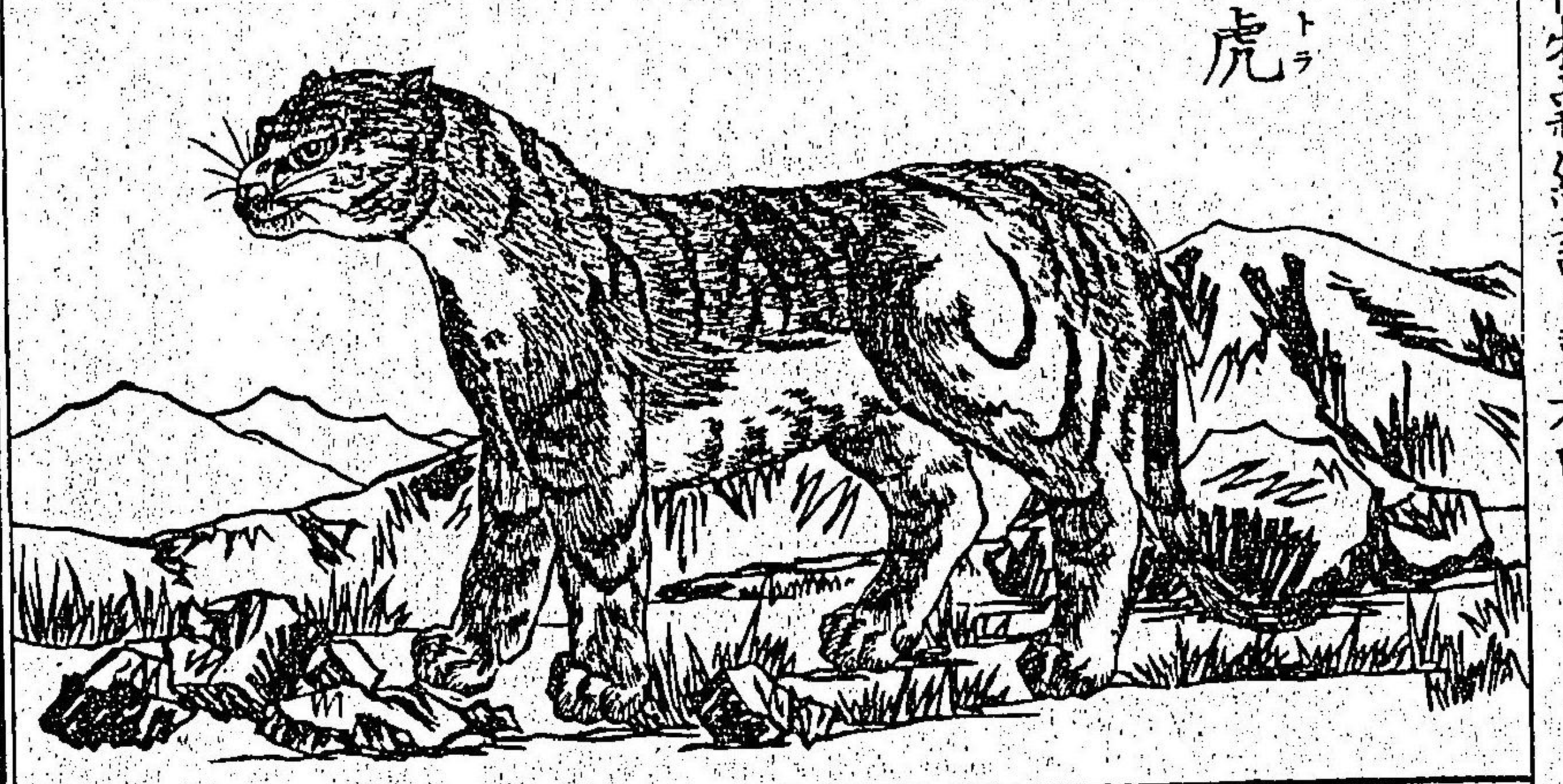


豹

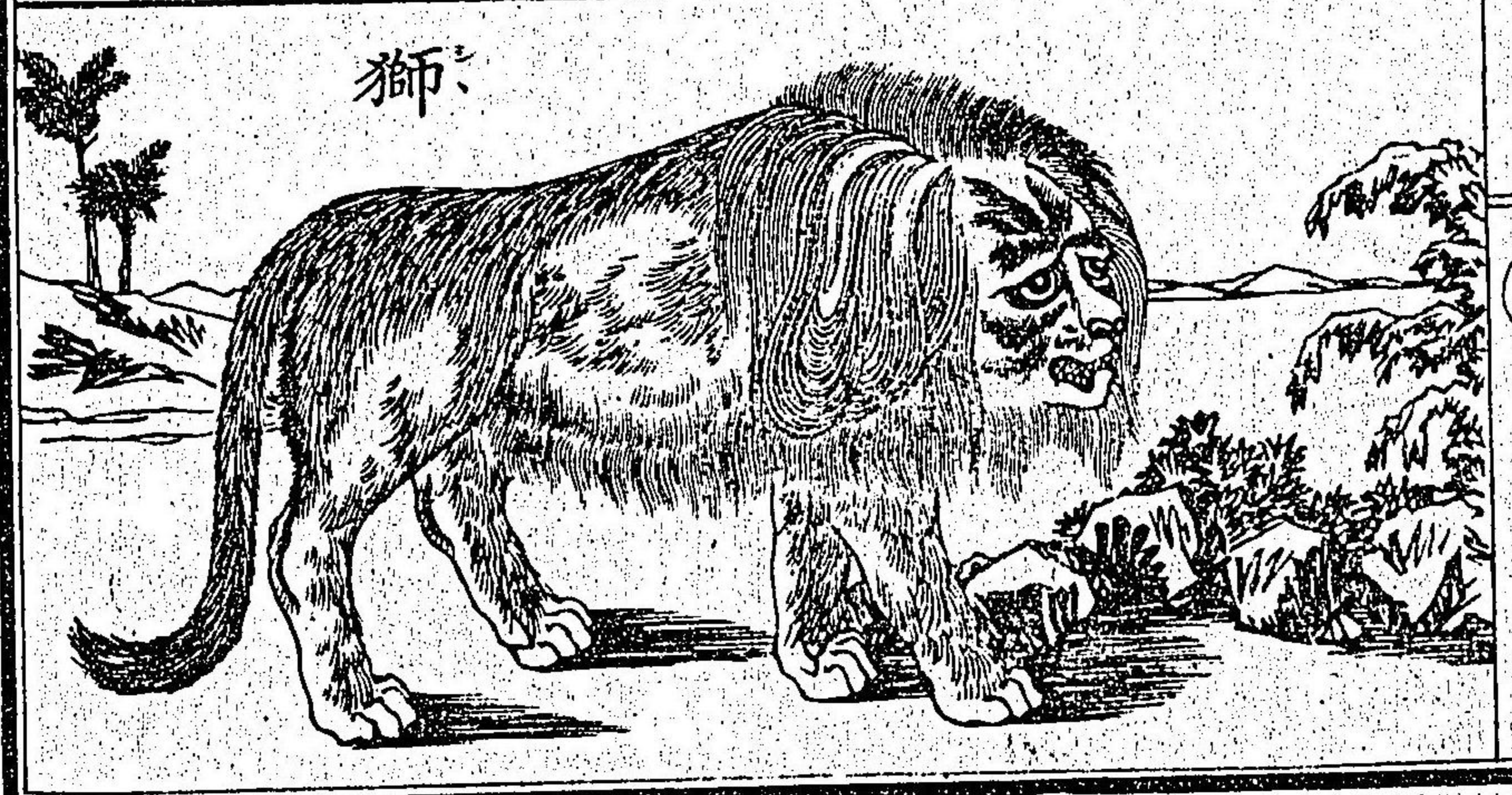


一極察ツ無スルレ其第用ハテ記ノナハ
樹テ理數蓋モ同枝幾ヒ辨ス冊ル再
一細極シ蓋シ部同葉部ズ、若集一
草カテシノ小每之ヲ部花再タ其
必ナレシ部中詳似果細ルヲ知類
其ハ、分又記ザ察カニ知類ヲノ

虎



獅



根イカニ其枝葉
花果イカニ何處
カ聚胞体タル何
處カ線体タル一
切心ニ明了タル
ベシ千萬種ヲ攷ル
ヘテ忽略スルヨ
リ一種詳細ナル
ニシカズ今日一
木ヲ攷記シ明日
一艸ヲ攷記シ春
夏秋ノ三季日々
此ノ如シ冬日草
木凋零シテ攷フ
可キナケレバ記
スル所ヲ比較シ
テ細カニ類部ヲ
分ソベシ

犬類

豺狼狐犴皆犬ノ屬類善惡ヲ分チ其性剛柔
アリ、惟犬ノ尾ハ捲上リ、豺ハ尾下リ垂レ、微
ク差別アリ、孕胎六十三日ニシテ生ム、産後
十日ニシテ眼ヲ開キ、四月ニシテ齒ヲ出シ、
兩年ニシテ長ケ定ル、牝牡交合シ、飲食哺乳
ハ、彼此皆同シ、豺狼ノ性暴ニシテ頑ナリ、常
ニ群ヲ聯子以テ鹿兔ヲ捕フ、色ニ黑白ノ二
種アリ、身ノ高サ二尺長サ約々三尺、乳ゴト
ニ八九子ナリ、性頗ル人ヲ畏ル、
獵者或ハ鷹ヲ放テテ其目ヲ攫シ、後ニ之ヲ

花葉既ニ攷察ヲ
 經タル後、葉ル
 勿シ、收藏ノ法
 リ、粗紙ニテ夾
 重物ヲ以テ壓
 其紙毎口、乾ク
 之ヲ壓シ、乾ク
 俟テ、或ハ藥水
 灑ギ、或ハ藥末
 糝シ、或ハ藥末
 テ、其名及ヒ生
 ル所ヲ詳記シ、并
 ニ何類何部何門
 何種ト旁ラニ標
 シ、冬ノ日類部ヲ
 ツ、時ノ覆校ニ備
 フ、覆校既ニ畢
 レ、備

殺ス、嘗テ一ノ貴客アリ、馬車ニ駕シテ山ニ
 入ル、路ニ群狼其後ヲ尾スルニ遇フ、吞嚙ノ
 意アルニ似タリ、客大ヒニ恐レ、計ヲ為ス所
 ナシ、忽チ車ノ内ニ長キ繩アルヲ憶ヒ、乃チ
 數ノ索ヲ結ヒ、窓ノ外ニ懸ク、群狼佇ミ望テ、
 是レ網罟ナリト疑ヒ、並ニ皆散シ去ル、前數
 十年、英吉利國ニ豺狼甚ダ多ク、民生ヲ聊ゼ
 ズ、王乃チ金ヲ捐テ約ヲ立テ、能ク一豺ノ舌
 フ獻スレバ、銀數元ヲ賞スト、十餘年ノ後ニ
 豺狼ノ跡遂ニ絶タリ、今人竟ニ其狀ヲ識ラ
 ザル者アリ、俄羅斯國ノ地北極ニ近ク、寒冷

ハ、類部ニ依テ、大
 冊中ニ分貼ス、後
 日再攷セシト欲
 セバ、冊ヲ檢スル
 ノミ、若シ再ヒ鮮
 艷ノ状ヲ觀ルニ
 ハ、熱水ニ浸スベ
 シ、根幹枝ヲ薄ク
 切テ、攷察スルモ
 ノモ亦收藏ニテ覆
 攷ニ備フヘシ、
 植物凡ソ三百有
 三科アリ、外長類
 二百三十一科、内
 長類四十四科、上
 長類三科、通長類

常ニ異ナリ、豺狼最盛ニナリ、曾テ數ノ馬兵
 アリテ同行ス、群狼出テ、之ヲ繞ル、各々火
 鎗ヲ以テ百餘ヲ彈斃ス、衆狼猶ホ圍繞シテ
 解ケズ、彈窮キ藥盡ルニ迄、終ニ狼ノ為ニ
 噬殺セラレ、其慘毒ナルト此ノ如シ、又婦人
 アリ、三子ト家ニ歸ル、路ニテ飢タル狼數百
 ニ遇ヒ、車ノ左右ヲ繞ラル、婦人脱ス可ラザ
 ルヲ知り、幼子ヲ車外ニ擲テ以テ之ヲ飲マ
 初メ意ラク其肉ヲ得レバ則チ止ラレト、但
 狼多クシテ肉少ク、食フヲ得ガル者、仍隨
 繞シテ離レズ、婦人再ビ一子ヲ外ニ擲ッ而

十一科、寄生類十
 四科、今其一ニラ
 録シテ、初學入門
 ノ助トナス、類推
 シテ、精熟スベシ
 ト云、
 織形科ハ、外長第
 一部第一小部五
 科ノ一ナリ、共ニ
 二百六十族、一千
 五百種アリ、
 石榴科、外長第一
 部第六小部十科
 ノ一ナリ、共ニ四
 十五族、一千三百
 種アリ、
 繡球科、唇形科
 淡巴菰科、胡椒科

シテ狼ノ隨フコ故ノ如シ、又再ヒ一子ヲ擲
 ツ、狼始テ少ク息ム、乃チ馬ニ策チ家ニ抵ル、
 夫ト子死シテ婦歸ルヲ見テ、其心ノ忍ベル
 フ怒リ、即テ大斧ヲ持テ其妻ヲ劈キ殺セリ、
 事官ニ聞エ、竟ニ其夫ヲ將テ獄ニ繫ク、後思
 故ニ遇フテ之ヲ釋セリ、狼ノ害ヲ為ス類子
 多ク此ノ如シト云フ、
 犬ノ類タル小ナル者ヲ犬ト為シ、大ナル者
 ヲ狗ト為シ、絶大ナル者ヲ獒ト為ス、其類十
 餘種ヲ分チ、其毛十餘色ヲ分ツ、諸獸ノ中ニ
 テ最馴ルトシ、其用タル最大ナリトス、西人

櫻科 ○ 薔薇科 ○
 梨科 ○ 梅科 ○ 豆
 科 ○ 肉桂科 ○ 紫
 薇科 ○ 胡椒科 ○
 大黃科 ○ 檉科 ○
 薔薇科 ○ 罌粟科 ○
 ○ 玉蘭科 ○ 蓮科 ○
 ○ 荔枝科 ○ 木犀科 ○
 科 ○ 十字科 ○ 瓜
 科 ○ 胡桃科 ○ 梨
 科 ○ 桑科 ○ 麻科 ○
 ○ 楊柳科 ○ 松柏
 科
 水仙科内長第二
 部第二小部四科
 一ナリ、
 薑科内長類第三
 部第二小部三科

愛スル義僕ノ若シ、育フテ車ヲ牽ス者アリ、
 育フテ羊ヲ牧フ者アリ、育フテ人ヲ救フ者
 アリ、育フテ夜ヲ守ル者アリ、育フテ盜ヲ捕
 ル者アリ、育フテ畋獵スル者アリ、育フテ警
 フ相ル者アリ、北極廣莫タルノ野、綿亘數百
 里、隆冬ニハ雪深キコ數尺、一望ニ平ナルコ
 銀海ノ如ク、過客路ノ尋ヌ可キナシ、必ス犬
 車ニ藉テ、指南ヲ作ス、否ザレバ顛躓シテ途
 ニ迷フノ險アリ、是ヲ車犬ト名ヅク、其用一
 ナリ、又瑞西國噫啞哩國ト界ヲ交ルノ處、峻
 嶺アリ、橫枕數千餘里、兩國貿遷ノ客、嶺ヲ渡

卷四
 博物新編
 卷四
 廿三

芭蕉科、五穀科、○礦學、地球ノ全体均シク、礦物土石ノ質、凝結シテ成レリ、人未ダ深ク其理ヲ究メズ、僅カニ其外部幾層ノ礦質ヲ察スルモ、深キ六七十丈ニ過サズ、深キ百丈ニ及ベバ、意ヲ以テ料ルニ過キズ、然レハ料ル所地ノ半徑四百分ノ一ニ過キザルノ一ニ

ル者、絡繹トシテ絶ヘズ、然シテ嶺ノ逕ヲ峴ニシテ、風霜甚ク苦シム、道上ノ行人、寒瘴ニ感スル毎ニ、忽チ迷倦ヲ覺ユ、遂ニ慄トシテ路隅ニ昏睡ス、俄ニレテ六出紛飛シ、竟ニ雪葬ト為ル、或ハ半途ニシテ雪ニ遇ヒ、路ヲ擁シテ前マレズ、進退維谷リ、坑窟ニ僵テスルニ、至ル、富テ仁ナル者、乃チ嶺頂ニ一蘭若ヲ建テ、多ク巨燵ヲ畜ヒ、以テ之ヲ救ス、毡衫ヲ整身ニ纏ヒ、樽酒ヲ燵ノ項ニ懸ケ、喉テ四出セシム、燵隨テ嗅キ、隨テ行ク、雪ノ裡ニ人有ルヲ覺レハ、燵即チ挖爬シテ、之ヲ

金石砂土ノ如キハ、其微質見ル可ラズ、尽ク結成スルニ依テ、其形ヲ成セリ、其結成ノ常形アルハ、獨リ金石ノミナラズ、大ニシテ山岳ト雖モ、亦一理ナリ、巖石巉然タル結晶ヲ以テ、筆々、其角度尖銳角ナルト、大塊絶頂ヲ彫リテ、簇堆スルト、空中ニ挺ヅルト、釘頭ノ如ク圓頂ト、ノルモノハ、石頂ノ山ナリ、峻嶒

出シ、其側ヲニ蹲シテ守リ、人醒テ酒ヲ飲ミ、衣ヲ穿ツヲ俟チ、燵始テ返リ去ル、人若シ凍死スレバ、燵即チ奔テ其主ニ報ス、一靈燵アリ、曾テ二十二人ヲ活ス、好事ノ者、金ヲ捐テ、鑲ヲ鑄、以テ頸ニ鉗ス、環ニ文字ヲ鑄リ、以テ其功ヲ紀スト云フ、又乳母アリ、小孩ヲ抱キ、橋ニ立テ觀望ス、兒懷間ニ在テ喜躍シ、手ヲ失シテ水中ニ傾墮ス、傍ラニ巨燵アリ、跳リ從テ下リ、汹キ啣テ之ヲ救フ、是ヲ靈燵ト為ス、其用二十ナリ、又西國多ク羊ヲ牧テ生ヲ為ス、或ハ數十群ヲ為シ、或ハ千百群ヲ為ス、日

タルモノハスレ
ト及ヒ石英質
ノ裂片ヲ含ミ、鋸
ノ如キ鎗山ハ、マ
クネシヤ質ヲ含
メル石炭礦ノ一
種ナルトイフ
トフ含ミ、翻伏定
マラズ、宛轉彎勃
タルモノハセル
ヘンテイニ乳鉢
血等ヲ作ル石ノ
ト及ヒトラキ
ト証ナリ如キ
如ク又壇ノ如キ
嵯ハ、トライト
アリ、中坩ナル外
邊ハ、石炭質ニ属

ハ山ニ牧ヒ、夜ハ野ニ宿ム、數犬ヲ育ヒ以テ
巡邏トス、時ニ羊ヲ亡フアレハ、即チ犬ヲ嗾
テ指使シテ尋覓ム、萬一ノ失フナシ、是ヲ
牧犬ト為ス、其用三ナリ、又一種アリ、名ツケ
テ血犬ト曰フ、其鼻善ク嗅キ、偷兒ノ室ニ入
ルトアルニ遇ヘバ、主人其足跡ヲ嗅シム、百
里ノ外ト雖モ亦能ク追抵シテ之ヲ獲ル、曾
テ羊ヲ亡フ家アリ、牧者犬ヲシテ欄ヲ嗅ギ
賊ヲ跡ヒシム、犬且ツ嗅キ且ツ行キ、果シテ
賊ノ鄰村數十里ノ外ニ獲タリ、又海寇數艘
アリ、中ニ巨艇アリテ、賊出テ劫ヲ行ヘハ、艇

ス、平地ノ結成分
ハ、凡ソ「サハルト
堅石ノ名及ヒ「ホ
ルヒリイヌナリ、
尖形ノモノハ、多
クハ火山トス、
○金石ノ成形
草木ノ成形ハ、枝
葉アリ、動物ノ成
形ハ、手足アリ、金
石ノ成形ノミ、何
ソ其理ヲ異ニセ
シ、一金一石毎ニ、
各一定セシ本相
アリ、人ノ見ル所
ハ、皆其變形ナリ、
故ニ其形狀甚カ
多シト思ヘ、其

モ亦岸ニ登リテ羊ヲ攘ム、數晝夜ヲ經テ、羊
群ノ死スル者甚多シ、毎ニ羊ノ腰ヲ齧テ其
腎ヲ食フ、後ニ法ヲ設ケ鳥鎗ヲ以テ之斃セ
リ、又醫士アリ、城ニ入テ脉ヲ診シ、路ニ跛犬
ニ遇フ、呼テ之ヲ引キ歸リ、試ニニ藥ヲ以テ
其足ニ敷治ス、數日ニシテ尋テ愈ユ、嗾シテ
其主家ニ返ラシム、後年餘ニシテ犬另ニ一
ノ跛者ヲ引キ、直ニ醫院ニ造リ、尾ヲ揺シテ
醫ヲ求ム、再ビ藥ヲ以テ之ヲ治シテ愈レム、
二犬乃チ耳ヲ齧シ並ヒ行テ去ル、又醫士ア
リ、獨郊野ヲ行ク、忽チ巨艇ノ其後ニ隨テア

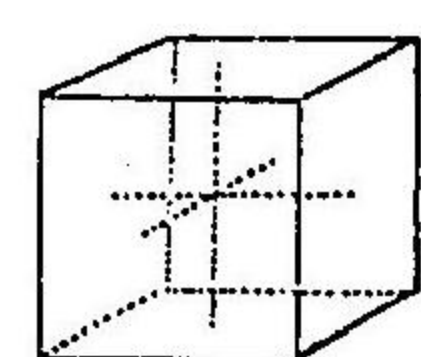
角度ヲ度レハ(下)文ニ見ユ皆一例ナラザルナシ、金石ノ結成スル形ハ其角度一定セリ、故ニ其成形ノ角度ヲ度レハ、其ハ其ノ物タルヲ知ル、假令ハガラ及ヒ炭酸灰ノ成形ハ、俱ニ六角類タレ、其角、度ハ各異ナル如シ、

○金石ノ原形式十三種アリテ六類トシテ、
リ、醫士聲ヲ作シテ呼喝ス、焚目ヲ仰ゲ尾ヲ揺シ、故主ヲ認ルガ如シ、醫士心ニ竊カニ之ヲ奇トシ、同行スルヲ數里、條チ數賊アリ刀ヲ拔キ路ヲ攔ス、醫士焚ヲ啖シテ賊ヲ噬セシム、賊衆披靡シ、遂ニ免レテ歸ルヲ獲ル、擬リテ此焚ヲ留メ養ント欲スレ、其焚終ニ遁レ去ル、又佛蘭西ノ俗皮鞋ヲ尚ビ好シテ墨膠ヲ以テ磨シテ瑩潤ナラシム、是ヲ以テ路ニ擦匠ノ人ノ為ニ靴鞋ヲ磨擦スル者アリ、嘗テ貴紳アリ、徒行シテ客ヲ捧シ、偶其靴ヲ汚セリ、遂ニ數錢ヲ出シ匠ヲシテ擦セシム、

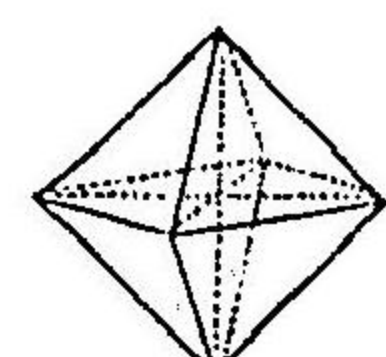
金石土砂俱ニ本來ノ形アリ其形ヲ元式トス原式十三種アレ今式ニ於テ縱横ニ樞線ヲ作ル謂ニ木目云フ樞線ノ長短及ヒ樞線ノ角ノ斜直ヲ以テ其形ヲ分テ六類トス凡ソ此六類セハ金石土砂ノ形ヲ按シテ其類ヲ分知スベシ凡ソ式ノ縦樞ハ、一アリ其横樞ハ二或ハ三ア

行ク數武ニ及ヒ、靴復タ汚ル、前ノ如シ、再ヒ擦キ再ヒ汚ル、其自ル所ヲ知ルナシ、乃チ心ヲ留テ瞻顧スルニ、一小犬ノ頻ニ來テ繞ラスルヲ見ル、頓テ乃匠ノ之ヲ使フ者ナルヲ悟リ、貴紳其慧ヲ喜ビ、遂ニ多金ヲ以テ購ヒテ之ヲ獲タリ、後ニ犬ヲ携ヘ、英吉利ニ往キ、一日忽テ所在ヲ失ス、蓋シ犬已ニ火輪船ニ搭リ國ニ回リ、万里ノ重洋ヲ歷テ故主ヲ尋ルナリ、西國ノ犬、暑天ニ瘧病アル毎ニ、人咬傷セラレハ、犬聲ヲ作シ、十ニ八九人ハ死セリ、故ニ西俗例ヲ定メ、暑夏ニハ竹笠ヲ用

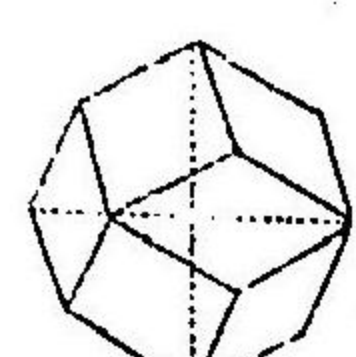
元式第一類



正方形柱形



正三角八面形



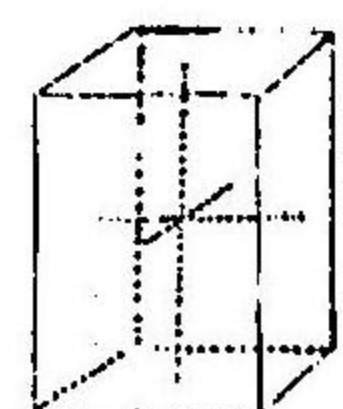
斜方十二面形

テ犬ノ口ニ籠セシム、否ラザレハ刺殺ス。此ガ為ノミ、犬ノ人ニ服役スル、其用甚ダ大ナリ。實ニ盡ク述ガタシ、天下万国ノ人アレハ即チ犬アリ、寒暑ヲ以テ其類ヲ絶ズ、固ヨリ天ノ人ヲ衛ル所以ナリ。

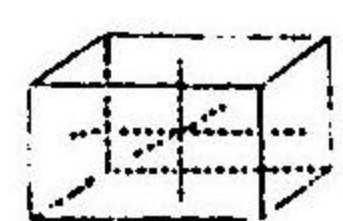
熊罷論

熊、黑白、撥ノ三種アリ、鼻厚クシテ長シ、多ク北方嚴寒ノ地ニ産ス、山巖樹穴ヲ以テ巢トナス、爪ノ長クシテ利シ、力能ク地ヲ挖テ窠ヲ作ル、走ルニ四足ヲ以テシ、行クニ兩足ヲ以テス、其勢甚ダ雄シ、毎ニ前足ヲ用テ生獸ヲ捕殺ス、性頗ル人ヲ畏ル、皮ハ裘ト作スベシ、脂油ハ燈燭ト作スベシ、又能ク風濕、鬚鬣ヲ治ス、腸ハ窓ヲ捫ベシ、明ナル玻璃ノ如シ、筋ハ線ト作スベシ、靱キヲ藤、芋ノ如シ、喜ニテ樹根野菜ヲ食ス、尤密汁ヲ嗜ム、饑極ルハ肉ヲ食ヒ、血ヲ飲ム、冬至レハ必ズ地ニ入り、蟄ク成ス、其類熊ト同ク、體ハ羆ヨリ細シ、羆ハ北極最モ大ナルノ獸トス、高サ約ソ四尺、長サ七八尺、毛ノ色純白ナリ、獨行テ群ズ、カラ能ク兩手ヲ以テ馬ヲ抱ヘテ行ク、山ニ在リテ野獸ヲ攫シ、水ニ入テ海狗ヲ捕ス。

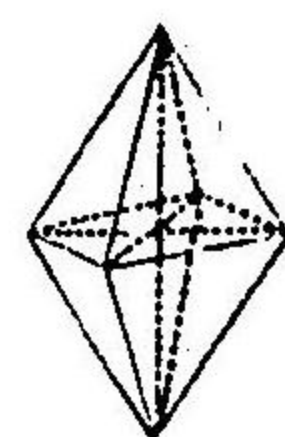
元式第二類



正方形柱形



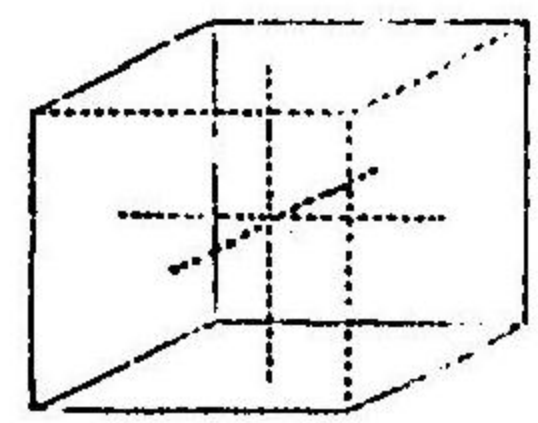
正方形八面形



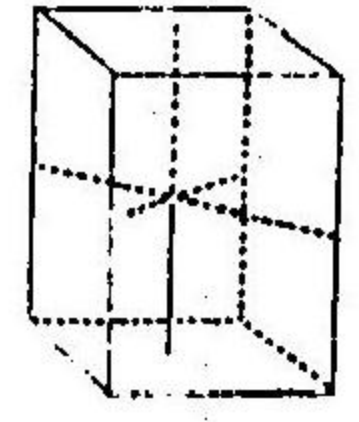
元式第三類

長方形柱形

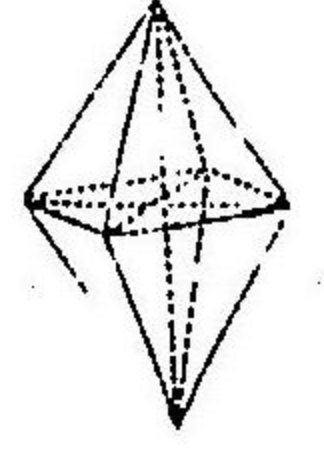
テ狗殺ス、性頗ル人ヲ畏ル、皮ハ裘ト作スベシ、脂油ハ燈燭ト作スベシ、又能ク風濕、鬚鬣ヲ治ス、腸ハ窓ヲ捫ベシ、明ナル玻璃ノ如シ、筋ハ線ト作スベシ、靱キヲ藤、芋ノ如シ、喜ニテ樹根野菜ヲ食ス、尤密汁ヲ嗜ム、饑極ルハ肉ヲ食ヒ、血ヲ飲ム、冬至レハ必ズ地ニ入り、蟄ク成ス、其類熊ト同ク、體ハ羆ヨリ細シ、羆ハ北極最モ大ナルノ獸トス、高サ約ソ四尺、長サ七八尺、毛ノ色純白ナリ、獨行テ群ズ、カラ能ク兩手ヲ以テ馬ヲ抱ヘテ行ク、山ニ在リテ野獸ヲ攫シ、水ニ入テ海狗ヲ捕ス。



斜方底直柱形

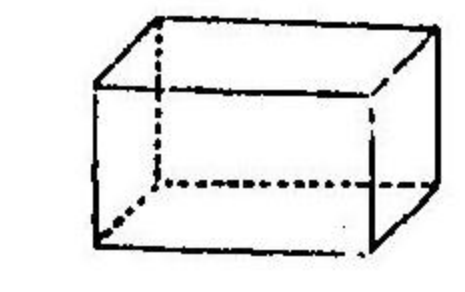


斜方底八面形

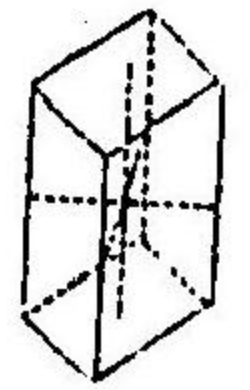
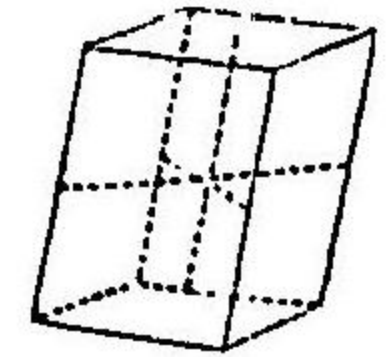


元式第四類

長斜方底直柱形



斜方底斜柱形



野獸海狗蹟ヲ絶テハ蔬ヲ食フ、産毎トニ二

子、性甚ダ慈愛ナリ、人其子ヲ捉ルハ、母必ズ

險ヲ冒シテ尋覓ム、人其母ヲ殺セバ、子則チ

依リ戀フテ哀ミ呼ブ、樹ニ上ル猫ノ如ク、爪

ヲ以テ爬行シ、樹ヲ下ル人ノ如ク、足ヲ以テ

先落ツ、氷ヲ履ミ雪ヲ踏ム、行走スル常ノ如

シ、實ニ獸類中ノ靈動者ナリ、嘗テ洋船ノ北

ニ入ルアリ、山下ニ泊ス、適々牝熊ノ子ヲ引

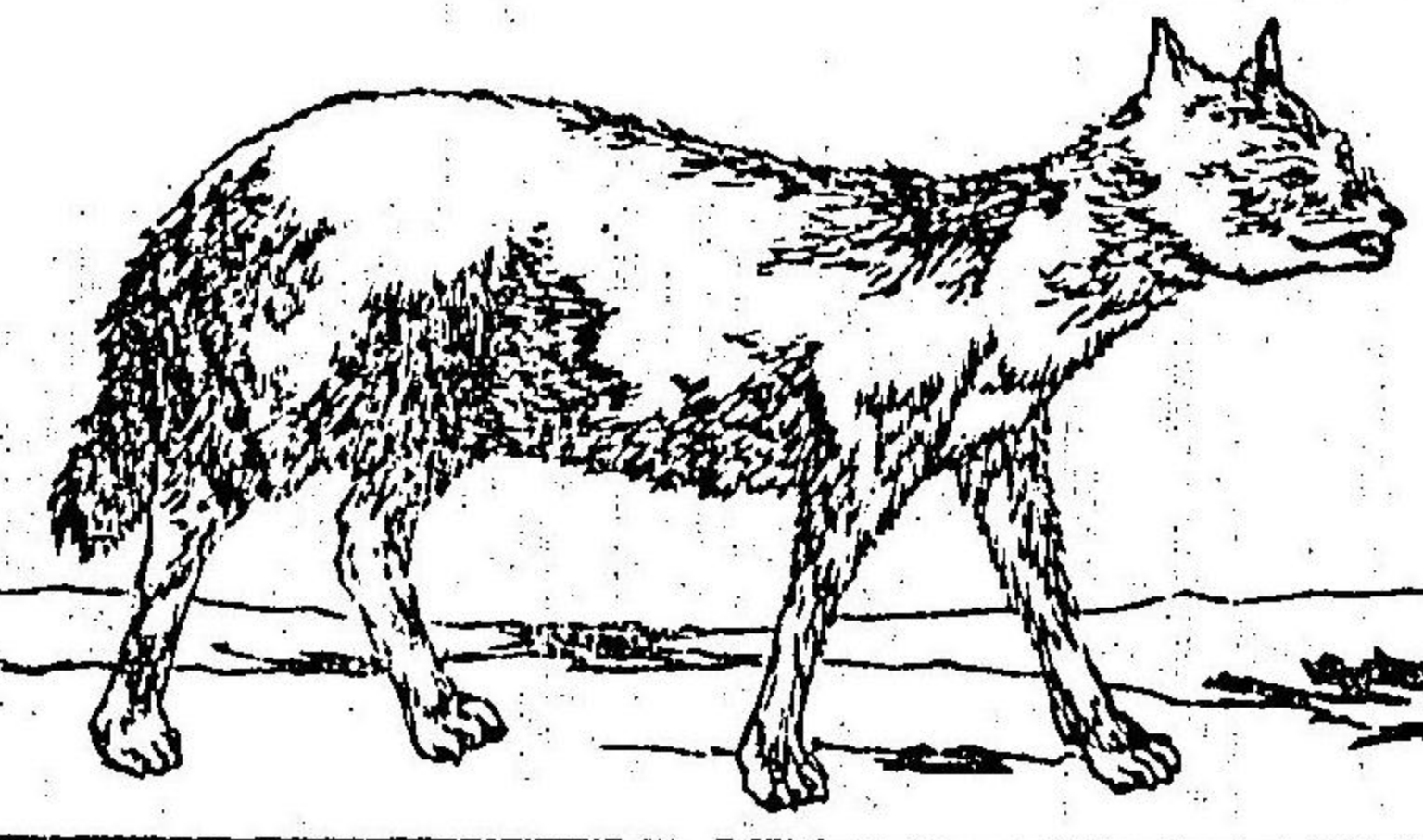
キ、食ヲ覓ルアリ、舟人肉ヲ擲テ之ヲ誘ヒ近

カシメ、遂ニ火鎗ヲ以テ其一子ヲ撃ツ、牝熊

呼戀シテ去ラズ、乃チ其母ヲ並テ之ヲ殺セ

リ、或ハ謂テ熊ハ熊ノ雌トナス者ハ非ナリ、

豺



狗 獵

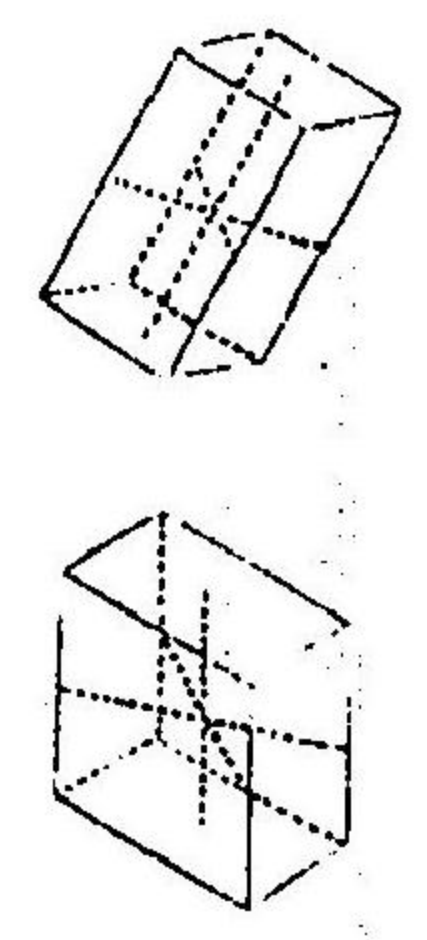


巨 葵 善 泗



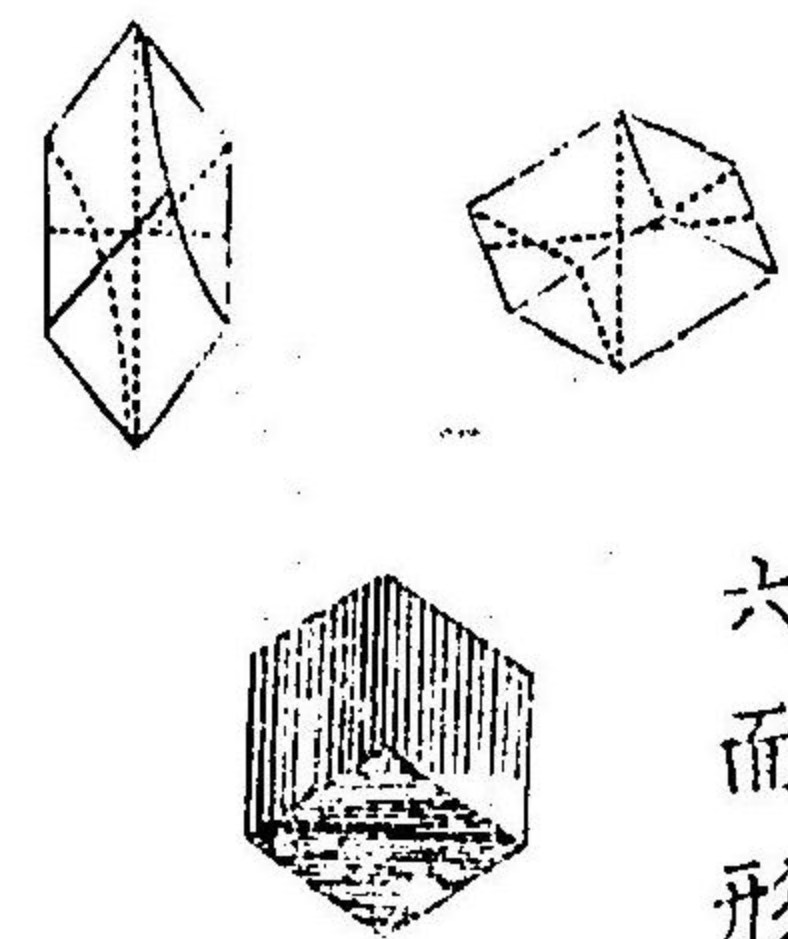
元式第五類

長斜方
底斜柱
形



元式第六類

長斜方
六面形



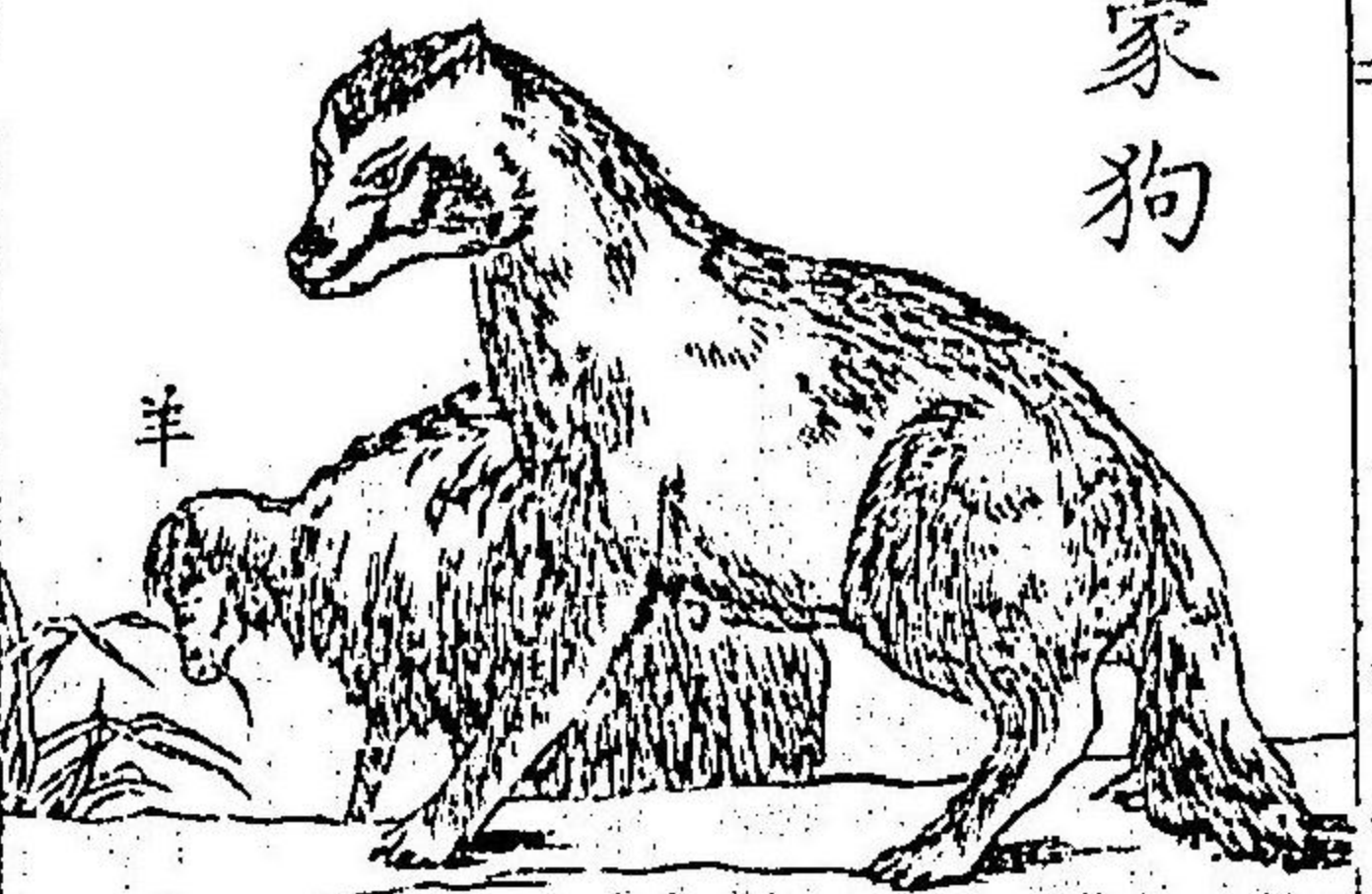
巨犛人救



雪山

帽

蒙狗

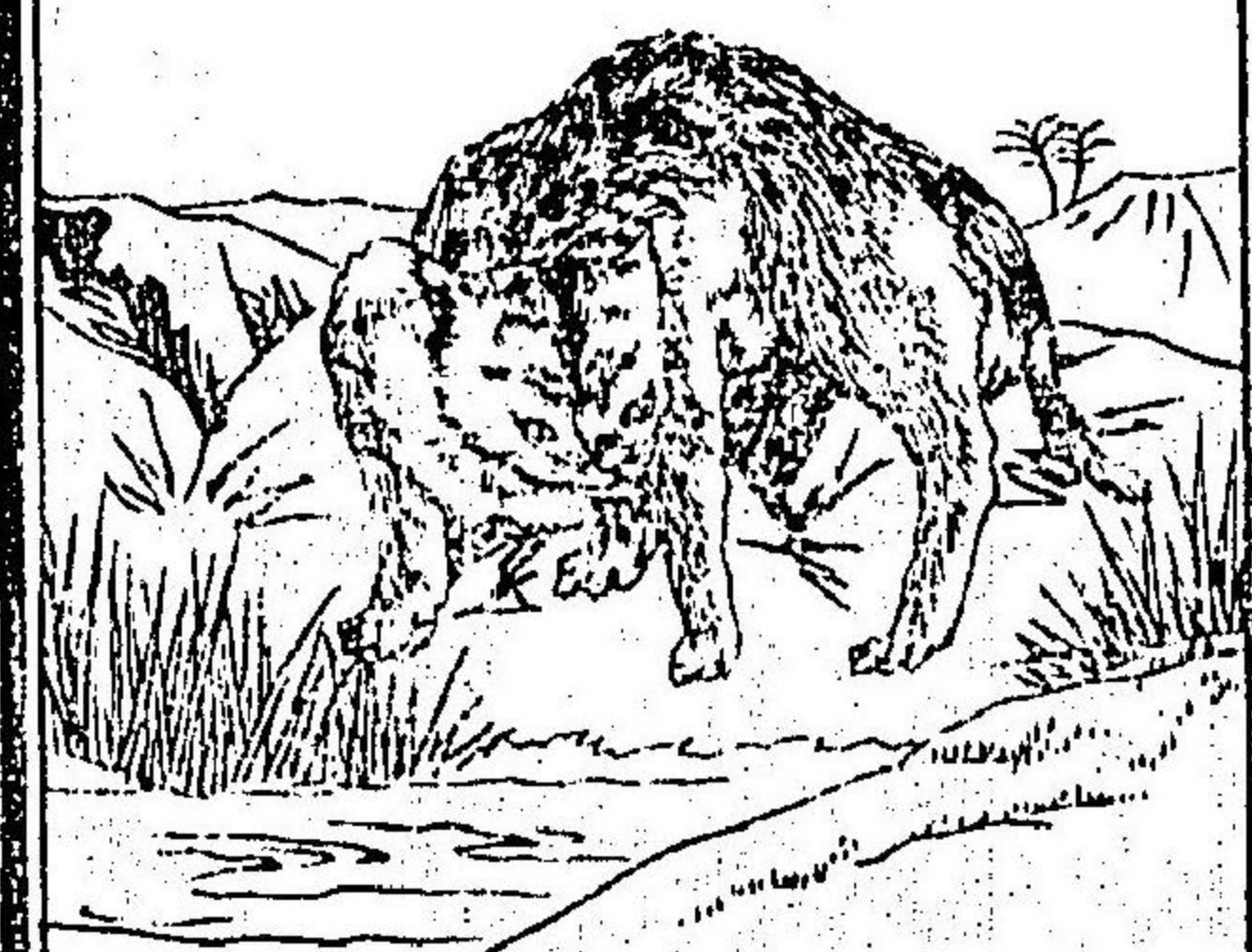


羊

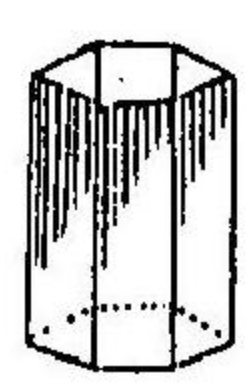
狐



野猫



以上六類ニテ
共ニ十三式アリ
皆金石成根本ノ
形ナリ圖ヲ觀テ
未ダ明悉ナラガ
レバ堅木或ハ嫩
石ニテ其雛形ヲ
作リ置キ金匠結
成ノ形ヲ査檢ス
ルトキ合セ見テ
之ヲ攷ム一巴目
形ノ類



六角柱
形

熊

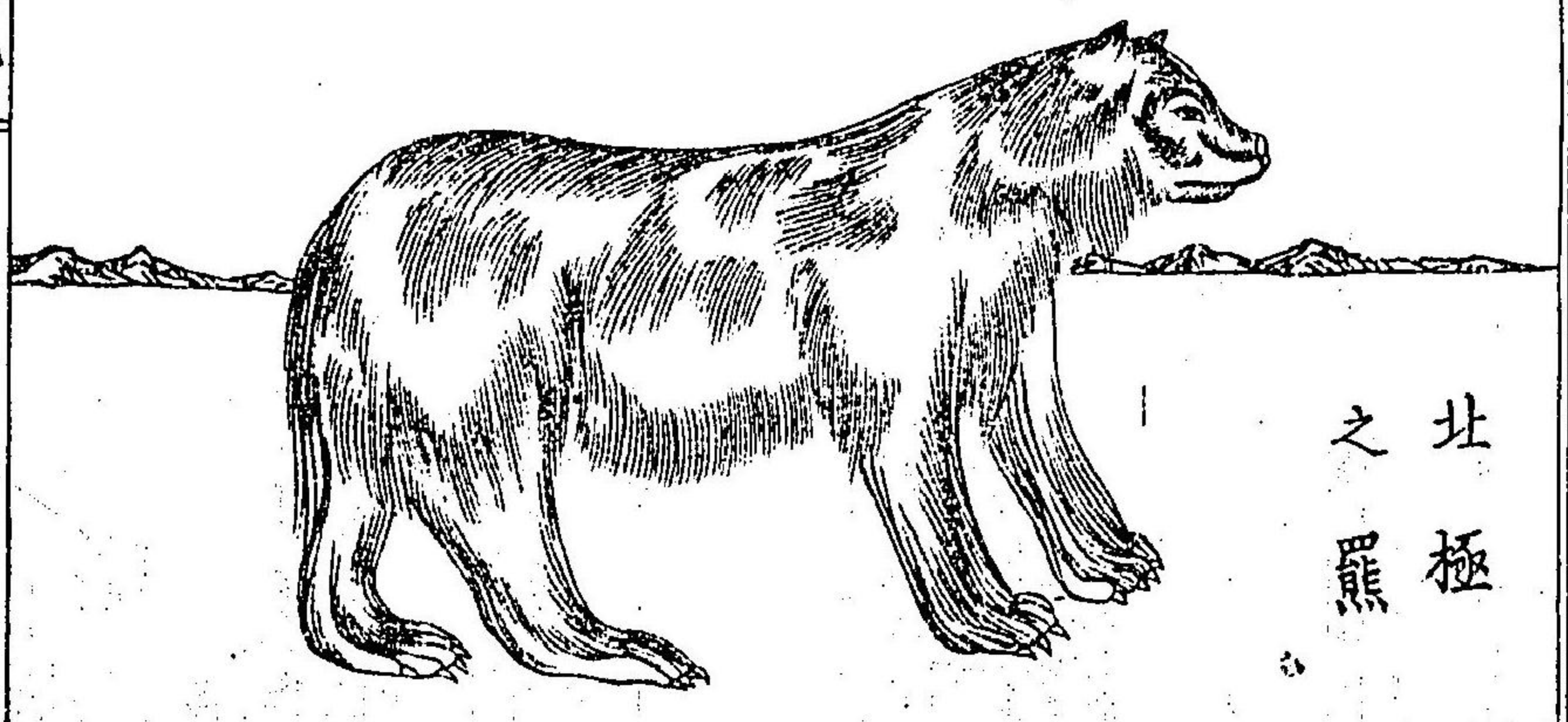


深山
ニ産ス

熊



北極
之熊



馬類

然タルヘシ
 ○元式ノ形互
 變ノ理

甲 乙 丙

ハ丙ノ如シ又削レシ乙削
 柱形變シテ正三方
 角八面形ト大ル

甲ノ如シ又削レハ
 削レ漸クハ
 テ漸クハ
 平角ヲ
 ノ方柱形
 モ正

庚 己 戊

ハ庚ノ如シ又削レハ己削
 形ヲナス又削レハ己削
 柱變シテ斜方十
 二面トナル

家中ノ六畜馬牛羊皆人ニ用アリ、而シテ服
 役スルノ良ハ馬ヲ以テ最トス、之ニ戰ヲ教
 へ、之ニ耕ヲ教へ、之ニ畋獵ヲ教フ、意ノ如ク
 ナラザルナシ、其性少ク悍ニシテ其力ヲ雄
 豪ナリ、肝アリテ胆ナシ、常ニ畏怯セス、駒四
 歳ヲ以テ長定ル、年三十ニ過ズレテ死ス、平
 居群ヲ喜ンテ獨ヲ喜マズ、食ヲ覓メテ相讓
 テ相爭ハズ、呼吸鼻ヲ以テシ、喘グニ口ヲ張
 ラス、睡ル少ク醒ル多シ、草ヲ食ヒ胃ニ入リ
 テ齧カガ齒ハ世ニセズ、蹄ヒ蹄ニ兩耳ノ先キ反シ向ス、天下

モ正
 方柱形
 ノ稜ヲ
 平行シ
 テ漸クハ
 削レハ
 成ノ如
 シ又削
 レハ己削
 形ヲナス
 又削レハ
 己削

ハ庚ノ如シ
 又削レハ
 己削

柱變シテ
 斜方十
 二面トナル

ノ馬、亞喇伯ヲ以テ最良トス、身ノ高サ八尺、
 日ニ行ク千里、其土人野馬ヲ伏スルノ法、二
 三人ニテ繩ヲ以テ其頸ニ索ギ、駕ルニ鞍勒
 ヲ以テシ、一人騎テ之ヲ縦ス、其跑躍既ニ倦
 タルヲ俟テ、然ル後ニ馳ヲ教テ以歸ル、半日
 ノ間ニ、野馬遂ニ家馬トナル、英吉利佛蘭西
 皆取テ購フ、英國近コロ鬪馬ノ戲レ多シ、其
 賭最モ豪ニシテ、勝負ヲ一場ニ決ス、動モス
 レバ番銀百万ヲ以テス、其絶グ快キ馬ハ、一
 瞥ニ眴ニ三里ヲ跑ル可シ、一時辰ニ三百六馬
 ヲ相ルハ鼻ノ孔大ク四蹄壯ニシテ毛滑ニ

○結成ノ形ヲ
其析スルハ
其紋理ニ循
フテ論ス
其元式十三種ハ
皆金石結成ノ形
ニ從テ得ル所ナ
リ炭酸灰ノ結成
物ハ法ヲ按シテ
剖析スレハ長斜
方六面形ナリ
方オヨソハ酸化
ノ結成ハ正
及ヒ正底八面
形ナリ硫酸鉛ハ
正方柱形ナリ若
シ法ノ如ク剖析
セサレバ剖碎シ

皮薄キヲ以テ良トス、馬ヲ選フハ善ク跑ル
ヲ以テ上トス、獵ニ善キハ之ニ次ク、騎シ駕
シ耕シ駝スルハ又之ニ次ク、然レハ嶺ヲ渡
リ山ニ登ルハ、又驢騾ノ便ナルニ如カズ、驢
ノ體馬ヨリ小ク劣ル、其性駝ニ耐ニ、歩驟從
容トシテ、忙ナラズ、迫ナラズ、倦モ蹄ヲ停メ
ズ、久シク勞シテ、病ナシ、騾ハ則テ父ハ驢ニ
シテ母ハ馬ナリ、其力尤勝ル、西域驢ノ皮ヲ
用テ履ヲ作り、鼓ヲ捫リ、或ハ紙ヲ製シ以テ
券契ヲ書ス、數百年ニシテ字磨滅セズ、傳ヘ
聞ク亞非利加深山ノ中ニ産スル花驢ノ一

テ元式ヲ得ズ此
皆生成ノ紋理此
ノ如キニハ其紋
理ニ從ルハ其本
形ヲ得ルナリ又
易キ理ナリ又紋
理隱レテ見難キ
ハ火ニテ燒熱シ
冷水ニ淬スレバ
紋理裂開シテ見
ユ
凡ソ紋理ハ元式
ノ面ト平行シ或
ハ稜ニ對シ或ハ
角ニ對ス
○元式變化シ
テ次形三十
八形アリ

種アリ、皮紋斑駁ナルハ虎ノ如ク、駛馳スル
捷速ニシテ、獵捕スルヲ甚ダ難シト、モシ之
ヲ得テ騎乗ト為サハ、當ニ王祭人ノ落釵白
鳳ニモ勝ルベシ、
駱駝論
駱駝ハ其狀甚ク異ナリ、頭羊ニ似テ角ナク、
口兔ニ似テ崩唇ナリ、身ノ高サ六尺、蹄ニ兩
ノ甲アリ、西ノ甲分岐ル口ノ内上ノ門牙二
ツ、下ノ門牙六ツ、另ニ貳牙二齒アリ、尖銳ナ
ルヲ虎ノ如シ、怒ルルハ人ヲ咬ム、背上ノ肉
鞍ノ如ク隆高一尺計、瘦ル甚キハ肉平カ

次形トハ元式ノ
漸ク變ジタル形
ヲ云フ此唯三十
八形アリ人々見
ル所金石ノ形ノ
無數ナレ法ヲ
按シテ熟察スレ
バ此元形次形ノ
外ナラズ然レ
造化ノ巧ミナル
其面目ヲ變レテ
千奇万狀ヲナス
見ル者其理ニ惑
フバシ一箇ノ顆
アリ二百箇面
リ其面ノ光滑ナ
ル顯微鏡モ此ヲ
視ル能ハズ又

ニシテ牛馬ノ如シ、雙鞍ナル者アリ、單鞍ナ
ル者アリ、其色、蒼褐、紫黃ト、類數種ニ分ツ、其
性、忍耐ニシテ力ヲ能ク重キヲ負ヒ遠キニ
致ス、常ノ駝ハ日ニ行ク八十里、快駝ハ日ニ
行ク三百里、壯ナル者ハ千斤ヲ負フ可シ、劣
ル者モ亦數百ヲ駝ニス、人駕載セント欲ス
レハ、駝即チ足ヲ屈シテ跪キ受ク、重キ其力
ニ足レハ即チ起ツ、若レ重キ其力ニ過レバ
鞭撻スト雖亦起行セズ、胎毎ニ一子、孕ハ十
一月ニシテ生ム、哺スル一週歲ニシテ乳ヲ
止ム、其壽五十年ニ過ズ、水氣ハ能ク十餘里

石洞中ニ結成ノ
顆粒アリ日光之
ヲ照セハ宛モ一
百ノ寶藍ヲ開ガ
如ク寶藍色紺碧
色、顯黃色互ニ
映射シ光彩活動
真ニ駭クベシ色
アルヲ見ル此等
ノ形式ト雖皆微
質ノ元式ノ面ニ
加シテ變次形
ヲ成セルナリ
無用ノ砂石ト思
フ物ニ異形アレ
ハ能ク熟察スベ
レ昔シ印度ニテ
黄色ナルガラス

ヲ嗅ク、春ノ季ニ交ル毎ニ、毛茸毳脱ス、長キ
者ハ種絨ヲ織ルベシ、滑ニシテ濕ヲ畏レズ、
其糞乾カシテ煤ニ代ル可シ、其溺製シテ藥
ト作ス可シ、其肉甘美ニシテ乳甜滑ナリ、沙
漠ノ地ニ産ス、性熱ニ耐テ寒ヲ惡ム、亞細亞
州ノ西、波斯、土耳其、伊犁、後藏、埃及等ノ處ヲ
以テ最モ多シトス、亞米利加、歐羅巴ニハ之
ナシ、其腹能ク饑ヲ忍ビ、時ニ能ク數日食ハ
ス、其胃能ク渴ヲ禁ヘ、常ニ能ク數日食ハス、
胃中別ニ水貯アリ、能ク清水十餘斤ヲ貯ヘ、
自ラ其用ニ備フ、嘗テ賈客アリ、駝ニ乘リ遠

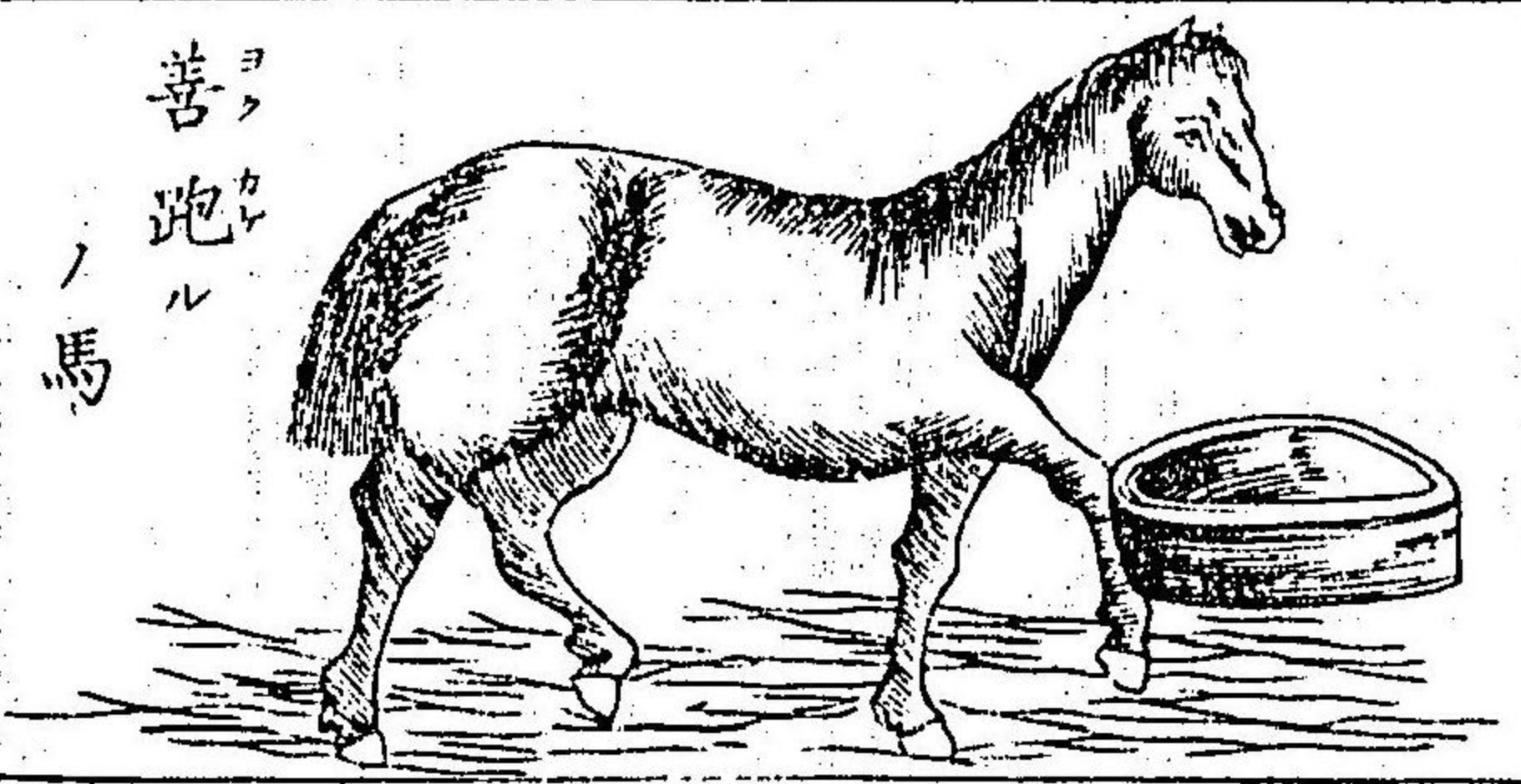
ノ缺ト思フ物ヲ拾ヘリ自ラガラスト思ヘハ人ノ請フニ任セ少價ニ賣却セリ豈ニ圖ンヤ天下最上ノ貴品ナル金剛石ナラントハ今現ニ英國寶藏ニアリ其價七十萬元ニ上レリトゾ若シ元形次形ノ理ヲ按驗セハ何ゾガラスト金剛石ト見違フ可ケ

○角度ヲ量ル

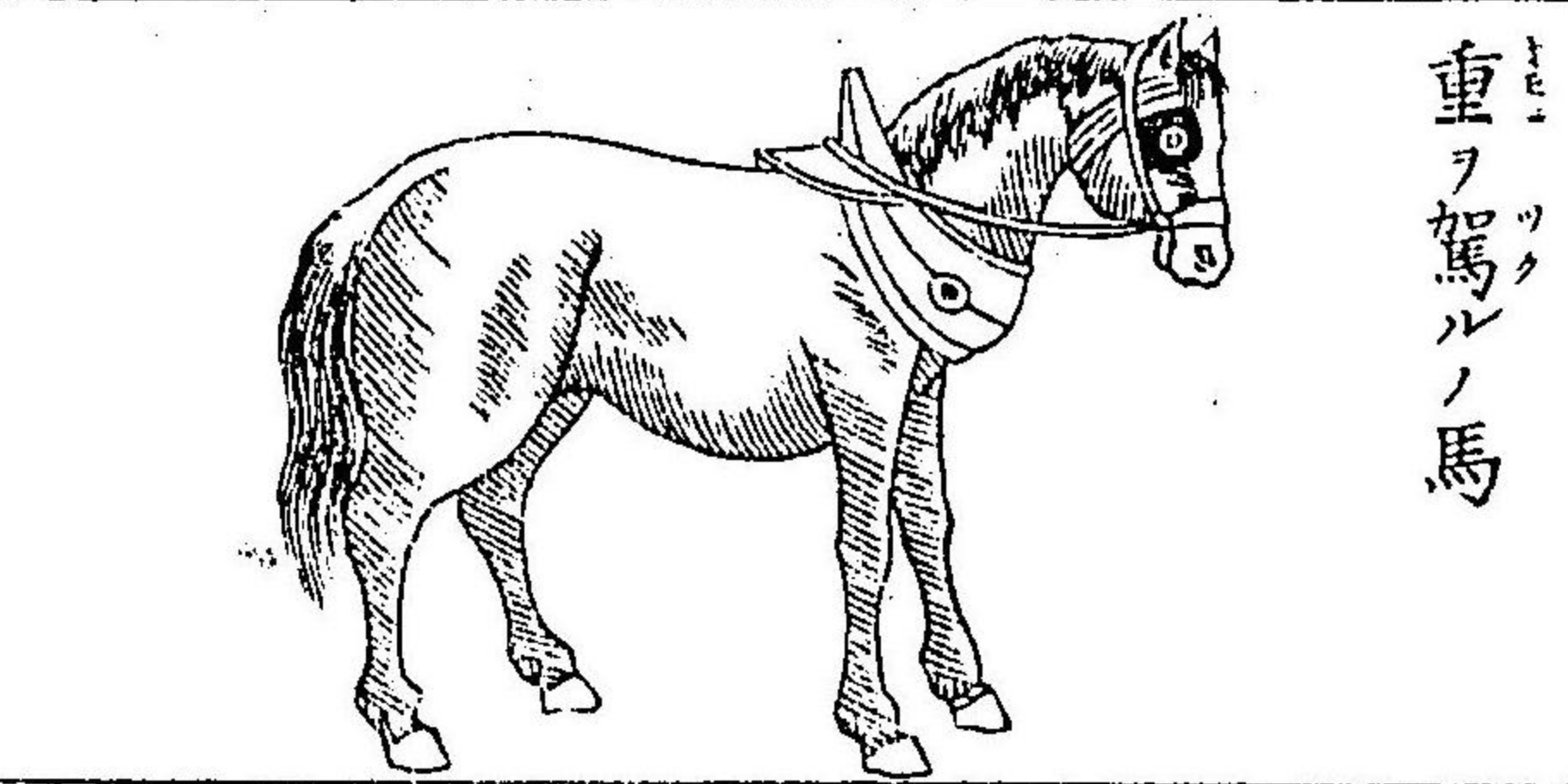
ク出ヅ、渴極ツテ死セント欲ス、遂ニ駝ヲ殺シ、胃ヲ剖キ、水ヲ取テ自ラ救ヘリ、其食喜ンテ荳麥ヲ啖ス、尤モ練刺ヲ嗜ム、美ニシテ貴キ者ハ、價二百餘金ニ値ル、凡ソ平原郊野、數日垠倪ヲ見サレハ、必ズ駝ノカヲ藉ル須シ、沙漠ノ土番、駝ヲ謂テ陸舟ト為ス、其負荷乘騎ノ功アルヲ以ノ故トリ、然レモ其性忍耐ト雖モ、若シ端ナク加フルニ鞭楚ヲ以テスレハ、必ズ報復ノ智アリ、曾テ暴客アリ、駝ヲ御スル甚ダ虐ナリ、駝怒ヲ忍ンデ變ラズ、夜深ク人静ナルヲ俟テ、奔テ主ノ榻ニ就キ、其

元式ノ面形稜角ハ目力能ク辨シ其小ナルモノハ顯微鏡能ク辨ス角度ノ多少ハ之ヲ量ルニ非レハ知ル不能ハス其量角ノ器圖ノ如シ半圈ヲ百八十度ニ分チ甲乙ヲ二尺トス一ハ動カス一ハ動ク心ニ括ム物ヲ量ル時甲ハ動カズ乙ハ翕張スヘシ又口ヲ以テ物ヲ銜ミ日ニ向テ之

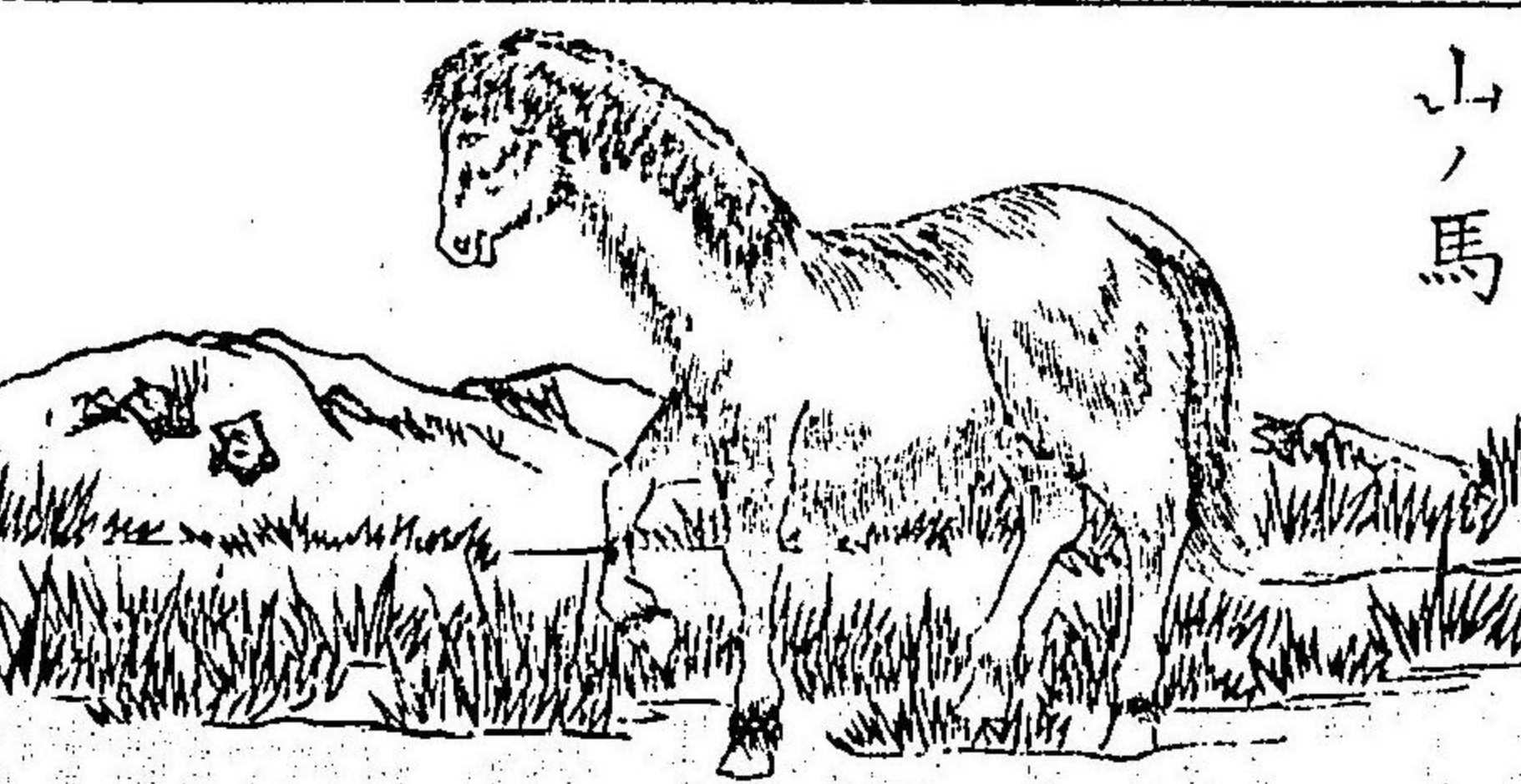
衣ヲ碎嚼ス、適々幸ニ暴客他出ス、次早ニ駝其主ノ歸ルヲ見テ、計ノ遂ザルヲ知り、乃チ氣ヲ作シテ死スト云フ、



善跑ノ馬

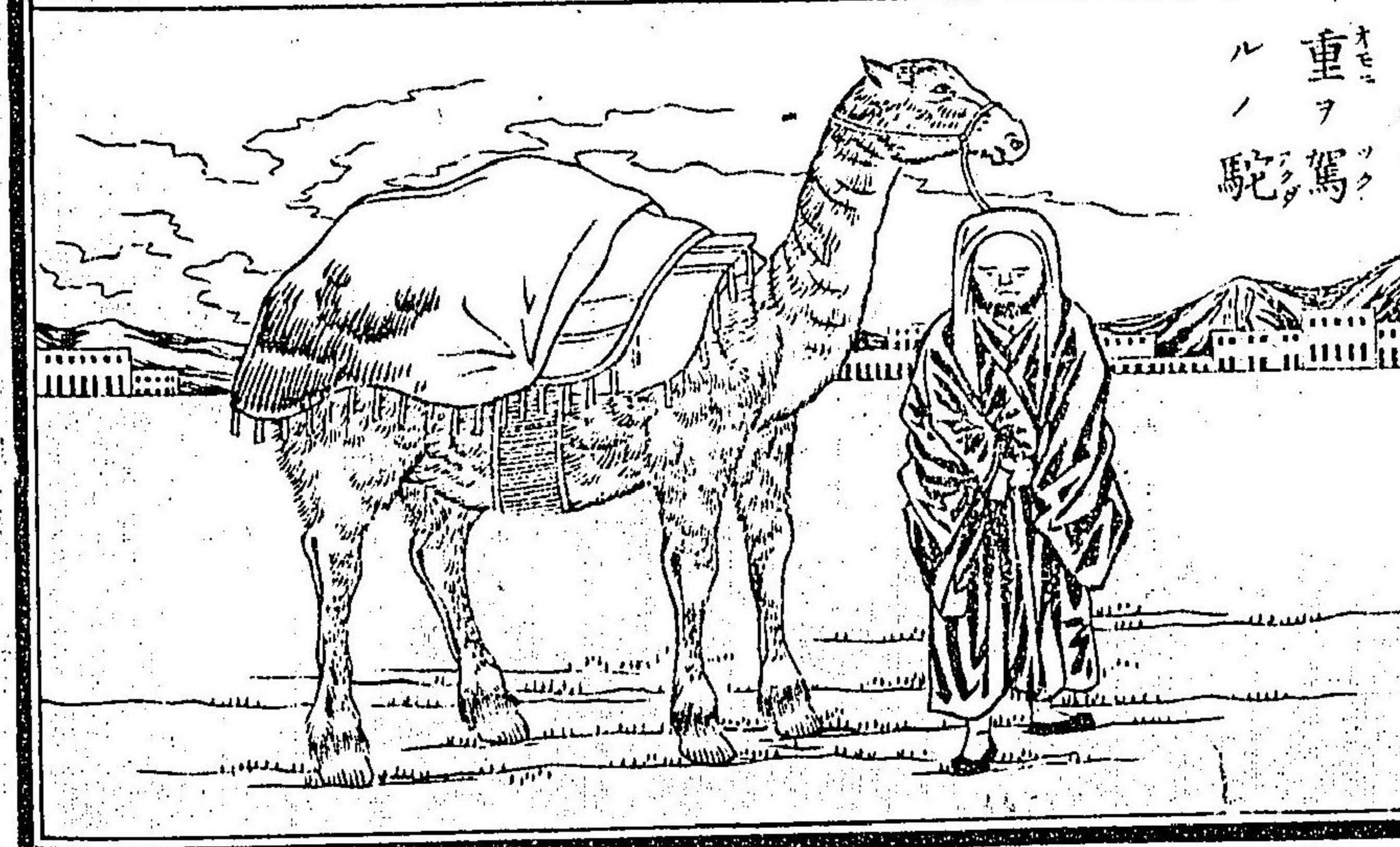
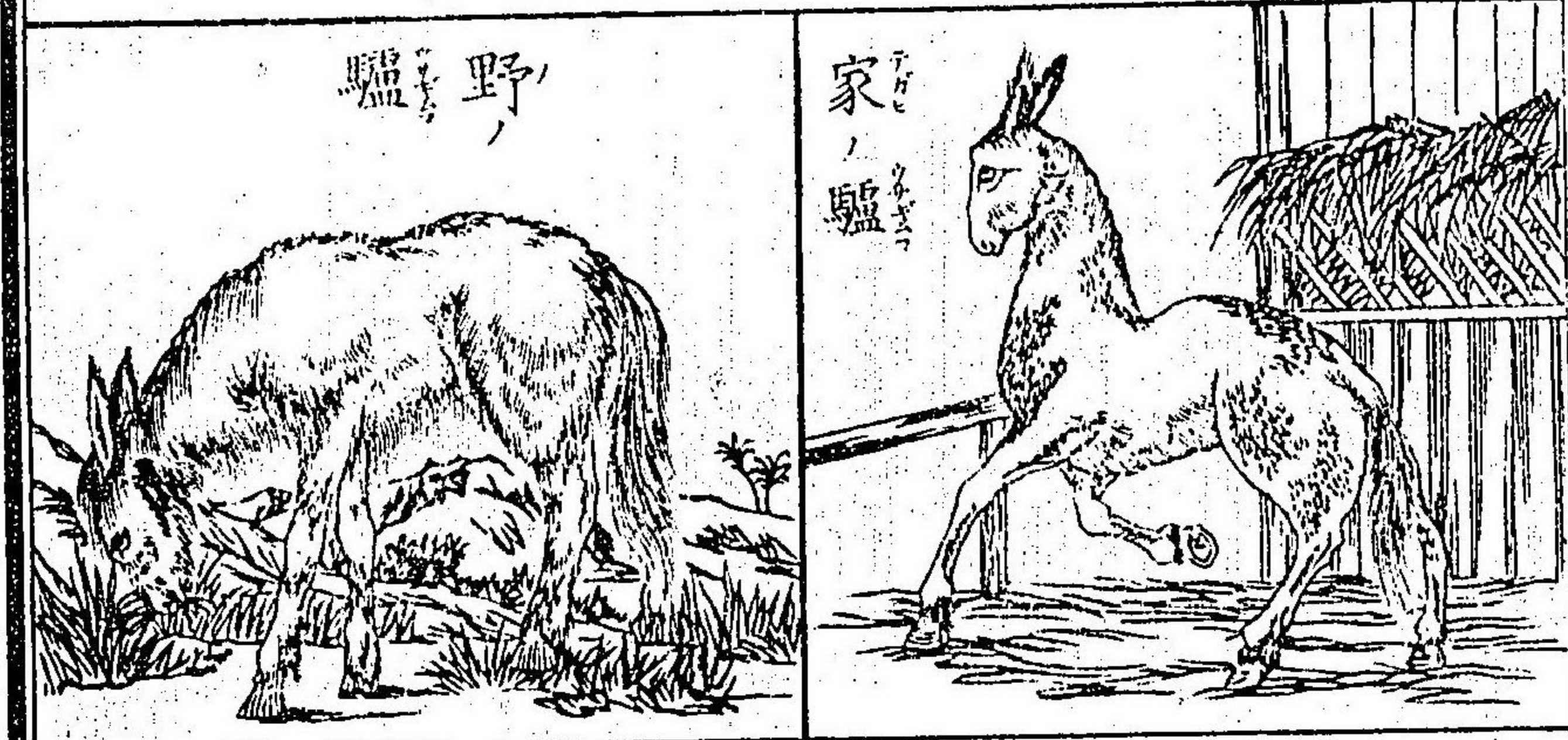
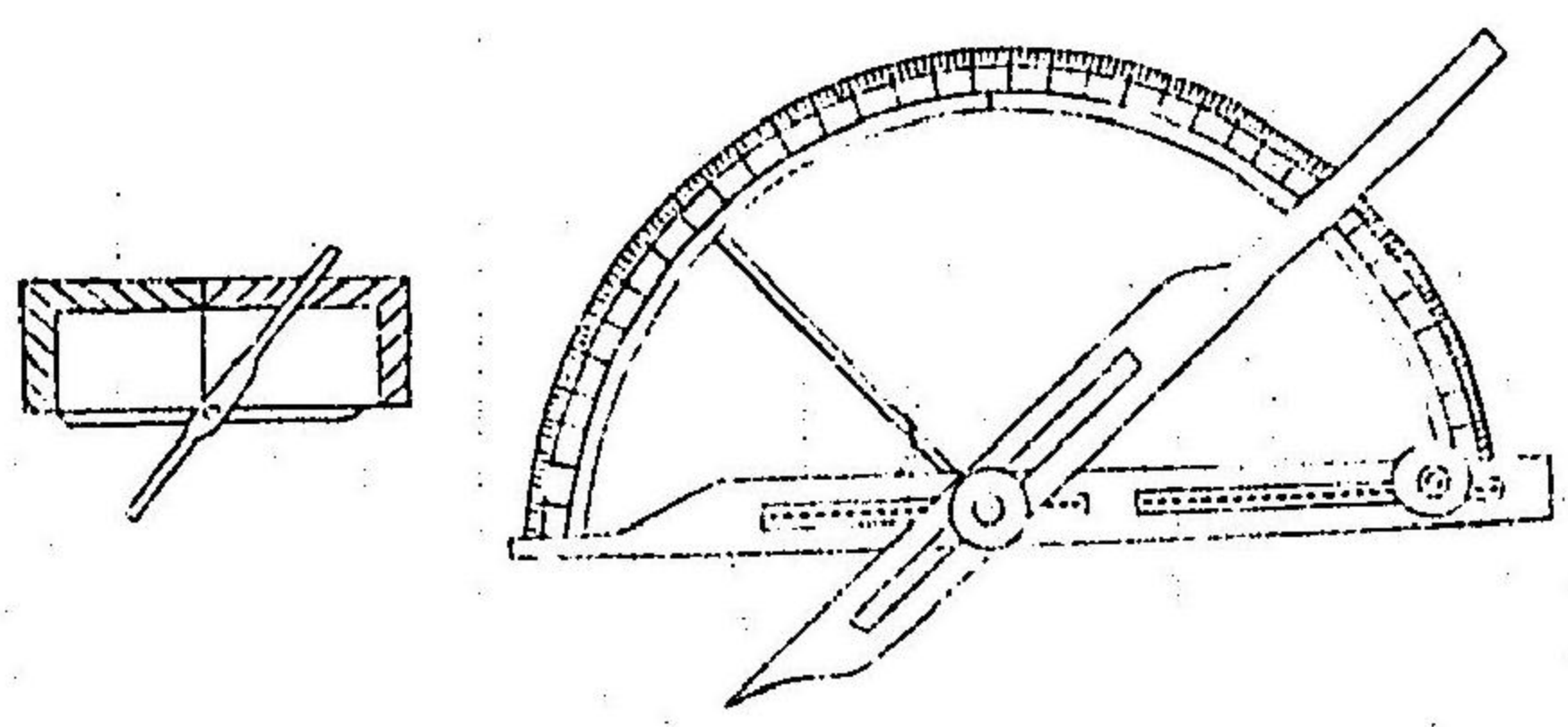


重ヲ駕ルノ馬



山ノ馬

テノラヲ
度對シ視
數スルハ縫
ヲ定ル所シ
ハ視ヲ柄



重駝

齒獸論

シ尺中ニ槽孔アリ
ルハ弧ノ徑線ヲ
見テ校準ニ使リ
スヘシ且ツ細物
ヲ置テ量ル為ナ
リ
金石ノ形色
光リハ分テ六種
トス金光玻璃松
香光珠光網光是
ナリ
回光
回光トハ返射ス
ル光ヲ云フ分ツ
テ四等トス
光リ明鏡ノ如ク
能ク鬚負ヲ照ス
ヲ第一トス

草ヲ食ノ獸甚ダ多シ、反芻出嚼スル類、牛羊
麋鹿アリ、性蠢ニシテ馴ル、生物ヲ殘セズ、胆
モ怯ニシテ懦ナリ、自ラ衛ル能ナシ、腹ニ四
ノ脰アリ、脰ニ百葉アリ、首ニ兩角アリテ各
用材アリ、其腸身ヨリ二十八倍長シ、其牙ハ
粗潤ニ磨ノ如クニシテ鋭ナラス、肉ハ甘ク
脯ト作ス可シ、乳ハ甘シ酪ト作ス可シ、肉食
中ノ上品ナル者ナリ、類各十數種アリ、種々
奇ナル形アリ、牛類ハ水牛、黄牛、封牛、犀牛、獅
牛、犛牛アリトス、羊類ハ山羊、草羊、綿羊、羚羊

能ク照シテ甚ク
分明ノヲサルヲ
第二トス
形ヲ照ス能ハス
能ク回光射光ス
ルモノヲ第三ト
ス
其面ヲ見レハ光
リアル如ク回光
スル能ハザルヲ
第四トス
○色
金色ハ紅銅色
紅色ハ紅銅色
黄色ハ黄金色
古銅色
褐色ハ鋼色

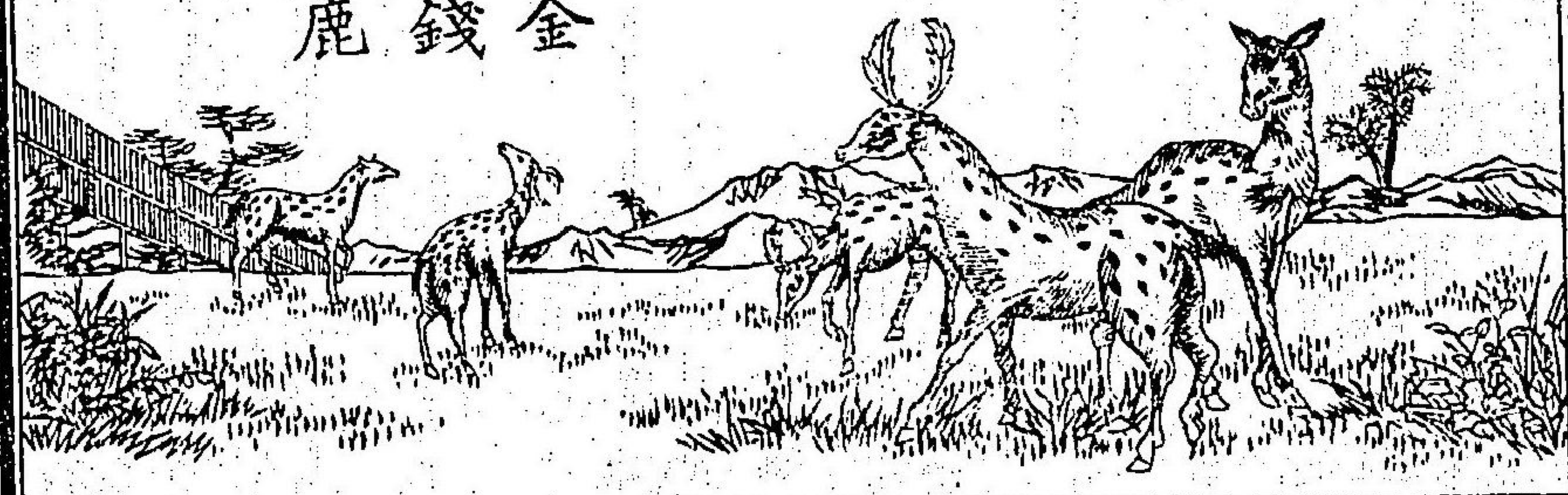
アリトス、又鹿類ハ靈鹿、麋鹿、麂鹿、麝鹿、麝鹿アリ類指ラ
偃ノ名ヲ計難シ、犛牛ハ後藏ニ産ス、身黒ク尾
白シ、毛長シテ叢ノ如シ、胃ニ牛黄アリ藥ト作
可シ、西域ニ白羊アリ、肉甘キ比ナシ、毛ノ長キ
犬ニ盈ツ、春ノ後ニハ其毛ヲ剪リ以テ絨ニ織
ル、冬至ニハ復長シ長サ舊ノ如シ、西域ニ麋
ノ之、獵狃ト曰フ、豹ノ文ニシテ驢ノ足ナリ、身
ノヨリ高シ、項ノ長八尺、首ヨリ蹄ニ至マテ、高
一丈五尺ニ逾ユ、葉ヲ食テ草ヲ食ハズ、其首ヲ
翹バ高樹モ攀ツ可シ、其舌ヲ捲ケバ大枝モ折
ル可シ、日能ク後ヲ顧ミ前ヲ瞻ル、身ノ勢仰キ

鐵色
鉛色
非金色白褐黒藍
緑黄紅紫ノハ色
アリ
白色五種アリ雪
白紅白緑白乳白
黄白
褐色五種アリ藍
褐煙褐緑褐珠褐
灰褐
黒色三種アリ緞
黒緑黒藍黒
藍色四種アリ室
藍葉藍天藍靛藍
綠色七種アリ翠
緑橄緑油緑草緑
果緑墨緑黄緑

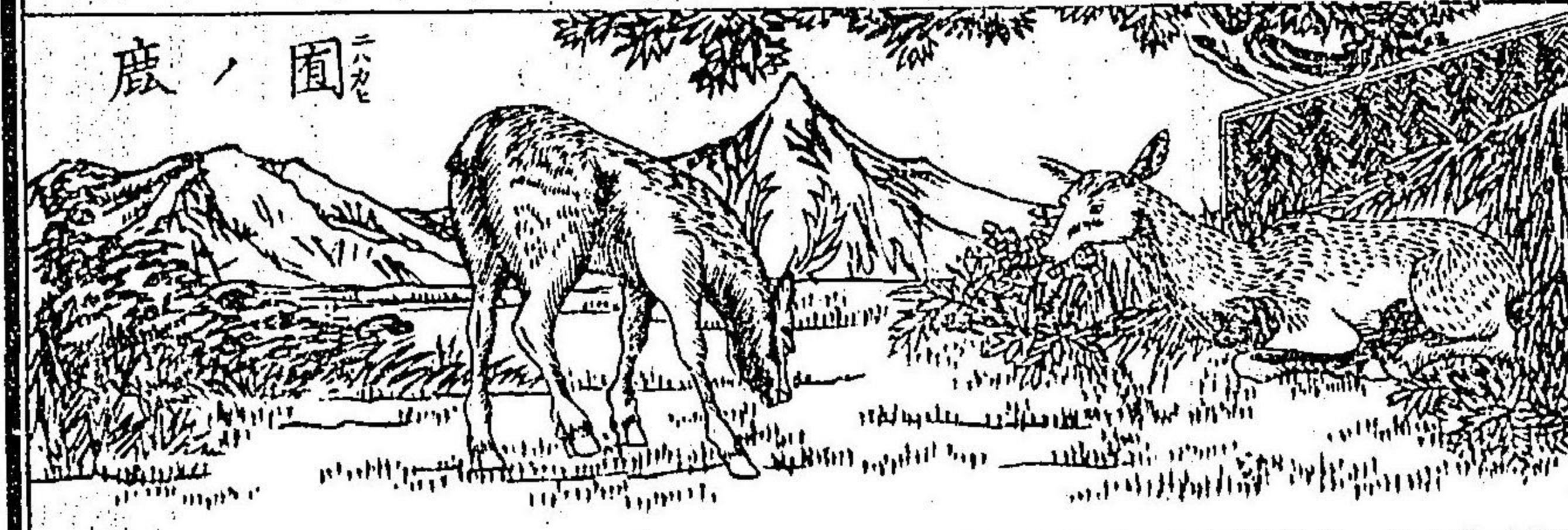
易ク俯シニ難シ、胎スル一年ニレテ子生ル
野ニ産レテ捕ヘ難シ、誠ニ麋類ノ特ト為ス、
夫レ鹿ハ北方ノ産ナリ、其性寒ニ耐ニ、北人
藉テ以テ工ヲ作ス、凡ソ冰雪上ニ車ヲ牽キ
荷ヲ負フハ、牛馬ノ及フ可キ所ニ非ザル者
アリ、且其筋ハ強ト作ス可シ、骨ハ器ト作ス
可シ、角ハ膠ヲ熬ル可シ、皮ハ服ヲ製ル可シ、
故ニ北人ノ諺ニ曰ク、家ニ五百ノ鹿アレバ、
錢財必ズ豊足スト、殆ンド南人ノ黒牡丹ニ
勝レリ、

凡各絲ヲ行胞中ヲ絲ト其其其一スノヲ蟲
 二合既出レアニ奇ナ三二一ル如說ノ為
 縷ノ一ス母管リ粘填多ハハヲキキ、為
 之ヲト出テ衆微絲左右ニ微管ヲ醇汁其腹
 出シ、右ノ縷分滋ノ腹結蜘蛛理、具此條

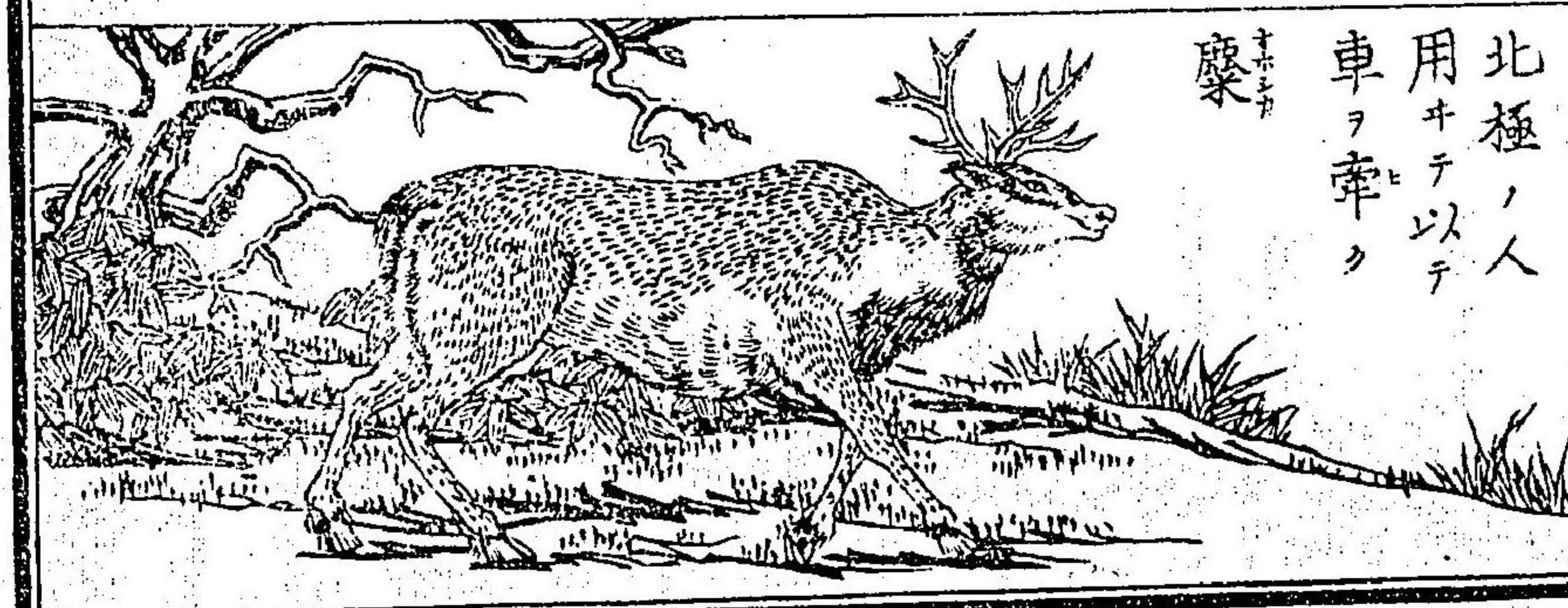
鹿錢金



鹿ノ園

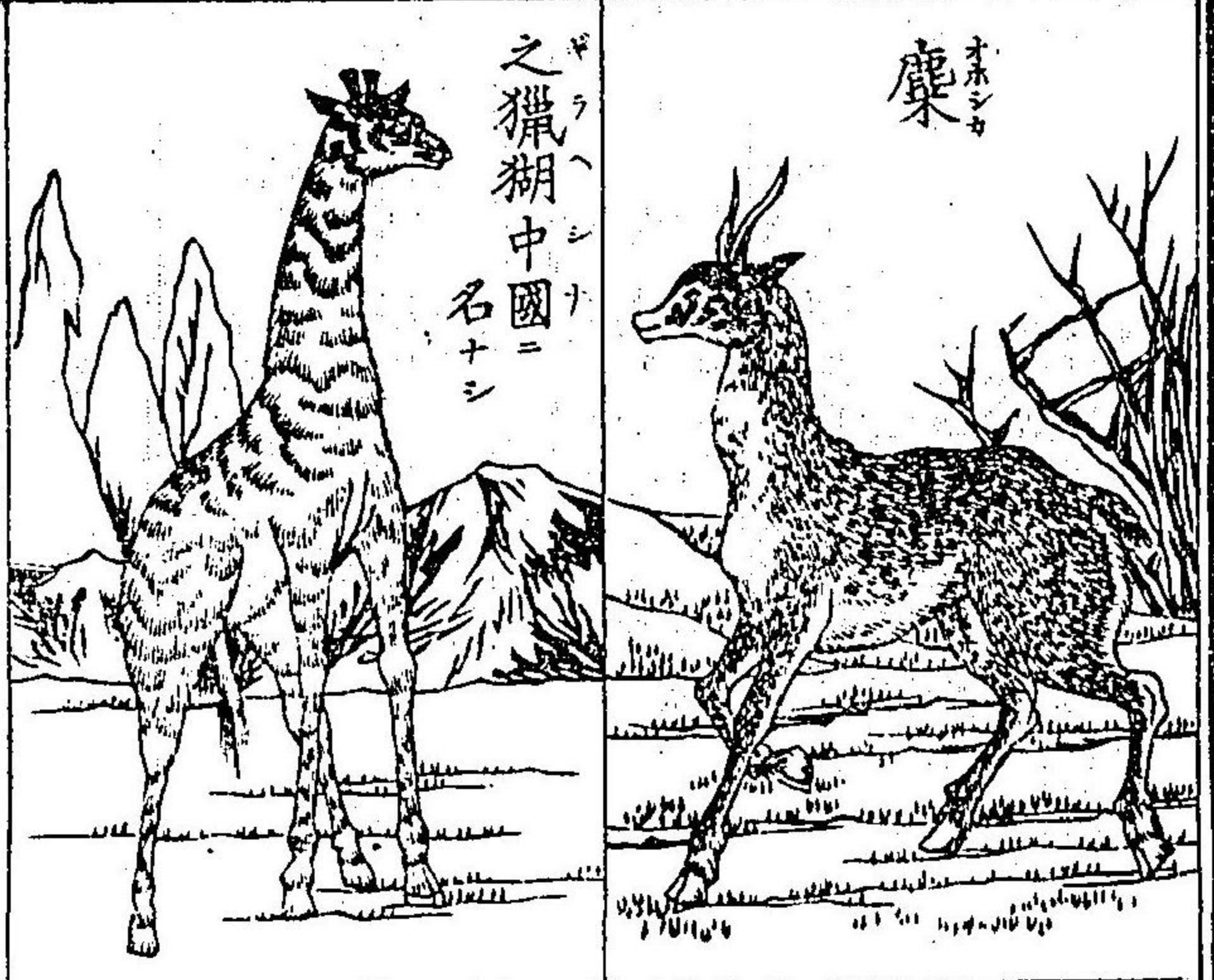


北極ノ人
 用キテ以テ
 車ヲ牽ク
 麋



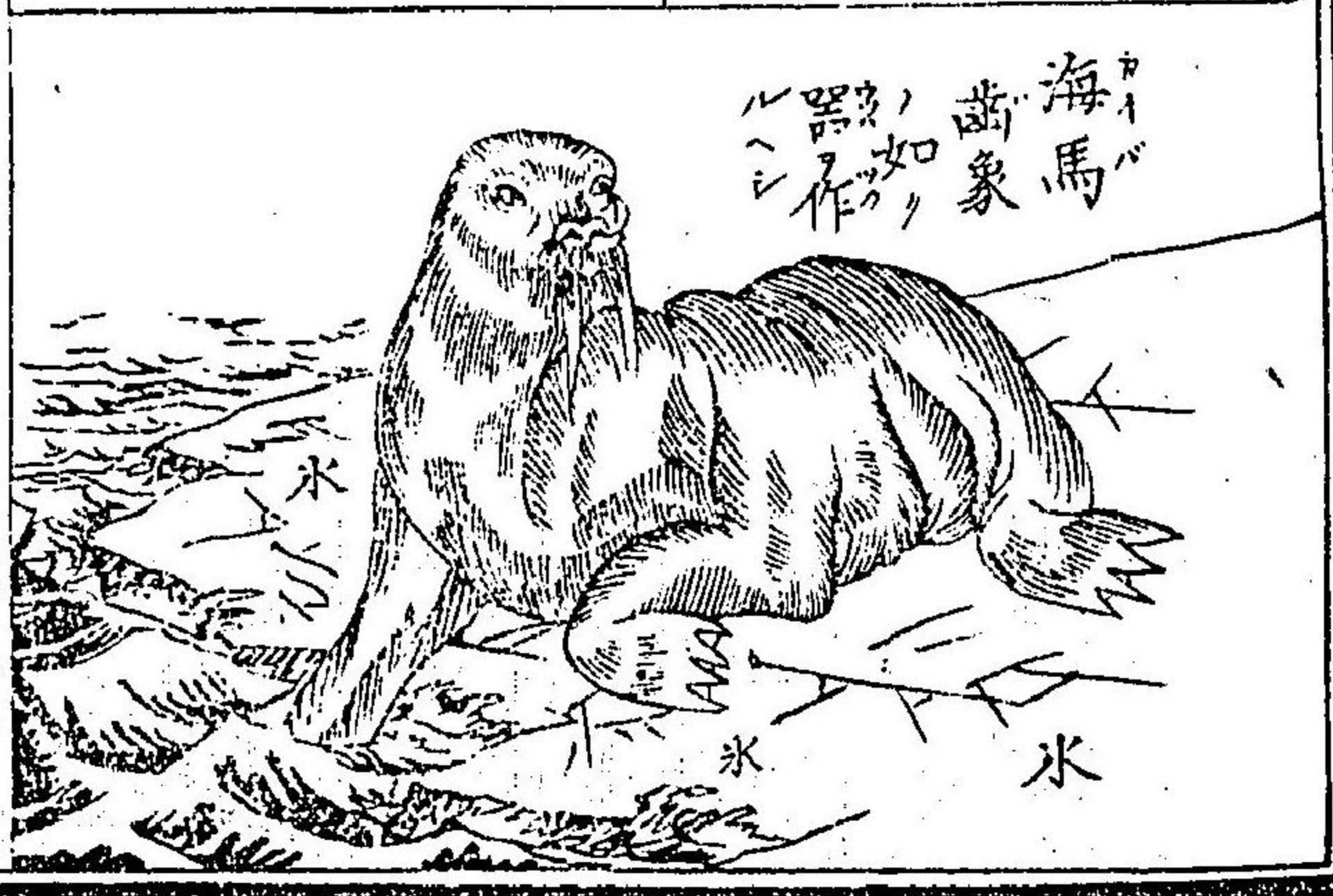
二縷復合ノ一ト
 ナル頭微鏡ヲ以
 テ其縷ヲ分ツニ
 五千アリ、是其左
 右ノ管各二千五
 百縷ヲ出シ、其網
 ヲ作ルニ及テ、先
 ツ厥地ヲ相シ、其
 網ヨリ位ヲ定ム、
 此ヨリ彼ニ達シ、
 十字ニ布置シ、或
 ハ四或ハ五、逐一
 排定ス、夫其作法
 ヲ易ヘ、先ツ其中
 心ニ緯結シ、心ヨ
 リ外ニ向ヒ、逐一
 加大ス、次ハ其外
 緯ヲ結ビ、亦内ヨ

胎生魚論 鯨魚



之獵湖中國ニ名ナシ

麋



海馬 齒如象 器如作

魚類皆卵ニテ生ル、鯨鯨江豚ハ則チ胎生ナ
 リ、口ニ鼻アリテ腹ニ肺アリ、胸ニ乳アリテ

サ外ニ向ヒ、逐一
加ス、其小大規
摸ハ、定則アリテ
易ラズ、後復、其作
法ヲ易ヘ、内ヨリ
外ニ達シ、其經線
ヲ補結メ、外ノ緯
線ニ至テ止ム、茲
ニ其未ク成ザル
網ヲ圖メ、之ヲ驗
ス、六圖ノ如シ、其
經線ヲ定ルノ始
メ、此ヨリ彼ニ達
ス、若干尺アリ、半
空著ルナシ、蛛果
メ何ニ憑テ來往
セシヤ、蛛往、非
レバ、蛛能ク線ヲ

皮ニ鱗ナシ、海底ニ涵淹スル能ハズ、刻々毎
トニ水面ニ出テ生氣ヲ呼吸ス、是水族中ノ
一種ニテ、未ダ鱗介ト比類ス可ラザルナリ、
北溟ニ魚アリ、其名フ鯢トナス、雄ヲ鯢ト曰
ヒテ、雌ヲ鯢ト曰フ、色黒クシテ牛ノ如ク、眼
細クシテ馬ノ如シ、睫ニ毛アリテ時ニ睡ル、
耳ハ孔アリテ輪廓ナシ、頰ノ骨網ノ如ク、牙
ナクシテ食ヲ嚼ム、一種亦牙アリ口瀾クシ
テ房ノ如ク、喉嚨極テ小ナリ、飢ルキハ口ヲ
張り以テ魚蝦ヲ撞ク、游フキハ群ヲ成シ波
浪ヲ吹ク、鼻ヲ以テ水ヲ噴胎ル一歳ニシテ

メ自ラ往レム、其
初メ一處ニ安居
ノ、自ラ其絲ヲ出
ズ、愈出テ愈長ク
漸ク逐テ前移シ
其向フ所ヲ定メ、
直ニ其定位ニ至
テ、粘附メ止ム、蛛
此時其絲ヲ引テ、
牢固ナルト否ト、
其身體ニ勝ルヤ
否ヲ試シ、如レ勝
ザレバ、再ビ其絲
ヲ出メ、其力ヲ増
益シ、再ヒ引テ之
ヲ試シ、再ヒ之ヲ
増出ス、務テ堅靱
ニメ絶ガラシム、

生ム、鯢ノ長サ一十有二尺、乳スル一年ニシ
テ長ス、二十餘年ヲ經テ始テ大ナリ、母ノ性
子ヲ愛シ、依傍シニ同シク游ズ、呼吸アリ、
鱗數里ニ開キ、一タビ浮起スル、毎ニ呼吸約
ル深ク數百丈、一タビ浮起スル、毎ニ呼吸約
ノ八九息、皮内ニ網脂一層アリ、深サ約ノ十
尺、曾テ一ノ孤鯢アリ、悞テ淺港ニ入ル、西人
殺シテ之ヲ量ル、首ヨリ尾ニ至ル、長サ七丈
六尺、胸ノ濶十四尺四寸、頭ノ長サ十七尺六
寸、脊骨六十二椎、脇骨ノ每邊十四肋、一肋每
トニ、長サ九尺六寸、翅ノ長サ一丈、尾尖ノ横

籠

頭

博物新編 卷四

昔シ人アリ、謂フ其絲ノ出ルヤ、風ノ飄シ引ニ任ス。ト、理アルニ似タリ、格物先生アリ、心ヲ存シ時ヲ歴テ、細ニ其詳ナルヲ稽ヘ、蜘蛛ノ其絲ヲ出スヲ見ルニ、或ハ東或ハ西、平斜上下、直行前去、風ヲ迎フト雖、亦阻スルナシ、此其事實ニ之ヲ解メ、解スヘキナシ、恐ハ電氣ニ由テ來ルカ、獨リ是蜘蛛ノミ、孰カ

濶一丈八尺、骨ノ重サ三十五敦每敦五百二十、重サ八十五敦、骨肉皮血共ニ重サ二百四十九敦、脂油約ソ三十敦ヲ得ル、水族衆類固ヨリ鯨魚ヲ以テ最モ大ナリトス、即チ地上ノ衆生モ、亦當サニ鯨魚ヲ以テ最モ大ナリトス、然レモ莊子ニ鯨ノ大ナル其幾千里ヲ知ラズト謂フ、蓋シ亦滑誓ノ言ナルノミ、近年英吉利、花旗國人、多ク鯨ヲ打テ油ヲ取ルヲ以テ業トナス、其人大船ニ駕シ、北海ニ漂遊シ、日一人ヲシテ桅ニ上リ、千里鏡ノ以テ窺探セシメ、鯨ノ起キルアルヲ見レバ、即チ

之ニ食ヲ取ント欲セバ、網ヲ結テ待ツト、網ヲ執ルカ之ニ網式ハ方ニ宜シカヲ、圓ニ宜キヲ教ル、孰カ之ニ網ヲ界スルノ網、或ハ四或ハ五、其相間スルハ、近遠毫髪モ異ナラザルヲ教ル、一ニ弧角法ニ明ニ、亦弧角法ヲ用ルノ器ニ明ナル者ニ似タリ、又孰カ之ニ經緯布置シ、内外整齊スルヲ知ルヲ教ルヤ、

數三ノ板艇ヲ放チテ追尋ス、艇毎トニ七八人、繩釣標等ノ事ヲ備ヘ、帶ヒ、槳ヲ掉シテ直ニ魚ノ所ニ至リ、密ニ鯨ノ起テ伺ヒ、即チ鈎標ヲ以テ、力メテ其項ヲ刺ス、鯨痛ノ負ヒ標ヲ帶テ沉ム、標落テ繩モ亦落ツ、既ニ落テ復起ノ、既ニ起テ復標ス、旁テ繩ヲ落スノ處、二人ヲシテ濇ヲ定メ、守望セシメ、一ハ水ヲ澆ギ、一ハ刀ヲ持ツ、蓋シ繩落ル急ニシテ、激熱シテ火ヲ成シ、一ヲ恐レ、又繩ノ粗アリテ船ヲ連テ亦沈ムヲ恐レ、則チ刀ヲ持ツ者、即チ繩ヲ断テ之ヲ離シテ落去ラシムルナリ、

其最モ奇ナル一
蜘蛛アリ、其窩水
草ノ根ニ依ル形
覆鈴ノ如シ、大サ
鵠卵ノ如シ、其戸
地ニアリ、亦絲ヲ
以テ結成ス、甚タ
密緻ニメ、亦光ヲ
透ス、素紗等ノ
如シ、水入ル能ハ
ズ、亦其絲ヲ以テ、
草根ニ連綴ス、窩
既ニ完結シ、蜘蛛
中ニ居リ、首ヲ戸
外ニ出メ、水物来
リ過ルヲ視、捉テ
之ヲ食フ、然レモ猶
二難アリ、一ハ其

夫ノ鯨巨物ト雖、困ニ極レバ倦ル、倦レ極
レハ浮ム、是ニ由テ艇ヲ縱チ其之ク所ニ隨
ヒ、各鎗又ヲ以テ之ヲ刺シテ斃レシメ、海
水盡ク赤シ、乃チ繩纜ヲ以テ大船ノ旁ニ繫
帯シ、其皮ヲ剥ギ其脂ヲ掘リ、漁父各々釘履
ヲ躡レテ入り、往來搬運ス、脂盡テ始テ離シ
テ去ル、一ノ漁船アリ、曾テ四十四鯨ヲ殺ス、
前後ニ利ヲ獲ル數十方ヲ以テ計ス、云ニ據
レバ鯨ノカラ尾ニ在リ、奮怒シテ一掉スレ
バ、船之ガ為ニ破レ、艇之ガ為ニ沉ムト亦險
ナルカナ、

窩初テ成ルニ、内
水ノ満ガハ能ハ
ズ、其ヲ以テ其水
出ダス、二ハ蜘蛛
陸地ニ結網スル
蜘蛛ト同ク、肺ヲ
リテ空氣ノ吸テ、
自養ス、其水ニ在
ルハ、奚ヲ以テ空
氣ヲ吸フヲ得ル
ヤ、窩既ニ成バ、蛛
水面ニ浮ミ、身ヲ
翻メ上ニ向ヒ、仰
テ空氣ヲ吸ヒ、務
テ其腹ニ満テ、水
ノ深キニ潜ミ、其腹
ノ空氣ヲ出シ、
泡ヲ作り、其窩戸

鷹類論

鷹ニ數種アリ、鳥中ノ虎ナリ、食ノ所惟肉嘴
爪甚ク雄ナリ、翼長クシテ能ク高飛ス、目ハ
利クシテ鼻ニ善ク嗅グ、一類アリ熱地ニ産
ス、專テ死尸腐肉ヲ食フ、名ケテ鷲鳥ト曰ス、
項ノ上ニ毛ナク、項ノ下ニ茸ノ領アリ、狀ト
披肩ノ若シ、身ノ長サ三尺、翼ノ長サ八尺、遍
體毛羽甚ク密ナリ、性痛ヲ耐ヘテ死シ難シ、
子ニ餌ノ毎トニ、餌ヲ吐テ之ニ哺ス、天竺ノ
人死レテ葬ラズ、常ニ海ニ浮ベ以テ鷲ノ腹
ニ飽シム、飢タル鷲恆ニ飽マデ啖クテ飛能

ヨリ送入シ其氣
泡ヲ以テ若干ノ
水ヲ擠出ス此ノ
如ク百餘回スレ
ハ空氣其窩ニ滿
ナ水盡ク出ツ窩
既ニ空氣ヲ實レ
ハ蜘蛛其中ニ居
ル一室ノ如シ
其二虫アリ蚊蚋
ニ類ス其子虫ヲ
生ズル水面ニ宜
シ故ニ其大ナル
者卵ヲ生ム時水
面ヲ飛行シ水草
或ハ浮柴ニ依ル
前四足立チ後二
足ハ空ニ交錯シ

ハス又一種アリ冷地ニ産ス性能ク寒ニ耐
ニ嘴ヨリ尾ニ至ルマデ四尺ヨリ長シ横ニ
兩翼ヲ展レバ幾シト一丈ニ及ブ目最モ靈
ク能ク日ヲ視テ眩ズ嘴ニ曲鉤アリ巢ヲ作
ルニ利ナラス毎ニ禽畜魚鱉ヲ攫ル肉ハ鮮
ヲ食フテ腐スルヲ食ハズ足ノカラ甚ダ大
ナリ常ニ能ク物ヲ抓ミテ高ク飛ブ蛋ヲ生
ムハ岬岬ノ上ニ于テ之ヲ抱ス名ツケテ
神鷹ト曰フ鵠ト曰ヒ鷗ト曰ヒ隼ト曰ヒ鴟
ト曰ヒ鳩ト曰ヒ鵙ト曰フ皆一類ナリ惟狀
類ト大小トヲ以テ其名ヲ別ツ嘗テ孩子ア

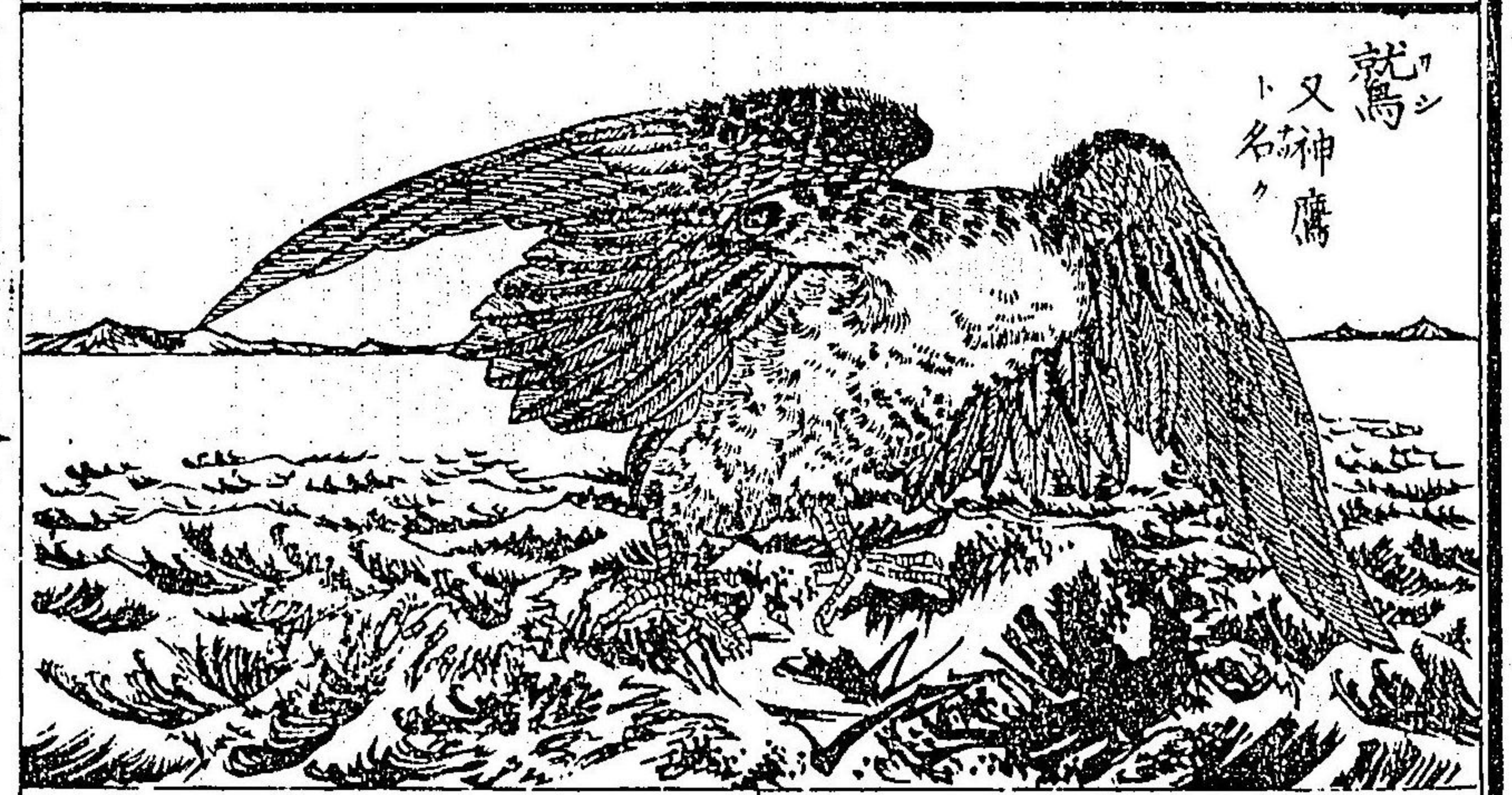
一卵ヲ遺シ其膠
中ノ液ヲ以テ膠
レ其首ノ卵ヲノ
下シメシメス二
ヨリメニ二ヨリ
メ三置クニ三角
式ヲ以テス此後
層ヲ逐テ粘連シ
卵漸ク増レ漸ク
推メ後水ニ向フ
卵ノ數約ネ二百
五十ヨリ三百ニ
至テ止ム其始マ
行ヲ逐テ加増シ
其末マ行ヲ逐テ
漸ク減ス數各定
アリ其成マ中潤
ノ低レ兩端銳ニ

リ山邊ニ在テ耍玩忽チ巨鵬ノ之ヲ抓テ去
ニ遇フ飛テ半空ニ至ルニ猶孩子ノ呼叫ヲ
聞ケリ其母痛ミ骨髓ニ切り遙カニ巨鵬ヲ
視レバ兒ヲ絶嘸ノ上ニ置ケリ巖峴千仞ニ
シテ如何トス可キ中ニ勇者アリ力ヲ極
テ振縁スレ氏竟ニ半山ニ至ツテ返ル其母急
リ自ラ顧ミズ遂ニ茅ヲ披キ險ヲ履ミ直ニ
山ノ巔ニ抵ルニ果シテ其兒ノ骨朶ノ中ニ
卧スルヲ見ル血衣模糊トシテ悲啼絶ント
ス乃チ懷ニ抱テ下リ果シテ生存スルヲ
獲タリ又一種アリ鴟ト曰ヒ鴟鵂ト曰ヒ角

ノ高シ、宛モ一小舟擁ノ水面ニ浮ヘ、舎テ去ル如シ其異ナル一卵浮載スル能ハズ必ズ沉ムヘシ故ニ其腹中ノ液ヲ出シ、卵ニ膠附ス、縦ヘ上ヨリ水ヲ傾ルモ亦沉マザル、浮槎ノ如シ亦復覆スト能ハズ、之ヲ覆ヘハ速ニ自ラ起ク、實ニ奇ナラスヤ、其三ハ蝗虫アリ、古ノ時必ズ之アリ考究セズ近ク一

千 鳩ト曰フ、耳善ク静ナルニ聴キ、目善ク夜ヲ視ル、飛グ快クメ聲ナシ、専ラ鼠兔ヲ食フ、日間ハ樹孔破屋ノ中ニ伏シ、夜深テ鳴啼ス、聲ノ如シ、之ヲ聽ケバ人心ヲメ恐レシム、俗ニ謂フ病者此聲ヲ聞ケバ必ズ死スト、縦靈驗アルモ當ニ亦偶然ノ事ナル可ク断テ一鳥ノ能ク人命ヲ鳴却スベキ者ニ非ズ、然レ其聲慘ニメ哀シ、平人スラ猶聞クヲ樂マズ、而レテ況ヤ病体昏沉ノ時ニ於テヤ、凡テ田場穀倉ノ處ニハ、又須ク此ニ藉テ以テ鼠ヲ除ヘシ、是又鳥中ノ尤用アル者ナリ

八百十七年アリ、又同ク三十四年、又之アリ、中十七年ノ久キヲ徑ル、其時ニ當テ、此虫如何レヨリメ來リ、如何シメ生ズ、末ダ其原由ヲ知ル者アラザルヨリ、格物先生因テ心ヲ彈シ、細ニ考テ、始テ其詳ナルヲ得タリ、モト其始生ノ形ハ小虫ニ類ス、色ハ黒紫ニラズ、是黒紫ニモ蝸牛ニ比ス、前身只二足アリテ



鶯
又神鷹
ト名ク



鶯ノ爪



鶯ノ嘴

蜎ノ如ク爬行シ、
 行テ樹下ニ至リ、
 木ニ縁テ上行ス、
 一ニ尺ノ高キニ
 過キズ、便チ此ニ
 徒シ、陡然トメ全
 身驚動シ、驚動頻
 リニ仍リ、戦兢ア
 ルカニ如シ、少ク體
 質ノ改變スルヲ
 待テ、將ニ原皮ヲ
 退ケントス、先ツ
 領後ヨリ、豎ニ一
 縫ヲ裂キ、初次脊
 出シ、二次尾出シ、
 三次後腿出テ、四
 次兩翼出ツ、翼必
 ル甚ク難シ、翼出



鶉鳥



角鴞



鳴怪



雪鴞
北方ニ
産ス

無翼禽論

禽本翼アリ、空ニ翔ル者ヲ飛禽トナシ、地ニ
 走ル者ヲ家禽トナス、唯一種羽アリテ翼ナ
 キ者、沙漠曠野ノ地ニ産ス、嘴鈍シテカラナ
 ク、日ニ穀實果蔬ヲ食フ、頸腿並ニ長シ、蹄ニ
 二ノ趾アリテ駝ノ如シ、健カニ歩シ疾ク走
 リ、馬モ及ブ能ハズ、怒リ闘フニ蹄ヲ以テ相
 蹠、蹠ス、物ノ追逐スルニ遇ヘバ、即チ足ヲ以
 テ砂石ヲ抓キ力ノ後ニ擲ク、勢ニ砲碼弓
 彈ノ如ク、受ル者ハ輒チ傷ク、味鈍ニ目大ニ、
 毛片鬆茸ニシテ、性頗ル頑鈍ナリ、一種アリ

ズ須ラク久ク待
 ツベシ、首始テ出
 テ、全身畢ク露ハ
 ル、體質備ハルト
 雖、氏軟弱ニモ力
 ナシ、歩履艱難且
 ヲ行キ且ツ止リ、
 止ル處ヲ得ルニ
 至テ、以テ左右ヲ
 望ミ、怪異ノ意ヲ
 ルカニ如シ、兩眼昏
 昧ニモ明カナラ
 ス、太陽ノ愈上ル
 ヲ待テ、精神愈爽
 カナリ、腿ノ力量
 儘アリ、跳ニメ行
 ク、眼晴ノ色深紅
 ニ變シ、全身黄ニ

變ス、明朗觀レヘ
ニ、兩翼光亮、玻璃
ニ似タル者ノ如
シ、翼ノ中間、豎ニ
一ノ太筋アリ、經
ヲナス、横ニ衆小
筋アリテ、緯ヲト
ス、紗羅ニ似タル
者ノ如シ、日午ノ
時ニ至ルヲ待テ、
蟲ノ公ナル者能
ク鳴ク、是ヨリ先
最小ノ聲漸ク以
テ大ナリ、彼此皆
鳴、東西南北到
ル處、互ニ鳴ク、聲
音紗羅、喉啞ノ如
ク、亮カナラ

亞非利加洲ニ産ス、土ニ駝鳥ト名ツク、其毛
甚ダ珍貴ニシテ、一羽數金ニ値ル可シ、處ル
毎トニ羣ヲ成シ、一雄ニシテ數雌アリ、皆窠
ヲ同フシテ棲宿ス、一窠ニ常ニ數十蛋アリ
三十ヨリ六
十ニ至ル、抱
テ四十日ニシテ雛生ル、或ハ
其蛋日ノ熱ヲ借テ成リ、翼抱テ須ヒク其窠
ノ辺另ニ數十ノ蛋アリ、雛出レハ啄ミ食ヒ
テ自ラ之一蛋ノ重サ約ソ七十餘兩ヲ得、殼
ヲ養フクレテ硬ク、以テ盃ヲ製ル可シ、土人
之ヲ獵スルノ法、或ハ駿馬ニ騎テ之レヲ馳
射シ、或ハ其毛殼ヲ服テ近ツキ之ヲ捉メ、鳥
ノ身約ソ高七八尺養ツテ馴熟セシメ、以テ

ス、是ニ於テ來來
往往、且ツ飛ヒ、且
ツ鳴キ、飛鳴ノ止
マズ、來往ノ断ヘ
ノ、甚ダ慌忙ノ意
ノ如シ、三四日ヲ
逾ルノ外、蟲ノ母
ナル者卵ヲ遺ス、
母蟲ノ腹後、二ノ
小足アリ、足ニ小
齒アリ、鋸ノ如シ、
卵ヲ遺サント欲
スルノ時、飛テ樹
梢ノ小枝ニ於テ、
先ツ其足齒ヲ用
テ、樹枝ニ一ノ空
隙ヲ磋シ、卵ヲ其
中ニ遺シ、其數ニ

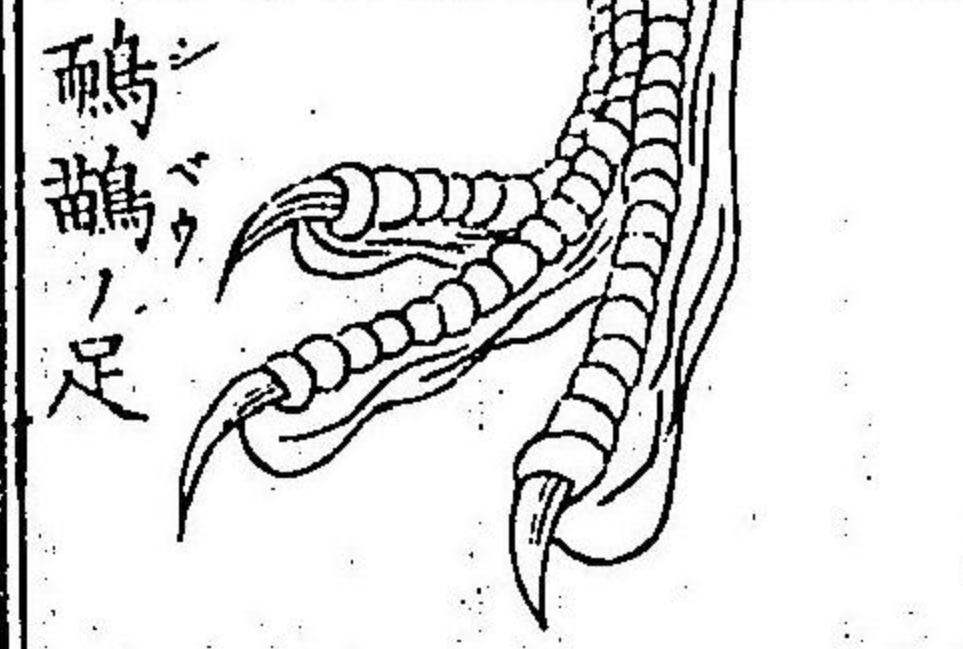
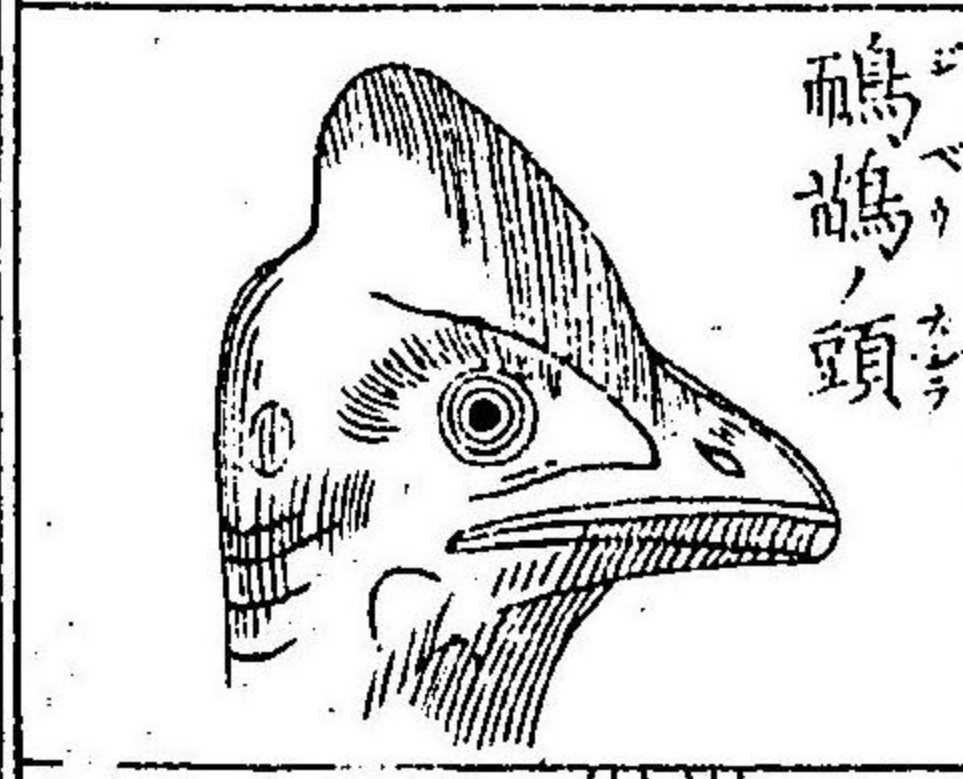
騎テ驟馬ニ代ル可シ、又一種ノ鴈ト曰フ、
葛羅巴、澳大里亞、波羅洲ノ地ニ産ス、足ニ三
ノ趾アリ、駝鳥ニ比レハ略細シ、身ノ高五六
尺、一窠ニ七八ノ蛋アリ、其行走食物駝鳥ト
同シ、間マ骨髻アリ、類ホ朱頂ノ鶴ノ如シ、又
一種ト一鳴、駝鳥ト名ツク、獨リ澳大里亞ニ産
ス、前十餘年人始メテ是ノ鳥アルノ識ル、喙
邊ノ鬚、豎テ戟ノ如シ、嘴尖テ長ク、端ニ鐵鉤
アリテ、鈎ノ如シ、頭細ク目小ニ、足長クシテ
走ル疾シ、夜出テ、食ヲ覓ム、光ニ遇トキハ
目盲レテ物ヲ見ズ、足踏ノ力ヲ甚ダ猛シ、喜

盈レバ、再クヒ一
 小枝ノ尋ル、前
 ノ如シ、其卵遺メ
 枝ノ内ニアリ、一
 一行ヲ成テ、茶
 ス、個個擺列メ、勻
 一、又、其數ノ盈
 停ス、及テ、俱ニ腹
 ルニ、及テ、俱ニ腹
 後ノ齒足ヲ用ヒ、
 卵アル枝ヲ將テ、
 下邊ニ一口ヲ磋
 シ、日久クメ、枝乾
 キ、風ニ吹キ、動サ
 ヲ、折落メ、地ニア
 リ、其卵土氣ノ沾
 ヲ得テ、此時ニ至
 天、蟲ノ公ナル者
 鳴カス、力氣日ニ

ンテ、蚯蚓ヲ食フ、土人其肉ヲ取リ、饌ト作ス、
 味ヒ、鷄鶩ノ如クニシテ、鮮野ナリ

涉水鳥

鵞鵝、屬頸足皆長シ、水ヲ涉ルニ利シ、其類
 數種アリ、大小長短、其形ヲ一ニセズ、毎ニ水
 濱ニ于テ、魚蝦ヲ伺ヒ、啄ム、嘴長クシテ、利シ、
 魚ノ體滑ナリト雖、亦能ク脱ル、ナシ、



南洋
洲島ニ産ス

鵞鵝

鵞鵝ノ頭

鵞鵝ノ足

減メ、朗色全ク退
 晴、暗メ見ヘス、地
 二、墜落メ、死ス、母
 中、亦然リ、其卵坭
 中ニアル者、又盡
 生シ、遍地皆是、ナ
 人、轉瞬ノ間、都テ
 地、中ニ入ル、愈入
 リ、愈深シ、八尺十
 尺、等シカラス、是
 二、於テ、耕地、鋪道
 二、論ナク、房屋ヲ
 修蓋シ、基址ヲ挑
 取スル者、皆妨ケ
 ナシ、再々ヒ十七
 年、五月間ヲ歴テ
 或ハ道上、或ハ房

假鵞鳥
以テ
真鵞
捉ヲ



駝鳥

髻鵞
長三尺餘
非利加ニ産ス



亞非利加鵞鵝



基ノ下、或ハ石縫
 ノ中、一遺サス、
 全數盡ク出ツ、後
 又五十一、年之テ
 リ、六十八、年亦之
 アリ、此、蟲ノ生、十
 二日、十五、日ニ過
 キズ、十七、年ノ久
 キヲ待テ、地ニア
 ル、六千二百五
 日ニメ、始テ復生
 ス、人ノ世ニアル、
 四十、五、十八、九
 十、歳ノ等、レカラ
 サルモ、地ニ下ニ葬
 リテ、應ニ三四、万
 年ヲ待テ、亦復活
 ス、ト宜ナルカナ、



鶴



鶴ノ類
西人呼
トナ
トナ
トナ

博物新編講義卷之四 終

明治九年三月七日版權免許

定國造一圖

講義人

東京府平民

近藤圭造

第六大區一小區

深川富岡門前丁七十番地

出版人

阪上半七

第一大區六小區

吳服丁十二番地

全

青山清吉

第四大區三小區

小石川大門丁廿二番地

